肖振

40号 2021年12月

福岡歯科大学同窓会

《巻頭フォト》

『日田祇園の男たち』

日田祇園祭りでは、重さが３～５トン、高さが約６～11m もある９基の山鉾が町内を巡行します。この大きくて重い山鉾が、町内を練り歩く道中の街かどで、方向転換する作業を「腰切り」と言い、前方の２本の舁き棒に３人ずつ男衆が付き、この６人が渾身の力で山鉾を持ち上げ、横に引き廻して進行方向を変えます。

作品はその瞬間の男衆たちの表情を狙って写したもので、力感を強調したいと思い、モノクロームで仕上げました。今年も入選を目指して県展に応募したところ、賞まで頂き吃驚しています。

この作品の掲載にあたり、第９期の卒業で二科会写真部会員の尾崎浩史先生から、ご推薦を頂いたと伺いました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

令和３年度 第 76 回福岡県美術展 入選 朝倉市長賞受賞

福岡市　羽生 哲也（名誉教授）

撮影日：2017 年５月 14 日
カメラ：PENTAX K-5　ズーム 18~250 mm（65mm）
露出ｆ：11　1/400　ISO：400　W/B 太陽光

「表紙題字：故　松本洋一名誉学長　書」

■ 目　　次 ■

巻　頭　言	「創業と守勢」	福岡歯科大学同窓会会長	吉永　修	1
挨　　拶	「ご挨拶」	学校法人福岡学園理事長	水田祥代	2
〃	「ご挨拶」	福岡歯科大学学長	髙橋　裕	4
就任挨拶	「参議院議員就任のご挨拶」	参議院議員	比嘉奈津美	5
〃	「教授就任のご挨拶」	放射線診断学分野教授	川波　哲	6
退職挨拶	「教授退職のご挨拶」	歯科保存学分野教授	阿南　壽	7
〃	「41年間の教員生活が終わりました！」	成育小児歯科学分野教授	尾崎正雄	8
〃	「定年退職にあたって」	麻酔管理学分野教授	谷口省吾	10
〃	「教授退職のご挨拶」	口腔健康科学分野教授	埴岡　隆	11
〃	「教授退職のご挨拶」	眼科学分野教授	川野庸一	13
〃	「教授退職のご挨拶」	整形外科学分野教授	井上敏生	14
〃	「退職挨拶」	病態構造学分野教授	橋本修一	15
〃	「教授退職を迎えて」	細胞生理学分野教授	岡部幸司	16
分野紹介	「少数精鋭」	口腔腫瘍学分野准教授	橋本憲一郎	18
学会報告	「第47回福岡歯科大学学会総会・学術大会を主宰して」	福岡歯科大学学会大会長	埴岡　隆	19
府県同窓会だより	「熊本県同窓会長就任のご挨拶」	熊本県同窓会会長	渡辺猛士	20
〃	「会長就任のご挨拶」	岡山県同窓会会長	平　和義	21
〃	「うどん県（香川県）同窓会会長就任のご挨拶」	香川県同窓会会長	濱岡宏典	21
〃	「支部会長就任挨拶」	京滋同窓会会長	金谷　徹	22
〃	「愛媛県同窓会会長就任あいさつ」	愛媛県同窓会会長	小林　悟	22
誌上講座	「前歯部インプラント治療について」	口腔インプラント学分野助教	柳　　東	23
学生だより	「新しい学生生活」	総務委員長	田中弥秀	29
〃	「夕焼けに染まる棚田」		福田　光	29
Ｗａｔｃｈ	「リーダーシップ」	米国ワシントン州開業医勤務	片渕三千綱	30
〃	「卒業31年目の挑戦」	佐賀県開業　久野歯科医院	久野麻弓	31
学園通信	福岡学園はいま		学園企画課	32
ＯＢ会だより	柔道部OB会「我々はレジェンドとなりえたのか？」	柔道部OB会会長	野田大三	41
トーク＆ＮＯＷ	「補綴とカーリング精神」	長谷歯科医院（兵庫県）副院長	長谷英明	42
〃	「卒後の今」		江﨑真奈美	43
〃	「卒後の歩み」	矢野歯科医院（高知県）	矢野宗憲	44
親子で頑張る同窓生	「親目線、子目線」		林あつ子／林　周季	45
〃	「今後とも宜しくお願い申し上げます」		山本順一／山本健一朗	46
〃	「これからも宜しくお願いします」		吉川英治／吉川かりん	47
昇格・学位取得者紹介				48
本部会務報告	第68回全国歯科大学同窓・校友会懇話会全歯懇報告		秋山達也	52
〃	12校会議報告		秋山達也	52
〃	福祉厚生委員会		俣野正仁	52
〃	会計からのお願い		浦　嘉訓	53
〃	第33回学術講演会・2021年臨床スキルアップセミナー		松永興昌	53
〃	ご逝去のお知らせ			55
〃	福岡学園・福岡歯科大学創立50周年記念「50周年を祝って」		髙嶺明彦	56
〃	令和２年度第43回定時総会（書面報告）			57
福岡歯科大学同窓会役員名簿				62
会務報告				65
会計報告				67
福岡歯科大学同窓会会則・諸規則				72
編集後記			香川豊宏	87

《巻頭言》

「創業と守勢」

福岡歯科大学同窓会
会　長　**吉永　　修**

私が同窓会会長になり、早一期（２年）が過ぎようとしています。私が仕事を始めた２月に新型コロナウイルス感染症が流行し、従来の理事会・評議員会・総会など何もできないまま今日に至りました。しかし、コロナ禍でしかできないこともあるのではないかと考え、昨年７月よりWebにて常務理事会を月に一度行うようにしました。その結果、同窓会の仕事内容を全体的に把握でき、情報を本部役員みんなで共有することができるようになりました。また、今年度から各同窓会支部長および理事にオブザーバーとして参加していただいています。さらに各委員会は委員会が独自に事業活動、予算を考え、各支部と協力して活動の活性化を本部とともに果たしていこうと考えています。

その結果、学術ではWebを活用したハイブリッド講演会、６月から来年の２月まで計４回に分けたwebオンデマンド形式による臨床スキルアップセミナー開催、また第34回学術講演会令和４年２月27日にテーマ「歯内療法ベーシック抜髄、感染根幹治療」を計画しております。福祉厚生委員会では相次ぐ災害に迅速対応できるように災害対策連絡網の整備が整い、８月の線状降水帯の被害に対して全国の同窓生の被害に迅速に対応することができました。広報委員会では、『ソフィア』、『季節風』、『背振』などの機関誌の発行に加え今年度中に名簿作成を企画しております。企画情報委員会では総会の報告メルマガ作成に加えホームページの作成を検討しています。会計委員会では学術講演会の支払いや会費納入に九州カードを使用したクレジット決済できるようにしました。これまで府県同窓会費一括納入以外の一般会員からの会費支払方法は郵便局振り込みを利用していましたが、今後会員の利便性と会員増強を見据え、ネット上でPC、スマホなどクレジット決済を加えました。また今まではほぼボランティアであり、交通費しか出なかった会議費用弁償も少し会議費として捻出できるように検討しています。組織委員会では会則の見直しを中心に検討しています。総務委員会では、コロナ禍で会議開催できなかったので各大学にアンケートを実施しました。お互いの連携を密にし、状況の把握と積極的な交流を図りました。学内同窓会会長都築教授を中心に大学の若手教員の研究支援「同窓会研究費助成金制度」を創設し、大学若手教員の研究意欲を育成支援したく、現在選考を行っております。対象項目内容はａ）研究助成金（上限50万円）　ｂ）研究奨励賞　ｃ）旅費援助金　ｄ）留学援助金です。

同窓会は1979年に発足して42年、初代会長 松尾康昭先生、二代目会長 宮口嚴先生が同窓会の基礎を築き今日に至っています。創業時は大変な苦労があったことを聞いています。先輩たちが創り上げた同窓会をさらに発展させ、時代に適応させていくのが私の役割と自負しています。

学校法人福岡学園（福岡歯科大学）、他大学同窓会との友好な協力関係を維持しつつ同窓生（開業医、勤務医、大学関係者など）のために何が必要であるかを考え、できることから一つずつ行っていこうと考えています。そのためには各府県同窓会の会長をはじめ役員の先生方の声にも耳を傾け、同窓生が何を望んでいるのかを知ることが重要であります。

しかし、私を中心とした同窓会本部だけでは実現可能にすることは困難であります。各府県同窓会の先生方の協力があってこそ実現可能にすることができるのです。どうぞ素晴らしい意義ある同窓会を創りあげ、後輩のさらなる活躍を支援するためにご協力をよろしくお願いします。

「ご 挨 拶」

学校法人福岡学園
理事長　**水田 祥代**

福岡歯科大学同窓会の皆さまにおかれましては、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

今年も昨年から続いている新型コロナウイルス感染症拡大で想定外のことが次々に起こり、３月の卒業式や４月の入学式は規模を縮小して行いましたが、５月の体育祭や８月のオールデンタル、10月の学園祭も中止となりました。しかし、ワクチン接種は全学生を含め希望者全員に終わり、授業は対面とオンラインを組み合わせたハイブリッド方式で行っています。この間、学生たちの不安をはじめ、教職員の負担など、多くのことへの影響の範囲も大きく、疾風怒涛の日々はまだ続いております。

そのような毎日の中で、明るいニュースとして昨年９月に開院した新福岡歯科大学医科歯科総合病院は、少しずつですが患者数も増えております。ブルーの市松模様の病院の外観は昼も素晴らしいものですが、夜の明かりの下ではもっと素晴らしいものとなります（しかし、夜間は節電のために８時までしか灯りはついていません)。新病院には256列の最新のCTや1.5テスラであったMRIを最新の3.0テスラに更新した画像診断機器を導入し、より高画質での撮影が可能となったほか、撮影スピードも向上し、患者さんの負担軽減につながっています。近隣の病院からの撮影依頼も受け付けています。また、今までは歯科放射線科のみでしたが、令和３年４月１日から医科放射線科も開設し、専門の医師が着任しています。

健診センターも少しずつ希望者が増えていて、評判も良いのですが、歯科検診の概念が一般の方たちには未だ行き渡っていないようで、これを広めたいと思っています。

皆様からのご寄付で建設中の50周年記念講堂も、大分姿を現しています。来年６月の竣工が楽しみです。

一方で暗いニュースとして、学生の入学定員未充足の問題があげられます。学生数が減りますと学納金が減ります。私たちの福岡学園は学生の学納金で運営されていますので、この未充足問題は大きいのです。どれくらい減っているかと申しますと、定員96名に対して令和元年度は85名、充足率88.5%、令和２年度は89名で充足率91.7%、令和３年度は入学者71名で充足率74%でした。この状況が続きますと、６年間で約10億円の学納金が入ってこなくなります。その上、志望者が減るとついつい成績の悪い学生も入れてしまいがちです。すると更に国家試験の合格率は悪くなるという負のスパイラルに陥ります。

同窓生の皆様は国家試験の成績の悪い大学にはご子息を入学させたくないと思っていらっしゃることでしょう。実際、つい先日行われた入学試験で、８人の受験者のうち同窓生のご子息は一人も居りませんでした。がっかりいたしました。なぜ皆様方の優秀なご子息やご息女を母校の福岡歯科大学に入れて国家試験合格率を上げようという逆の発想をしていただけないのでしょうか。よろしくお願いいたします。

髙橋学長や学生部長の稲井教授をはじめ、教職員は一丸となって頑張ってくれています。何が足りないのかということも、学生一人一人について検討しています。

最近、髙橋学長や稲井学生部長達と私との合言葉は、「理系女をねらえ！」です。

理系女とは薬学部や理学部の女性と思われがちですが、歯学部も当然入れるべきです。福岡歯科大学の学生の女性比率は35～40％です。女性学生のストレート卒業試験合格率や、ストレート国家試験合格率は男子学生に比べて高くなっています。近年は大学院入学者のうち、本学出身の女性が占める割合が高くなっています。また、本学出身の女性教員の割合も平成18年は４％でしたが、平成27年度は10％、令和３年度は11％と少しずつですが増えています。福岡学園には保育所もありますので、女性歯科医師は結婚しても子どもがいても、十分に仕事と私生活のワークライフバランスはとれます。私は、女性にとって歯科医師はとても適している職業だと思っています。

しかし、高校生にとって歯科医師という職業はあまり理解されていないように思われます。ですから、高校訪問へ行く先生方には、女子学生に十分理解されるような説明をしてほしいと願っています。そして、たくさんの女子学生にオープンキャンパスに来てもらって、歯科医師のすばらしさを理解してほしいと思っています。まさに「理系女をねらえ！」です。同窓の皆様にもぜひご協力をお願いする次第です。

最後になりましたが、同窓会の皆様には、これからも変わらぬご支援、ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

「ご 挨 拶」

福岡歯科大学
学　長　**髙橋　裕**

福岡歯科大学に対しまして、いつもご支援、ご協力を頂き誠にありがとうございます。今年も大学はコロナ禍での１年でした。福岡県に緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が出るなか、大学の授業は対面とオンラインのハイブリッドで対応し、また、卒業式と入学式は規模縮小で実施できましたが、謝恩会、オールデンタル、体育祭、学園祭は中止、部活動は休止になりました。

吉永修会長のご配慮で、本学の教育の取り組みについて同窓会総会で話しをさせて頂く予定でしたが、昨年５月、延期した昨年10月、今年５月の総会がいずれも中止になりました。そこで、本紙面にて現在の取り組みの一部を紹介させて頂きます。

本学は、教養と良識を備えた有能な歯科医師を育成することを目的に（学則第１条)、人格・知識・技術を兼ね備えた歯科医師育成を理念とし、国民のニーズに対応できる実践的臨床能力を有する歯科医師を養成するために、知識教育、技能教育、態度教育を行っています。

歯科医師国家試験に関しては、この数年、苦戦しています。原因として、歯科医師職の人気低迷に伴う入学志願者数の減少と、国の政策による国試合格者数の大幅削減などが大きく影響したと考えられます。入学志願者に関しては、私立歯科大学全体の志願者数が平成18年度から減少を始め、平成22年度には４割程度にまで激減しました。本学も平成17年度まで３～４倍あった入試競争倍率が下降を続け、平成21年度には１倍台に突入し現在に至っています。この志願者の大幅な減少は入学者の学力と修学意欲の低下に深く関連して国試の成績にも影響しました。さらに、平成25年度から国試合格者数が大幅削減されたことにより、全国の国試合格率は約64％となり、３人に１人が不合格となる大変厳しい試験となりました。その結果、国試競争は激化し、入学志願者が大幅に減少した一部の私立歯科大学に大変大きく影響しました。本学１期卒業生が受験した昭和54年から７期卒業生が受験した昭和60年までは、全国国試合格率は95％前後でほとんどの受験生が合格し、不合格になっても秋にも国試があり、年２回の受験チャンスがありました。今は本当に大変難しくなっています。

学生は４年生の終わりに、CBT という全国共通の試験を受けます。この試験は全国で約2,500人が受験しますが、２年後の国試では新卒は約1,500人しか合格しません。この CBT の全国順位は６年生になった時の全国模試の全国順位とあまり変わらないことから、CBT を受験するときには既に厳しい競争が始まっています。国試に合格するためには４年生までにどれだけ成績を上げることができるかにかかってきます。主体的学修能力を有する国公立や一部の私立の学生は、CBT までにしっかりと勉強し総合的な知識を蓄えて２年後の国試に臨むようになりました。その結果、CBT の全国平均点は毎年１点ずつ上がり続け、現在76点を超えています。CBT 全国平均点以上の学生数は約1,350人で国試合格可能圏内にあり、80点を超えると上位1,000人以内となり国試合格安全圏に近づきます。

そこで本学では、CBT80点超えを学生に目指すよう指導しています。そのためには、学生はしっかりと授業を聴いて理解し、どの試験も本試験で合格するような勉強習慣を身につける必要があります。それで令和元年度からは、「欠席ゼロ、再試ゼロ、CBT80点超え（００８０：ゼロゼロハチマル)」を学生の目標に掲げ、学生指導を行っています。また、１年生から知識をしっかりと定着させ、それを毎年積み上げていき、さらにそれを何度も繰り返し勉強する「積み上げ・繰り返し・学習（T.K.G.)」のシステムを構築し、令和２年度からこれに則った学修指導を行っています。今年の CBT では、95点以上が１人、90点以上が５人と高得点の学生が出てきました。学習のシステムはほぼ出来上がりレールは敷けました。あとは学生がその上を走るだけです。現在、学生にそのレールを走らせるための仕組みを作っているところです。

来年、本学は創立50年を迎えます。新型コロナウイルス感染症が早く収束し、これまでの大学生活に戻れる事を願いつつ、学生とともに教職員一同頑張っています。

「参議院議員就任のご挨拶」

参議院議員
比嘉奈津美（８期）

８期の比嘉奈津美です。

令和元年に実施されました「第25回参議院議員通常選挙」において自民党公認候補として出馬し次点という結果でありましたが、この度、全国比例区の自民党議員の異動に伴い10月繰り上げ当選となりました。同窓会の皆様、大学関係者の皆様から大きな御支援を頂きましたこと、改めて心より感謝申し上げます。

平成24年から衆議院議員２期を経て、今回は歯科医師の代表としての参議院議員となります。私は大学卒業後、沖縄の離島久米島、那覇市内での勤務ののち沖縄市内に開業し25年間歯科医療に携わって参りました。その間、単独でカンボジアの歯科ボランティアを行ったり、ワインの国際審査員として自由奔放に生きて参りました。そして、10年ほど前から考えてもいなかった政治家としての道を歩むことになりました。このような私の背景には、福岡歯科大学の存在が大きく関わっていると思っています。

我が愛する母校。1980年代、小さなカエルが跳び跳ねる緑に囲まれた地でありました。遠くを見上げると目にとまるのは、魅力的な背振の山。静かな空間にそびえ立つ学舎病院棟は今でも想い出されます。その映像の中、多くの在学生、講師陣、非常に近しいつながりを持って、歯科医学はもちろんのこと医療人としてどう進むべきかを学ばせて頂きました。

私の根底には「多くの愛を持って医療人の責務を任す」ということがあり、私いち医療人としての責任だけではなく、すべての人々が医療を通して幸せになれるよう仕事をしたいという気持ちで政治の世界に入ったのだと考えています。

現在、新型コロナという人と人を分断しかねないウイルスの出現に、改めて何をなすべきか考えてしまいますが、ソーシャルディスタンスを保ち、マスクをするという新しい日常の中、マスクをはずし治療を行う歯科医療従事者の苦労を、また口腔の管理が感染症を含めたあらゆる疾患の予防、重症化抑制につながるということを歯科医師代表の国会議員として、医療政策の実現のため情報提供をしなくてはなりません。さらなるエビデンスの確立は学生の教育とともに大学での研究が重要になってきます。そのための環境整備も政治の大きな役割だと考えます。

人を豊かにする口腔の健康、そのための生涯を通じた歯科検診の充実。歯科衛生士、歯科技工士の育成、確保を進め、介護、障害福祉機関などの多職種との連携を政治の立場で働きかけていきます。

『母校、愛してやみません』

「教授就任のご挨拶」

福岡歯科大学
診断・全身管理学講座
放射線診断学分野
教授　**川波　哲**

令和３年４月１日付で福岡歯科大学　診断・全身管理学講座　放射線診断学分野（全身画像診断学分野）の初代教授に就任いたしました。福岡歯科大学同窓会の皆様に心からご挨拶申し上げます。

わたくしは、昭和42年の春に、父の派遣先であった日本赤十字社広島原爆病院で生まれました。乳児期から幼児期の数年を福岡市早良区原で暮らしたのち、父方の実家のある福岡県直方市へ転居し、そこで小学生時代を過ごしました。春夏秋冬と四季折々に姿を変える福知山をみながら、菜の花やクローバーが美しい遠賀川の河原で毎日のように駆け回り、虫をとったり、魚を釣ったり、ボール遊びをしたり、本当にのびのびと育ちました。当時、日の出橋の上から川の中をのぞき込んで、魚の影を眺めることが大好きでした。いつもいるフナやハヤのほか、ナマズやライギョをみつけたときにはドキドキしたものです。中学生からは親元を離れ、長崎県にある青雲学園へ通い、帝国軍人あがりの古川憲介校長や、首筋に原爆痕のある本田了教頭のご指導のもと、多くの友人と励まし合いながら、「いまをだいじに、こんにち、ただ今のことに、全力をつくす」の精神で、青雲高校９期生として卒業するまで、充実した日々を過ごしました。このときできた友人との付き合いは人生の宝物となっています。２年の浪人生活ののち、実家に近くて学費も安かった北九州の産業医科大学へ入学しました。田舎の開業医の次男坊としては自然な進路だったと思っています。大学では漕艇部／ボート部で６年間を過ごし、早朝と夕方の二部練習をこなしつつ、その合間に大学の講義を受けて実習にも参加するなど、大変おおらか（？）な学生生活を満喫しました。遠賀川や琵琶湖でのレガッタでシェルフォアを漕ぎ、みんなで泣いたり笑ったりしたのは、よい思い出です。平成６年の大学卒業後は産業医学研修・修練コースに入り、中田肇教授の主宰する放射線科学教室にて助手、助教、講師と大学教員として約15年間働きました。このとき教授からいただいた「慌てず、慎重に努力しよう」との教えは、わたくしの座右の銘となっています。またこの間に木本龍也部長のいる八幡製鐵病院放射線科で読影の基礎知識としての発生学や病理解剖学を分厚い洋書で勉強させていただいたり、救急救命研修所で教授職勤務の経験をさせていただいたりもしました。平成16年には肺 MRI の研究で学位を取得いたしました。産業医科大学の卒後義務年限のあけた平成20年からは、縁あって、本田浩教授の主宰する九州大学大学院医学研究院臨床放射線科学教室へ異動しました。放射線科の消化管グループと胸部グループで勤務し、九州大学病院ならではの豊富な症例を経験することができました。九大放射線科は実家の父、祖父、叔父がお世話になった教室であり、放射線科医として３代もお世話になるというのは案外と珍しいのではないかと思っています。また、九大放射線科の関連病院である浜の町病院や小倉医療センターの放射線科での勤務も貴重な経験でした。松浦隆志部長や塩崎宏部長には公私ともども大変お世話になりました。

中国武漢で発生したとされる新型コロナウイルス感染症が、令和元年末から令和３年秋の現在にいたるまで、わが日本国内でも流行しつづけています。旅行もダメ、勉強会もダメ、飲み会もダメ。手を洗って、マスクして、大声出すな……。ワクチン接種の見通しも定まらず、なんともつまらない日々を悶々と暮らしていた令和２年秋のころ、九大放射線科の石神康生教授よりお誘いいただき、福岡歯科大学医科歯科総合病院の開院式に出席しました。ステンドグラスが印象的な、できたばかりの、透明で真っ白な美しい病院と、その中に設置されている最新の画像診断機器を拝見し、翌春からの勤務に思いを巡らせ、期待に胸が高鳴りました。その後、福岡歯科大学教授選考のための準備を始め、令和３年４月からの教授就任となりました。水田理事長との面談の際、高校時代の校長先生や教頭先生、その息子さんの本田名誉教授をはじめ、あまりの共通の知人の多さに世間の狭さを感じつつ、ご縁というものに思いを馳せずにはおれませんでした。ヒトの出会いというものはなんと不思議なんでしょう。

このたび福岡歯科大学同窓会の皆様との新たな出会いの機会をいただいたことを大変嬉しく思っています。今後のお力添え、ご指導、ご鞭撻のほど、なにとぞよろしくお願いいたします。

「教授退職のご挨拶」

福岡歯科大学
口腔治療学講座
歯科保存学分野
教授　**阿南　　壽**

福岡歯科大学同窓会の皆様におかれましてはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。このたび、2022年３月31日付で口腔治療学講座歯科保存学分野を退職致しますので、その報告を兼ねてご挨拶させて頂きます。

私は2006年10月に、歯内療法学と保存修復学を担当する口腔治療学講座歯科保存学分野、第２代教授の井上　廣先生の後任として、第３代教授に就任させて頂きました。それから早いもので15年が過ぎようとしています。その間、同窓会の皆様には大変お世話になり、謹んで同窓会の皆様にお礼を申し上げる次第です。

これまでのことを振り返りますと、やはり新病院の建設が開始されて間もない2019年４月に病院長を拝命致しましたことが、私にとって大きな節目となっております。デザイン性及び機能性豊かな福岡歯科大学医科歯科総合病院は、水田祥代理事長のご指導のもと、「サステナブル建築物等先導事業（省CO_2先導型）」に採択され、免震構造で旧病院の約1.5倍の延べ床面積と最新の検査・医療機器を有する新病院として、2020年９月29日に開院致しました。新病院は、「地域と社会をつなぐ」、「教育・研究・臨床をつなぐ」、「医科と歯科をつなぐ」、「未来へとつなぐ」を病院建設のコンセプトとし、豊かな人間性を備えた有能な医療人を育成し、地域の皆様に信頼され続ける病院を目指しております。新型コロナウイルスの爆発的な感染拡大のなか、多職種の教職員が一丸となり感染対策を徹底することにより、安全・安心な医療を推進しております。同窓会の皆様の強力なご支援のもと、地域の皆様に信頼され、地域に貢献できる病院となるよう努めていきたいと考えております。今後とも変わらぬご指導、ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

次に思い出深いのは、口腔治療学講座歯周病学分野の坂上教授、吉永准教授をはじめとする歯周病学教室の皆様と総合歯科学講座の皆様の大変なサポートを頂いて、泉先生、松﨑先生をはじめとする歯科保存学教室の先生方と協力して、福岡国際会議場で学術大会を２回開催させて頂いたことです。１回目の学術大会は、日本歯科保存学会2013年度春季学術大会（第138回大会テーマ：未来をつなぐ歯の保存治療―「再生治療」と「痛みの制御」）で、２回目の学術大会は、2018年度日本歯内療法会学術大会（第39回大会テーマ：現在そしてこれからの歯内療法の潮流―「マイクロエンド」と「再生医療」―）でした。この２回の学術大会とも最初は大雨から始まりましたが、大会２日目は天気が回復し、お世話になった皆様の充実した笑顔の中、打ち上げまでできたことは本当に大切な思い出となっています。さらに今年、2021年９月、第24回日本歯科医学会学術大会との併催によるオンライン開催で、３回目の大会長（第42回日本歯内療法学会学術大会）を務めさせて頂きましたことは、大学ならびに同窓会の皆様の温かいご支援のおかげと心よりお礼申し上げる次第です。

元号の「令和」には、梅の花のように、明日への希望を咲かせるようにという願いが込められています。現在の歯科保存学分野は、2020年７月に松﨑英津子先生が准教授に昇任し教室運営を担当しております。また、松本典祥講師と水上正彦講師と二階堂美咲助教が松﨑先生の補佐をして教室内の指導を行っています。一方、畠山純子先生が2020年３月、総合歯科学講座総合歯科学分野講師に昇任されました。さらに、泉　利雄先生が2020年３月に口腔医療センター教授に昇任され、同年４月、口腔医療センター長に就任し活躍されています。先生方の福岡歯科大学へのご貢献は本当に頼もしい限りです。

最後になりましたが、これからも歯科保存学分野の先生方への変わらぬご支援をお願い申し上げますとともに、本学同窓会の益々のご発展と同窓会会員の皆様のご健勝を衷心より祈念申し上げます。

「41年間の教員生活が終わりました！」

福岡歯科大学
成長発達歯学講座
成育小児歯科学分野
教授　**尾崎　正雄**（３期）

1981年に福岡歯科大学を卒業し、41年間、研究と教育そして臨床に携わってきました。大学生活を合わせると47年間福岡歯科大学に在籍していたことになります。たぶん私が現在の福岡歯科大学における最長年教職退職者となると思います（高橋学長がまだご活躍中なので……）。この間に、数々の援助をして頂いた同窓会に感謝とお礼を申し上げたいと思います。特に1992年の米国留学に際しては、同窓会から多大なる援助をして頂き、大変ありがたかったです。

私は縁があって小児歯科教室に在籍することになりました。特に私は、小児歯科が好きだというわけではなかったのですが、心理学が好きで今でいう「心身歯学」の研究ができるところを探していました。当時、小児歯科の主任教授をされていた故 吉田　穣教授の誘いもあり、心理学が勉強できる小児歯科を専攻しました。とはいっても、当時は「心身歯学」が確立しているわけではなく、手探りでの研究状態でした。幸い、九州大学教育心理学教室の前田重治教授に心理学のイロハを教えて頂き、小児の歯科心理的対応について自分なりの解釈を加えることができました。また、研究を行う上で統計処理が必要となり、コンピュータの勉強をすることになりました。40年前のコンピュータには、市販の統計プログラムは無く、自作でのプログラム作成を１から学びました。これも良い師に恵まれいくつかの統計プログラムを作っていくうちに、現在の研究へとつながっていきます。

留学は、上司である本川教授の紹介で University of California, San Francisco（UCSF）の小児歯科で研修する機会を得ました。そこでは Buraham 教授の下で米国の医療システムと全身麻酔下集中歯科治療を学びました。また、その当時私が行っていた AI 研究のため Fazzy 理論の創始者である University of California, Berkeley の Zadeh 教授を紹介して頂き、私の診断システムの後押しをして頂きました。留学での経験は、私にとって貴重な経験となり、そこで知り合った人たちとの交流は今でも続いております。

学位論文は、入局時に目標としていた心理学の研究で挑戦しました。当時心理学研究で有名だった愛知学院大学歯学部小児歯科にお願いしました。しかし、愛知学院大学は、総合大学なので必ず主査に心理学部の教授が入ってくるので心理学の論文では無理だと言われ、あえなく撃沈。180度研究方針を変えてセファロ分析と手根骨を組み合わせた論文に変更しました。その頃は福岡歯科大学に大学院がない時期でしたが、１期生が学位をとる前に学位を取得する目標で計画を立てました。この期間はわずか６か月ほどしかなく、大変焦りもしましたが、この時に役に立ったのがコンピュータのプログラムの知識です。セファロの座標点をコンピュータに読み込ませ、自動計算するソフトウエアを２か月で開発し、５か月目には分析結果を出しました。苦労もありましたが、楽しく学位を取得することができましたので今では良い思い出になっています。

それからはコンピュータを使った情報工学や工学的な研究を多く手がけました。第一期 AI ブームにのって人工知能による診断システムの研究や、タービンやコントラの切削音を消す研究、バーチャルリアリティーを用いた歯の切削シミュレーターの研究を続けてきました。今はやりの幹細胞を使った再生医療ではありませんでしたが、それまで誰も手掛けなかった分野であることを自負しています。最後の仕事は、水田理事長のご支援を頂き、小児患者型ロボットの開発を手がけました。歯学部においては、知識ばかりでなく技術と態度に関する教育が重要であることは間違いありません。現在、各歯科大学では参加型臨床実習を行っていますが、臨床実習で患者に接し、歯科医療行為を行うためには正確で安全な治療行為だけでなく、治療中の患者の表情や動作に対する配慮と同時に全身状態の把握が求められます。しかし、小児歯科では、小児からの協力を得ることは難しく、事故が起こる可能性が大きいのです。小児患者における危機管理は成人とは異なった初期対応が必要です。2017年に福岡市内で起こった２歳女児の死亡事故も同様で、死亡に至る前に体系的なアプローチアルゴリズムによる初期評価と一次

全身麻酔下歯科治療を行っている私と Buraham 教授

実習風景

救命処置が行われていなかったために起こった事故です。このような観点から私たちは小児患者を対象として歯科診療現場を再現するとともに医療事故も体験できる小児患者型教育用シミュレーターを構築することが必要と考えました。すでに航空業界では操縦訓練にフライトシミュレーターが用いられており、新機種の操縦訓練ばかりでなく訓練が困難な緊急事態の訓練にも使用され、パイロットの訓練には必要不可欠なものとなっています。そこで私はプロジェクトリーダーとして、平成26年度より臨床実習では体験できない治療中の事故や患者の緊急事態訓練を行うために患者型ロボットを導入し「医科歯科統合シミュレーション実習」を行ってきました。また、令和２年度には、新設計の小児患者型教育用シミュレーターロボット（さくら）を新規開発して小児歯科臨床実習に活用できるようになりました。このさくらは、株式会社テムザックと共同開発したもので、治療時に問題となる小児への一般的対応法やパニック時（号泣、体動）などを再現できるばかりでなく、アナフィラキシーショックや局所麻酔中毒などの緊急事態をシミュレーションすることができ、臨床実習生の集中力を切らすことなく緊急時対応に関する技術と態度を学習させることに成功しました。学生たちの評価も上々で、教育効果が高いと考えています。この開発にも、入局当時から勉強してきたコンピュータプログラムの基礎と工学的な知識が役に立ちました。 このさくらは、Pedia_Roid と名付けられ国内ではモリタ、海外ではニッシンが販売することになり、近い将来、この Pedia_Roid は世界で活躍することでしょう。

一方臨床では、一般治療を中心に咬合誘導と小児口腔外科治療の専門性を高めた治療体系を組み立ててきました。また、留学から帰国した後、麻酔科との連携を深めて全身麻酔下での外科的処置や集中歯科治療を増やすようにしました。今では、週２回、年で約70症例ほどの治療を行っています。現在、常勤の医局員は18名ですが、来年度は更に５名以上の医局員が入局することになっており、さらなる発展が見込まれます。

私は、41年間、福岡歯科大学と福岡医療短期大学に所属し、教育に携わってきました。今思えば、長い年月無事に楽しく過ごせたのは、私を支えてくださった同窓会の皆さんや、研究者の皆さんそして色々な職種の方々のお陰だと感謝しております。今、福岡歯科大学の学生さん方に夢がないように感じています。学生さんの気質は、47年前の私が学生だった頃とあまり変わりがないのですが、遊びにしても仕事にしても将来の夢が無いように感じます。特に留年生たちは、自分を肯定的にとらえられず負のスパイラルに入っています。私は、将来に自信を持たせるためのコミュニケーション技術が必要だと考えて、コーチングスクールに通いました。今は、プロコーチング資格をもって学生たちが少しでも将来の夢をもった学生生活ができるよう指導しています。

退職後の計画ですが、私は臨床と教育が好きなので、新しく会社を立ち上げ小児歯科や危機管理に関する講習会を同窓生と一般開業医向けに行っていくつもりです。また、最近取ったプロコーチングの資格を生かして、先生方の相談やスタッフ教育を行っていくつもりです。近いうちに Facebook や Instagram でその内容をお知らせしますので、関心のある先生は［いいね］をお願いいたします。これからも同窓会のために頑張っていくつもりですので、よろしくお願いいたします。

「定年退職にあたって」

福岡歯科大学
診断・全身管理学講座
麻酔管理学分野
教授　谷口 省吾

このたび令和４年３月末で定年退職を迎えることになりました。同窓会誌の紙面をお借りして退職のご挨拶を申し上げます。

福岡歯科大学に赴任したのは平成11年１月で、口腔外科の大関教授と同時期でした。以来23年あまり福岡歯科大学に勤務させていただきましたが、長く勤務した分、多くの思い出があります。

赴任した当初は大講座制への移行のさなかでした。大講座制への移行は講座の統合だけでなく、研究室の場所の移動も伴っていたため、２回の引っ越しを余儀なくされ大変でした。歯科麻酔学講座は麻酔管理学分野となり、画像診断学分野とともに診断・全身管理学講座という大講座になることになりました。

私は九州大学医学部を卒業した後、九州大学病院、麻生飯塚病院、九州大学生体防御医学研究所附属病院、それぞれの麻酔科で勤務してきました。そのため歯学部教育や歯科治療に関連する歯科麻酔業務は初めてで、当初は戸惑うこともありました。ただ、42歳の新参者だったせいか歯科や基礎の教授の先生方には優しく接していただきました。教授会メンバーもお酒が好きな方が多く、機会があると集まって飲みながら楽しく過ごさせていただきました。今では、そのような機会は全くなくなりました。当時の先生方はすでに退職されていますが、今でも感謝しています。

教育に関しては、４～６年生の麻酔科学の教育を担当しました。歯学部学生が麻酔科学を学習する目的は、歯科治療時の状態評価や緊急時の対応を含めた全身管理を学ぶことにあります。ちょうどガイドライン2000でAEDが登場し、歯科医師も一次救命処置の知識と技能の習得が求められ始めていました。さらに歯科診療時の全身管理を含めた医療安全教育も増え、麻酔科学教育の重要性が啓発されるようになりました。それに関しては非常に有意義なことでしたが、授業時間数や試験の多さに驚いた覚えがあります。それでも当時は今と違って国家試験の合格率が高く、本学の成績も良かったため余裕がありました。

臨床に関しては、最初の頃は医科系の手術は外科手術だけでしたが、耳鼻科、整形外科、眼科、形成外科が開設されるようになり手術の種類も増えてきました。ただ、しばらくは全身麻酔症例も多くなく年間症例数は400例前後という期間が長く続きました。この数年間は多くの診療科で全身麻酔症例が増加し、年間600例を超えるようになりました。新病院になり、全身麻酔症例はますます増加する勢いです。ただ麻酔科の臨床業務は全身麻酔だけでなく、鎮静管理、ペインクリニック診療があり、医局員が３つの業務に割かれ、これに講義や実習が加わるとぎりぎりの人員です。この状態が改善できずに退職していくのは心残りです。それでも麻酔科を専攻して入局したほとんどの研修医がそのまま麻酔科に残り、認定医試験に合格して現在は歯科医師として成長している姿をみると頑張ってきて良かったと思います。

大学業務では学生部次長、情報図書館長を経験させていただきました。入試業務や大学業務に関する出張も多く貴重な経験でした。しかし役職になると会議も多く臨床業務との両立はかなり大変でした。思いがけずサッカー部部長も経験しました。デンタルの応援で交通の便の悪い各地のサッカー場へ苦労しながら行ったのもいい思い出です。ほとんど１回戦や２回戦のみの応援でしたが、３年前は全体３位になり感激しました。ただこの２年間は新型コロナ感染症の影響で部活動も中止になり、私だけでなく選手達やマネージャーも残念だったと思います。

大学外では日本歯科麻酔学会理事として各種委員会の委員長業務を経験しました。９年前に第40回日本歯科麻酔学会総会・学術集会を大会長として開催しました。人数が少ない医局で開催するのには不安がありましたが、医局員やOBの先生方の協力で無事開催することができました。

このように大変慌ただしい23年あまりでしたが、皆様のご支援のおかげで無事に勤め上げることができました。最後になりましたが、同窓会の益々のご発展と会員の皆様の益々のご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げます。長い間ありがとうございました。

「教授退職のご挨拶」

福岡歯科大学
口腔保健学講座
口腔健康科学分野
教授　**埴岡　隆**

同窓会の諸先生方には益々ご健勝のことと存じます。このたび、2022年３月31日をもちまして退職となります。2002年に着任して以来、社会医歯学部門長を続けました。紙面をお借りして退職のご挨拶をさせていただきます。

口腔健康科学分野は、1975年に故吉嗣國男教授によって口腔衛生学講座として開設され、1987年に境脩教授が新潟大学から赴任し予防歯科学講座に改まり、1989年に予防歯科診療科が附属病院に新設されました。2001年の大学機構改革で口腔健康科学分野となり、病院の予防歯科診療は新しく誕生した総合歯科に組み込まれて現在に至っております。私が大阪大学大学院歯学研究科から赴任して、福田英明助教授（2003）、大内紘三講師（2006）、筒井昭仁教授（2015）が定年で退職され、谷口奈央准教授、内藤麻利江助教、矢田部尚子医員によって構成されています。口腔保健学講座には河本陽介講師が担当する医療統計学分野と口腔健康科学分野から島津　篤准教授が渡辺　猛准教授の後任として担当する社会歯科学分野があります。私が赴任して退職に至る19年の間に、この他、多くの先生方が口腔保健学講座で学生教育に携わりました。

福岡歯科大学同窓会との大きな接点は、平成21年度「大学教育・学生支援推進事業」【テーマＢ】学生支援推進プログラムに採択されたことです。この文部科学省の支援事業には多くの大学からの申請が採択されましたが、歯学部の採択は数校のみで本学の取組名称は「臨地体験と就業情報通信システム構築による歯学生の就業支援強化」でした。対人口歯科医師数が全国第２位と高い福岡県にある本学は、西南日本唯一の私立歯科大で高齢者施設を併設しており、歯科医師が少ない地域や離島僻地等の遠隔地での歯科医療および高齢者の口腔ケアを担う人材養成が当時期待されていました。そこで、都市部や遠隔地での多様な臨地体験により歯科医師としての将来像を描かせるなど就業意識を高める。さらに生涯を通じて意欲的に研鑽を積む姿勢や職業倫理意識を向上させる。こうした、プロフェッショナリズムのテーマの先駆けといえる取組でした。また、都心部での特徴ある診療や離島僻地診療の実績などの遠隔地の就業情報、学生の体験・ポートフォリオ情報と併せて今では当たり前となったICTを用いた就業情報通信システムを活用しました。そして、就業先ニーズと個々の学生が描く将来像や能力とのマッチング向上を同窓生のキャリアカウンセラーが図り、学生が生涯研修の第一歩として最適な臨床研修施設の選定を主体的に行える能力を身につけることで、歯科医師の就業への支援を強化する取組でした。

キャリアパス講演会では23名の講師をお招きしましたが、そのうち、21名の先生が卒業生（１期～29期）でした。先生方にはご多忙の中、ご講演を賜り、誠にありがとうございました。2010年度は、隣地体験として、まず、夏季休暇中に希望者が離島を含む４か所の施設見学を行い、次に、冬季実習の一環として全員が福岡・佐賀県の16施設で見学体験を行い、歯科医師キャリア・教育フォーラムでは、歯科医師キャリア形成シンポジウムに先立って学生による施設見学の体験を発表し体験の共有を行うとともに、著名なキャリアを有する卒業生の先生方とキャリア形成についての討論を行いました。同窓会の先生方には学生時代の情報を就業情報通信システムに掲載するなどきめ細かい内容も提供していただくなどして、学生の就業意欲を高めることにご理解とご協力を賜りました。おかげ様をもちまして、文部科学省からの３年の補助期間の終了後も、約10年間にわたり取組を継続することができました。

以上のほか、福岡市歯科医師会の公衆衛生委員会の委員として企画助言をさせていただき、同窓会の先生方には大変お世話になりました。「福岡市民の

健康を歯と口から守る集い」では、口腔医学の市民への啓発活動に参画させていただくことができました。また、2015年には、WHO 世界保健機関からの委託による「Policy recommendations on integrating tobacco interventions into oral health program based on the updated evidence」事業で、福岡市歯科医師会を通じて多くの同窓会の先生方に臨床パイロット事業へのご協力をいただき、無事、初期成果をあげることが叶いました。この成果は、さらにタイ王国でも確認され、2021年９月の FDI 世界歯科医師連盟総会での歯科医師禁煙推進宣言につながっています。

学生教育を支える文部科学省の事業や歯科医師活動を支える WHO 世界保健機関の事業が無事達成できたことは、ひとえに皆様のご支援、ご協力、ご指導の賜物と思い、誠にありがたく存じます。

最後になりましたが、本学同窓会のますますのご発展と同窓会会員の皆様のご健勝とご活躍を祈念いたしております。

「教授退職のご挨拶」

福岡歯科大学
総合医学講座
眼科学分野
教授　**川野 庸一**

この度2022年３月をもって定年退職を迎えることとなりました。誌面をお借りして、ご挨拶をさせていただきます。

福岡市の浜の町病院眼科に９年間勤務した後に2011年４月に総合医学講座眼科学分野教授を拝命し、開設２年目の福岡歯科大学眼科学分野へ着任させていただきました。眼科開設時の医師４名体制から１名減の３名のスタッフでの引継ぎで、臨床面での不安はさほど無かったものの、大学としての教育や研究がどの程度できるかという不安の方が大きかったと記憶しております。医科歯科総合病院には前任の病院ではなかなか導入ができなかった眼科の診断治療機器も備えられており、診療の面では大変恵まれた環境でのスタートでした。眼科新設にあたっての学園の初期投資を考えると、診療面での実績を上げ続けることが自身に課せられた大きな役割と考え、近隣には手術を行うクリニックや眼科で入院治療を行う大学や総合病院もありましたので、先ずはしっかりとした診療を地道に行い紹介患者や手術症例の増加を図ることに注力することとしました。また、紹介患者のみならず近隣の方にもかかりつけ医として来ていただくべく、顔が見えて安心感を与えられる外来診療を意識して行いました。当初手術症例数はなかなか伸びず、年間200件台が続いていましたが、特にスタッフが４名に増員された2017年以降、手術症例数は少しずつ増加し、近隣に外来で手術をする眼科クリニックが増える中、手術件数は2019年には年間362件、2020年はコロナの影響下で減少したものの306件と推移し、着任当初よりは地域でも知られるようになったものと考えています。一方で、それまでの勤務医時代と同じ様に外来診療と手術とでスケジュールが埋まる日々を現在まで続けることとなり、特に数年前から副病院長を拝命しておりながら、診療や手術のために多くの会議を欠席し、病院長先生はじめ学園の先生方にも多大なご迷惑をおかけしたことと思います。この場をお借りしてお詫び申し上げます。

学生教育の面では赴任当初は眼科学の講義だけで15コマが割り振られており、最初の１年間は講義資料の作成にかなり長い時間を割いたのが思い出されます。通り一遍の網羅的な眼科臨床の講義は歯科学生には意義が低いため、国家試験を念頭において、関連する基礎医学の基本的な知識の中でも特に口腔領域の知識の整理をさせること、全身疾患で眼病変を伴う疾患では口腔領域の異常を伴う疾患について重点的に解説することなどを工夫してきました。現在は５コマの講義となりましたが、自分なりにマイナー系医学の立場からは何をどう伝えるべきかという点で最後まで模索が続きました。

学生の課外活動の面では、赴任２年目に上西秀則先生より伝統ある弓道部の部長職を引き継がせていただきました。自身は全く弓道の経験が無く、日常の練習にもほとんど顔は出せませんでしたが、年に数回あるコンパやオールデンタルの応援などで学生の顔と名前が一致して来ると、部員の試験の成績は親の様な感覚で一喜一憂して見ておりました。また、毎年招待していただいた弓道部 OB 会総会などを通じて学内外の OB の同窓の先生方とも交流することができました。かつて新入部員だった学生が卒業して歯科医となった後に院内ですれ違う時、笑顔で挨拶してくれると何か疲れも吹き飛ぶ様な気がすると同時に、自分も長く歯科大に勤務していることを実感しておりました。

最後に、振り返ると大学らしい業績はあまり残せなかった11年間でしたが、学園や同窓の先生方のお陰で退職を迎えることができましたことを御礼申し上げます。COVID-19の世界的な蔓延による部活動の休止は２年になろうかとしていますが、この原稿が掲載される頃には通常の学生生活が戻っていること、また今後の学園と同窓会の発展を祈念して退職のご挨拶とさせていただきます。

「教授退職のご挨拶」

福岡歯科大学
総合医学講座
整形外科学分野
教授　井上 敏生

2022年３月31日付けで福岡歯科大学を退職することになりました。９年間という短い期間でしたが、同窓会の皆様には数々のご支援をいただき、本当にありがとうございました。

西区の白十字病院に勤務していました2012年の秋に、突然福岡大学医学部整形外科の内藤正俊教授から電話がかかってきて、福岡歯科大学に行く気はないか、と打診されました。新しく整形外科を作るとのことでした。大学の見学をさせていただき、また前理事長の田中健藏先生とお話しさせていただき、とても気に入りましたので、応募いたしました。意見発表会の時に田中理事長に言われたことは、「整形外科の診療とともにリハビリテーションを充実させて欲しい」ということでした。歯科疾患のリハビリテーションがどんなものかよくわかりませんでしたので、まずは、整形外科疾患を念頭にリハビリテーション室を整備することにしました。旧病院の４階に与えられたスペースに、診察室２つ、処置室１つ、および100㎡のリハビリテーション室を確保するのに結構苦労しました。その際、病院長の小島寛先生に懇切丁寧なご指導をいただきました。同時期に小児科も開設されたので、小島先生は大変お忙しかったことと拝察し、感謝しております。2013年４月より、福岡大学整形外科から派遣された加島伸浩先生とともに、診療と講義を開始しました。リハビリテーションは理学療法士の白川さん１人で開始し、８月に１人増員となりました。最初は患者も少なく、医師２人で何とかこなせていましたが、対外的には、九州足の外科研究会の立ち上げの準備に追われ、また2014年９月に第28回日本靴医学会学術集会の会長を務めることが決まっていましたので、その準備に２人で追われていました。一方、最初の１年間は、手術室の壁に鉛によるX線の遮蔽機能が無かったので、手術時に透視装置が使えず、X線を何度も撮って確認することで、骨折の手術や骨切り術を行いました。結構大変でしたが、そんな環境が新鮮で結構楽しくやっていました。ただ、救急病院ではないため骨折の手術が少なく、また手術室の設備にも限界があり、手術がなかなか増えませんでした。その中で手術希望の外反母趾の患者さんがインターネットを見て受診してくれたため、重症変形例も含め、外反母趾の手術を多数行うことができました。従って、研究も外反母趾に関するものが多くなり、若手医師（加島先生、永野智子先生）がいくつか和文論文を書いてくれました。出来れば退職前に外反母趾の治療成績を報告できれば、と考えています。

学生に対しては、助言教員および部活動顧問（サーフィン部、柔道部）を仰せつかりました。助言教員としては、歯科学生の指導のやり方がわからず、声かけをしたり、懇親会で話をしたりするに留まっていましたので、留年生が出ると本当に申し訳なく思いました。クラブ活動の顧問は、最初は全く経験も知識も無いサーフィン部でしたが、その時に縁があった学生が、現在歯科医となって働いており、よく声をかけてくれるので嬉しく思っています。サーフィン部顧問は１年間務めましたが、私が学生時代に柔道を行っていたことや、歯科大学赴任後柔道場に時々顔を出していた縁もあって、柔道部の顧問に変更となりました。柔道部は部員が少なかったので、福岡大学医学部柔道愛好会の練習や、次郎丸中学校柔道場を使った柔道教室の練習に学生を連れて行きました。2019年夏には、デンタルの柔道部門の主管校となり、OBの先生方、協力学生のお陰で、少ない部員ながら無事に終えることが出来ました。しかし、2020年からはCOVID-19の流行により部活動が中止になり、当然新入生の勧誘が出来ず、部の存続を危ぶみながら大学を去ることになりました。

その他、思い出は尽きませんが、この９年間多くの体験させていただき、とても感謝しております。引き続き、福岡歯科大学総合医学講座整形外科学分野へのご支援をよろしくお願い申し上げます。

「退職挨拶」

福岡歯科大学
生体構造学講座
病態構造学分野
（医科歯科総合病院病理診断科科長）
教授　**橋本 修一**

この度、令和４年３月末をもちまして病態構造学分野教授職ならびに病理診断科科長職を定年退職の運びとなりました。在職期間中にお世話になりました皆様方に心より御礼を申し上げますとともに、母教室の九州大学呼吸器内科元教授重松信昭先生、原信之先生、旧第一病理学元教授故田中健蔵先生、居石克夫先生、米国ピッツバーグ大学医学部病理学元教授 Sikandar L. Katyal 先生、デューク大学医学部呼吸器病学・細胞生物学元教授 Barry R. Stripp 先生、ならびに、これまでご指導・ご鞭撻をいただきました諸先生方に心より感謝の意を表させていただきます。

私は、2015年１月に谷口邦久教授の後任として、熊本大学医学部機能病理学分野より赴任いたしました（写真１）。在職期間７年３か月の比較的短い期間でしたが、この間、教育面では、医科総論に基づいた口腔病理学の講義を取り入れ、全身疾患と関連した口腔医学教育に重点をおいた講義を行ってまいりました。また、病理実習では新しい電子システム時代に対応したバーチャルスライドによる実習講義形態も取り入れました。

研究面では、分子病理学的手法も取り入れた発展的研究ができる研究環境の充実に努め、新たに独自の細胞培養室も設置することもできました。これまで主に、癌微小環境における癌細胞の進展機構や癌幹細胞の制御機構の解明などに関する腫瘍分野の研究や、口腔および肺組織における細胞分化とオルガノイド構築に関する研究とその臨床応用を目指した研究を主テーマとして行い、幸い多くの学会や国際誌での研究発表を行うことができました。2018年10月には、日本肺サーファクタント・界面医学会、第54回学術研究会の会長を務めさせていただき、米国から肺幹細胞研究の世界的権威であります Prof. Barry R. Stripp、および、Prof. Darrell N. Kotton をお招きして無事学会を執り行うことができました（写真２）。

臨床面では、2020年９月の新医科歯科総合病院の開院にあわせ、旧来の紙媒体での病理診断システムから電子カルテシステムに対応した新たな病理診断システムの構築や医科・歯科両分野にわたる診断体制の確立を行うことができ、病理組織診とともに口腔細胞診や術中迅速診断にも力を入れた業務を行うことができるようになりました。また、口腔外科、放射線科、病理診断科の３者合同カンファレンスを定期的に行い、より正確な病理・画像診断、より的確な臨床治療を目指した体制づくりにも努力いたしました。今後は、外部医療機関との連携で顕微鏡画像と連動したオンライン診断システムの拡充にも努めていく予定です。

退職後は、何らかの形で母教室、福岡歯科大学ならびに医科歯科総合病院の発展のために陰ながらお役に立っていければと考えていますので、今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。

写真１　赴任時分野メンバー

写真２　会長招宴集合写真

「教授退職を迎えて」

福岡歯科大学
細胞分子生物学講座
細胞生理学分野
教授　**岡部 幸司**

福岡歯科大学同窓会の皆様には益々御清栄のこととお慶び申し上げます。この度、令和４年３月31日をもちまして細胞生理学分野を定年退職することとなりました。同窓会の皆様にはこの紙面をお借りして、退職のご挨拶をさせていただきます。

振り返ると私は平成５年２月に山口大学医学部生理学教室から副田博之先生が教授である福岡歯科大学口腔生理学教室の講師として赴任しました。平成７年に助教授に昇任、平成13年には大講座制の施行により細胞分子生物学講座の細胞生理学分野として再編成され、その後、平成14年に細胞生理学分野の最初の教授に就任し、現在に至っております。早いもので29年もの月日が経ち、最初に指導した卒業生は既に50歳を超え、その子どもさんが入学しております。思い起こせば、教室には多くのスタッフや大学院生の往来がありとても懐かしく思います。その間、教室の岡本先生、鍛治屋先生、進先生を始め講座の皆様には教育や研究を支えていただき感謝致しております。

これまで生理学の講義や実習を介して多くの学生諸君と交流を深めることができました。就学に悩む学生やヤンチャな学生への指導は苦労や我慢もありましたが、彼らが自ら気付き新しい可能性に目覚めていく姿を見るたびに喜びを感じました。この苦労した学生諸君が大学院へ進学してくれたり、卒業後に地域で研究会を主催したりと、嬉しい驚きと共に何か絆を感じますし、私自身が若い学生諸君と交わることが大好きだったのだとつくづく感じます。

また、私は山口県下関市の出身であることから口腔外科学前教授の大関先生と共に山口県人会の世話役を務めてきました。山口県出身の新入生歓迎会や卒業生の追い出しの会を開き、学生諸君や教職員の方々と普段話せない懐かしい故郷のことや大学生活での困りごとなど、種々のお話ができたことが楽しくも有意義な時間でありました。このご縁で同窓会山口県支部の長州歯会の皆様には大変お世話になりました。

一方、学内ではアニマルセンター副長、アニマルセンター長、学務関係では学生部次長、基礎部門長(研究科運営委員長)、そして学生部長は８年間務めさせていただきました。振り返れば、延べ12年間の長きにわたり学生指導、学務運営、入学業務に携わり、学生の主体的な就学支援や現在の学年制や総合学力試験の導入に関わって参りました。また、2016年福岡開催の第23回日本歯科医学会学術大会では事務局長も務めました。これまで各地区の保護者後援会や同窓会支部にお招きいただき、交流が持てたことも私の財産であります。多くの課題解決のため多忙な毎日を過ごしましたが、同窓会の皆様からもご理解とご協力を賜りそれぞれの役務を全うできたことを感謝申し上げます。

研究に関しては、私は歯学部卒業後、九州大学医学部・薬理学教室での大学院、留学先ヒューストンのベイラー医科大学、山口大学医学部生理学教室と一貫して電気生理学的手法であるパッチクランプ法を用いて平滑筋や心筋の受容体とイオンチャネルの研究を続けていました。本学に赴任することで骨や歯などの硬組織の機能解析に興味を持ち、破骨細胞の骨吸収調節に関わるイオン輸送機構を中心とした骨代謝研究を始めました。そして教室スタッフの協力で Ca^{2+} イメージング法、分子生物学的手法、遺伝子改変動物解析など研究手法の幅も広がり、一つの細胞が持つダイナミックなイオン動態と機能を解析することが研究の特徴となりました。その結果、多くの骨代謝研究の成果を国際雑誌に報告すると共に、大型研究費の獲得や他機関との共同研究も進みました。学会活動では日本生理学会や歯科基礎医学会をはじめとして理事や常任理事等を長年務め、2014年には歯科基礎医学会学術大会の会頭として学

会開催を担当しました。また、学内だけでなく他大学や中国からの大学院生を受け入れて、数々の学位研究指導を行うことができました。学位取得後、大学や地域で活躍される同窓生を拝見し誇らしく感じる次第です。

私は趣味として出身の九州大学時代からヨット競技を続けており、自身でヨットのセーリングを楽しむだけでなく、九州大学ヨット部監督や福岡歯科大学ヨット部の部長として選手の指導や育成に携わってきました。また、セーリング連盟の役員およびヨット競技大会の審判委員としてジュニア大会、インターハイ、インカレ、国体、国際大会等の多くの大会開催を支援してきました。オールデンタルでは大学側やヨット部 OB 会からご支援もいただいて福岡で２度も大会が開催できたこと、また、優勝や準優勝を幾度も達成できたこと、選手や関係の皆様に厚く御礼申し上げます。これまでにヨット部の学生諸君や OB 会の方達とヨット競技を通じて共有できた機会や、時には酒を酌み交わした出会いが私の宝物であります。一方2018、2019年とオールデンタルを２連覇しておりましたが、その後のコロナ感染拡大により部活動中止、オールデンタル開催中止が２年間続いていることは、学生諸君にとっては大変気の毒な気持ちで一杯です。早くコロナ禍後の新しい形で部活動が再開できることを心より念じております。今後もセーリングライフを通じて地域に社会貢献ができるように、そして若い人たちの育成支援に尽力したいと考えております。

最後になりましたが、長きに亘りご指導とご鞭撻いただきありがとうございました。

福岡歯科大学同窓会の益々のご発展と会員の皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。

2019年のオールデンタル優勝（連覇）祝賀会にてヨット部選手とヨット部 OB 会諸氏と共に

「少数精鋭」

福岡歯科大学
口腔・顎顔面外科学講座
口腔腫瘍学分野
准教授 **橋本憲一郎**（23期）

同窓会の皆様には日頃より大変お世話になっております。23期卒業の橋本憲一郎と申します。2001年４月より福岡歯科大学口腔・顎顔面外科学講座に入局し、研鑽を積んで参りました。当講座は現在、教授２名、准教授１名、講師３名、助教５名、医員２名、大学院４名、専攻生２名、研修医７名の計26名で構成されています。外来、病棟、手術、研究、学生講義、病院会議、さては出張や学会など、医局員が全員揃うことはほとんどありませんが、飲み会などのイベントの際には比較的集まる傾向があるようです（コロナ禍においては、一度も歓送迎会や飲み会は出来ていない状況ですが…）。

さて、口腔・顎顔面外科学講座は「口腔外科学分野」と「口腔腫瘍学分野」があり、この２分野で福岡歯科大学医科歯科総合病院の口腔外科診療を担当しています。口腔癌治療と顎変形症治療を主軸に、口腔粘膜疾患、顎骨周囲炎、顎骨嚢胞、顔面外傷、顎関節疾患、また、全身疾患に関連した口腔疾患などの診療に追われる日々を送っております。私が入局当時においては、これらの疾患に対する治療、また忙しい日々に強く憧れたものでした。しかし、近年における口腔外科のイメージは「歯学会の４Ｋ（きつい、汚い、危険、帰れない）」とも言われ、特に若い世代にとっては最も敬遠される診療科の一つになっています。必然的に口腔外科への入局者は減少の一途をたどり、年々医局員数が減っていく現状があります。医局長を兼任する中、この少ない人員体制で決めたスローガンは「少数精鋭」でした。私がこの言葉に持たせた意味合いは「少数になれば皆が精鋭になりうる」ということでした。これは某会社社長の言葉ですが、決して少数で多くの仕事をするというブラック企業的な発想ではありません。現在の少数人員を、時間をかけて磨き上げ、皆の能力をボトムアップすることを意図しています。そのために必要なことは「人を見つめ、人を育てる」という意識をもつことだと思います。私自身は日本口腔外科学会指導医であり、これまでに自身が学んだことをきちんと伝承し、疾病に対する知識や治療方針の立て方を惜しみなく提供していくことが必要なのだと考えています。

そんな口腔外科ですが、入局するメリット・魅力は、①全身疾患に強くなる、②医科や多職種との連携力が身に付く、③病院歯科に適合できる、④出血に強くなる、⑤総合的な診断力が付く、ことが挙げられ、否が応でも身に付くというのが私の実感です。特に当講座は日本口腔外科学会、日本口腔腫瘍学会、日本顎関節学会、日本有病者歯科学会、日本口腔がん治療認定医機構の研修施設であり、各学会の専門医取得なども積極的にサポートをしています。上記４Ｋを「活気、絆、感激、カッコいい」に変えて、日々精進しているところです。

さて、最後に私自身の自己紹介をさせていただきます。福岡歯科大学卒業、ずっと医局に在籍しており、いわゆる生え抜き医局員ということになります（現在は一番の古株になってしまいました）。趣味はランニングでこれまでに東京マラソンや熊本城マラソン、福岡マラソンなどを走ってきました（これは前任 大関悟教授の影響が少なからずあるかもしれません）。いずれはウルトラマラソンにも参加したいと思います。

これからも口腔外科の未来を想定した医局・講座運営を心がけていき、口腔外科を目指す人材教育にも尽力したいと思います。同門会の皆様、今後ともよろしくお願い致します。

「第47回福岡歯科大学学会総会・学術大会を主宰して」

福岡歯科大学学会
（口腔保健学講座教授）
大会長　**埴岡　隆**

同窓会の皆様には、第47回福岡歯科大学学会総会・学術大会の開催にあたり、多大なご厚情を賜り、誠にありがとうございました。

大会テーマは、当時完成したばかりの福岡歯科大学医科歯科総合病院の「新病院と口腔医学を「つなぐ」研究を考える」とし、「口腔医学研究のプラットフォーム（PF）構築とブランディング強化」と「新病院での研究の役割を考える―“つなぐ”を意識して」という２つのシンポジウムに、９名の先生に講演をしていただきました（表）。また、教育講演として、日本で初めて歯科医師として保健所長となったお二人のうちのひとりで、本学非常勤講師の井下英二先生（滋賀県高島保健所長、当時）に「歯科医師として公衆衛生に貢献できること」の演題でご講演いただきました。

企画当初は、福岡歯科大学同窓会の先生方にも多くのご参加をいただき、学術・研究の交流の場として活用していただければ幸いと考えておりましたが、新型コロナウイルス感染症の断続的な拡大に伴い、諸先生には大変ご心配をおかけすることとなってしまいました。中止とはならずに、ご支援をいただいたおかげで、新型コロナウイルス感染症対策を考慮し、３モードでの開催により無事予定のプログラムを完了することができました。教育講演とシンポジウムはオンデマンド配信で、そして、従来の口演・ポスター発表は誌上発表として１元化し、最終的に34演題を福岡歯科大学雑誌に見開きページで掲載しました。

学会賞は３密を避ける観点から多段階での選定法を採用しました。恒例により学会役員が26演題から２段階の投票で５演題を選抜しました。最終選考はポスタープレゼンテーションを行い、４部門長と学会役員の５名の審査員の投票により、「歯周病の病態形成におけるプロバイオティクスの効果」を発表した口腔歯学部３年生中村麻衣リサーチスチューデントと「歯周病原細菌の増殖を阻害するヒト口腔内常在細菌のスクリーニングと同定」を発表した口腔歯学部５年生池本梨央南リサーチスチューデント（いずれも感染生物学分野所属）が受賞し、総会ならびに授与式は対面で執り行われました。新型コロナウイルス感染症拡大の中の大会成功は、ひとえに同窓会の先生方のご支援の賜物と思います。重ねて、先生方に深甚なる謝意を表します。

表　第47回福岡歯科大学学会総会・学術大会シンポジウム（ウェブ開催）の内容

シンポジウム１　口腔医学研究のプラットフォーム（PF）構築とブランディング強化
座　長：平田　雅人（福岡歯科大学口腔医学研究センター長）
　　日高　真純（福岡歯科大学分子機能制御学分野　教授、常態系 PF リーダー）
１　RNA の酸化損傷に対する生体防御機構
　　石井　健士（福岡歯科大学生化学分野　講師、常態系 PF 研究員）
２　マウス肝移植モデルを用いた免疫寛容誘導メカニズムの解析
　　中川　美和（福岡歯科大学口腔医学研究センター　客員教授、病態系 PF 研究員）
３　脂肪細胞由来の幹細胞を利用した最適な下顎骨再生療法の開発
　　鍛治屋　浩（福岡歯科大学細胞生理学分野　講師、再生系 PF 構成員）
４　ヒト唾液腺オルガノイドをモデルとした唾液腺機能障害研究
　　吉本　尚平（福岡歯科大学病態構造学分野　講師、臨床歯学系 PF 研究員）
５　母体の細菌感染による仔の精神疾患発症機構の解明
　　永尾　潤一（福岡歯科大学感染生物学分野　講師、医学系 PF 研究員）

シンポジウム２　新病院での研究の役割を考える―“つなぐ”を意識して
座　長：池邉　哲郎（福岡歯科大学口腔外科学分野　教授、前医科歯科総合病院長）
　　米田　雅裕（福岡歯科大学総合歯科学分野　教授、健診センター副センター長）
１　消化器癌と口腔環境について
　　牧野　路子（福岡歯科大学訪問歯科センター　准教授、訪問歯科センター）
２　歯の発生研究から見える子どもの健康
　　岡　　暁子（福岡歯科大学成育小児歯科学分野　准教授、小児歯科・小児口腔外傷センター）
３　ピロリ菌と口臭―予防医学の役割
　　谷口　奈央（福岡歯科大学口腔健康科学分野　准教授、総合歯科・口臭クリニック）
４　エビデンスに基づく人生100年時代の歯の保存―未来へつなぐ
　　松﨑英津子（福岡歯科大学歯科保存学分野　准教授、保存科）

熊本県

「熊本県同窓会長就任のご挨拶」

熊本県同窓会
会長　渡辺 猛士（5期）

この度、福岡歯科大学熊本県同窓会大阿蘇会第５代会長に就任しました５期卒業の渡辺猛士と申します。

これからしばらくの間、熊本県同窓会並びに本部同窓会を盛り上げていきたいと考えておりますので皆様方には何卒ご協力のほどよろしくお願いいたします。

さて、熊本県では2016年には熊本市近郊を震源とする熊本地震に見舞われました。また、2020年には県南部人吉市、芦北町周囲で発生した集中豪雨とそれに続く河川の氾濫による洪水の被害が発生するなど、ここのところ自然災害による被災が頻発しており、その度に同窓会の皆様方には温かいご支援を賜り、大変感謝しているところであります。

そんな中で、今年は早速の九地連熊本開催の運びとなり、早々にプロジェクトを発足し、皆様をお迎えするべく対応を図るつもりでいましたが、未だに安心できない新型コロナウイルス感染症蔓延の影響により、今回の九地連第73回九州歯科医学大会は、WEB 開催となり、厚生事業及び各大学同窓会懇親会も全てが中止となるとのことで、いささか拍子抜けしたところではあります。

このような予測不能な展開が続く複雑な状況下ではありますが、今後、歴代会長の先生方が頑張ってこられたように、災害対応、会員親睦、大学との連携など精力的に進めていきたいと考えております。ことに、大阿蘇会も初代西本会長の時代からすれば、会員子弟の本学入学等の事案も随分と多くなってまいりましたので同窓会本部との連携のもと、大学に対しましても少しはものの言える大阿蘇会を目指していきたいと考えておりますので何卒ご協力のほどよろしくお願いいたします。

本来ならば例年春に開催される本部同窓会総会の席にて皆様にご挨拶申し上げるべきところではありますが、ご存じのような状況ですので来るべき機会をうかがっておりますことを申し添えます。

役　員

役　職	氏　名	期
会　長	渡辺猛士	5
副会長	武藤健史	6
〃	渡辺　洋	9
〃	梶原武彦	11
〃	椿　誠	16
専務理事	宇治寿隆	7
庶務常務理事	椿　賢	18
学術常務理事	井上裕邦	15
広報常務理事	太田文隆	16
厚生常務理事	豊田正仰	26
会計常務理事	林　昭宏	12
女性会員担当常務理事	古屋敷有子	15
若手会員担当常務理事	志方圭介	28
監　事	井尾治雄	5
〃	河合隆一	5
理　事	山本資晴	7
〃	甫谷　真	8
〃	井手裕二	10
〃	出口　諭	18
〃	五島嘉人	23
〃	河端憲彦	27
〃	志方圭介	28
〃	平島将臣	28
〃	中原亜由美	37
顧　問	川嵜俊明	1
〃	中嶋隆志	1
〃	安田光則	1
〃	宮坂圭太	1
〃	大森秀則	2
〃	吉永　修	4
〃	伊藤明彦	5

岡山県

「会長就任のご挨拶」

岡山県同窓会
会長　**平　　和義**（７期）

同窓会の先生方におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

令和３年４月より、前会長　石川拓志先生の後を受け、岡山県同窓会長を務めさせていただいております。

岡山県同窓会におきましては、例年新年会・総会や九州歯科大学岡山県同窓会主催のサマーセミナーへの参加等の活動をしており、去年の新年会では岡山大学歯学部口腔機能解剖学教授 沢禎彦先生（前福岡歯科大学教授）にも御臨席賜り開催されました。しかしながら昨今の新型感染症の拡大に伴い、ほぼ全ての活動が中止されております。１日も早く世の中が落ち着いてくれる事を願わずにはいられません。

来年は福岡歯科大学創立50周年を迎えます。岡山県同窓会といたしましてはできる限りの協力・支援をしてまいりたいと思っておりますので、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

最後になりますが、福岡歯科大学同窓会会員の皆様が健康に留意され、元気にご活躍されることをお祈り申し上げご挨拶とさせていただきます。

香川県

「うどん県（香川県）同窓会　会長就任のご挨拶」

香川県同窓会
会長　**濱岡　宏典**（９期）

令和３年３月に先代香川県同窓会長の吉田良二先生が突然の引退宣言（閉院）をされた為、４月から福岡歯科大学香川同窓会の会長を拝命させていただきました９期卒の濱岡です。

元来私は香川県出身者でなく、広島県のしまなみ海道にある因島という島で生を受けました。ですから在学中は香川を含め、四国県人については全く知らず、卒業までを過ごしました。

卒後、岡山大学歯学部の口腔外科に所属し、その後２年間の香川県の総合病院への出向を命じられて赴任しましたが、諸事象にて16年間の勤務の後、当地で開業させて頂く事となり、さらに16年が過ぎました。私が住んでいる高松市は県庁所在地でありながら、平成17年に私が開業するまで市内で福歯大同窓の先生の診療所がなく、さらに以前の勤務が総合病院であった為、歯科界関係と疎遠で市の歯科医師会入会時に推薦人を探すのも困難であったことを思い出します。

現在でも同窓の香川県人は多くなくて、香川県同窓会が出来て浜崎一郎先生が初代会長で４期の吉田良二先生が２代目でした。その後は外様である９期の私から後輩は13期に飛びます。今回は「うどん県香川に30年も住んでいたらもう地元でしょう」と県人会の皆様の温かいお言葉をいただき３代目会長を拝命いたしました。

残念ながらコロナ禍で中止となっていますが、四国には４県持ち回りで毎年同窓会を開く仲の良い四国県人会があり、これからも同窓会の発展の一翼を担えたらと思う所存であります。

最後になりますが、年々増しているような環境問題や災害に心を痛めつつ、歯科界の発展、同窓の先生方や多くの皆様のご健勝とご活躍を祈念いたします。

京滋支部

「支部会長就任挨拶」

京滋支部
（旧京都、滋賀県）同窓会
会長　金谷　　徹（15期）

この度、前任の野村信人先生より引継ぎまして、京滋支部同窓会の会長を担当させて頂く事となりました、金谷です。宜しくお願い致します。

只今、令和３年９月上旬、緊急事態宣言中、みなさん、いかがお過ごしでしょうか、わたくし事ですが、昨年９月に父が亡くなりました。今回のコロナウイルスによる急激な世界的な感染拡大により、入院中の父に対し、制限がかかり、意識のあるうちに最後になるであろうという面会時間もタイマーで５分のみというあっけないものでした。他の入院患者さんでは、面会もないみたいだったので、会えただけでも良かったのかもしれません。

歯科医師だった父の葬儀も人が呼べず家族葬で、自院の従業員でさえ来れない状態でした。あと、是非、線香だけという方もいたのですが、家にも上がってもらえず、当時は、何か冷めた感じの寂しいものでした。で、現在私はというと、外出、外食、飲み会、旅行にも行けず悶々として過ごしております。今年の５月には、自分の家の庭で、BBQ をしていたら、警察呼ばれました。このご時世では、当然かもしれませんが、嫌な世の中になりました。この時期にということだけは、反省しております。

話をもどしまして、支部の同窓会の事ですが、近年、ここ10年ぐらい、新規会員も入会せず、在会員の退会などがあり、京都府と滋賀県の会員がともに激減しているということで、同窓会を一緒にしたらどうかということで、前々年度に、合同開催を行い始めました。そして、前期に会を合併することとなり、滋賀県支部会長の野村先生を初代会長として、京滋支部を立ち上げました。

ところが、去年からコロナが広まり、集まれなくなったので、全ての予定がキャンセルとなり、支部同窓会、役員会が開催できず、活動もないまま、年月がすぎました。そして、今期入りに、わたくしの会長就任となりました。ですがいまだ、何も出来ず今日に至ります。支部メンバーとは、誰ひとり、まだ、お会い出来ていません。人事もこれからです。ですから、コロナ明けに、活動を、再開予定しております。早く、コロナが収まり、みなさまに、再会出来ることを期待しております。それまで、みなさま、お体には、お気をつけてお越し下さい。

最後になりますが、本州支部そして九州支部と連絡しながら、同窓会として、福岡歯科大学がよりよい学問・研究の場になりますよう、できるだけの支援をしたいと考えます。

会員の皆様のより一層のご健勝とご活躍をお祈りし、ご支援ならびにご協力をお願い申し上げ、会長就任の挨拶といたします。

愛媛県

「愛媛県同窓会会長 就任あいさつ」

愛媛県同窓会
会長　小林　　悟（４期）

今年６月より前任の窪田將臣先生（１期）の後を受け、愛媛県同窓会会長に就任しました４期の小林悟です。

現在会員数21名ですが近年入会者がなく、会員の高齢化が進んでおり今後の課題になっています。コロナ騒動以降、本来の同窓会活動ができていません。愛媛県同窓会の従来の活動としては６月の総会、学術講演会、12月の忘年会、２月の親睦旅行を行っています。また年一回、四国同窓会総会を輪番制で行っています。

現在は一堂に会することができませんので、今年は zoom による役員会、総会を開催しました。コロナの早期の収束を願うところです。

これからも、福岡歯科大学同窓会の発展、愛媛県同窓会の発展のために、微力ながら尽力してまいります。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

「前歯部インプラント治療について」

福岡歯科大学
咬合修復学講座
口腔インプラント学分野
助教　柳　　束（32期）

1．はじめに

近年インプラント治療は広く普及してきており、一般の開業医でインプラント治療を行っているところも少なくない。インプラント治療の最大の利点は失われた咬合支持を復活させることにあるが、審美性を回復させる目的で前歯部の審美エリアに用いられるようにもなってきた。インプラントは骨によって支持されるため、インプラント周囲の顎骨の状態は非常に重要であり、抜歯後治癒期間を経てインプラントを埋入する手順がゴールドスタンダードだと考えられるが、こと審美領域においては必ずしもそういうわけではない。抜歯窩の治癒過程で既存骨の吸収が起こるからである[1)]。特に上顎骨は下顎骨と比べて吸収しやすく、また、唇側骨から吸収するため、前歯部審美治療には不利となる。そこで、前歯部のインプラント治療では抜歯即時インプラントが用いられることが多い。しかし、必ずしもすべてのケースにおいて抜歯即時インプラントが推奨されるわけではなく、そこにはいくつかのロジックがあり、抜歯即時インプラントなのか、抜歯待時インプラントなのかを決定する必要がある。本稿ではそのいくつかのポイントについて、症例を通じて解説を行う。

2．症例解説

〈症例〉
患者：M.Y 40歳　女性
主訴：左上の歯に違和感がある。
現病歴：一年ほど前より該当部位の違和感を自覚し、近医を受診。歯根口蓋側に破折線があり、抜歯後の治療についてインプラントを勧められたため、当院を受診した。
既往歴：特記すべき事項なし
家族歴：特記すべき事項なし

(1)　術前の軟組織・硬組織の状態

術前の口腔内写真（図１）及びパノラマエックス線写真（図２）を示す。

図１

図２

まず、抜歯即時インプラント治療を行う場合考えないといけないのは歯肉及び骨の状態である。審美的な結果を得るためにこれらは欠かせないことである。歯肉に関しては①歯頚線の位置、②歯肉の厚み、③スキャロップの高さなどが挙げられる。今回のケースでいえば、インプラント予定部位である┗2部の歯頚線の位置は反対側同名歯より歯冠側に位置している。また、歯肉の厚みはやや厚く、スキャロップの高さもあまり高くないことから比較的難易度は高くないと考えられる（図3）。また、患者のスマイル時の歯肉の見え方も重要なポイントになる。ガミースマイルのように歯頚部歯肉まで見えてしまう患者の場合には当然審美的要求も高くなるため、より一層注意が必要となる。

図3

骨の状態に関しては、抜歯前のCTを観察することで、唇側骨が温存できるか、また抜歯後の抜歯窩の形態を観察しなくてはいけない（図4）。この時、少しでも正確に唇側骨の形態を把握するため、補綴物及びメタルコアなどは事前に除去し、CT撮像を行うのが望ましい。もしこの時に歯肉の高さや唇側骨の位置が低い場合、歯根を挺出させることで抜歯即時インプラント治療が可能になる場合もある。

CT上でインプラント埋入位置をシミュレーションするのだが、この時に大事なことが当然インプラントの埋入位置となる。近遠心的位置関係としてはおおよそ両隣在歯間中央で良いと考えられるが、頬舌的な位置関係及び埋入深度が重要となる。まず頬舌的な位置関係としては、唇側骨とのギャップを考慮しなくてはいけない。インプラントと唇側骨の間にはギャップがあるのが望ましいと（2 mm程度）いわれているが、そのギャップが大きい場合（3 mm以上）は大きな唇側骨の吸収が見込まれるため切開し膜を使用するべきである[2）3）]（図5）。

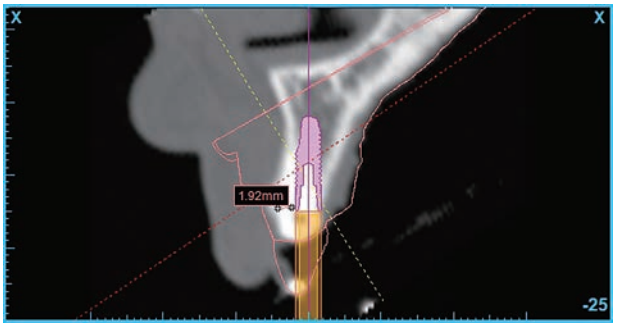


図5

また、埋入深度としては、理想的な歯頚線の位置から4 mm程度下にインプラントプラットフォームが位置するように設計したほうがよい（図6）。これは生物学的幅径3 mm+予想される骨吸収量1 mmの合計4 mmという計算である。これより深い分には骨吸収などによりインプラントが露出する事態は避けられるが、深すぎる場合補綴物の形態も難しくなるため4 mm程度が望ましい。これらの

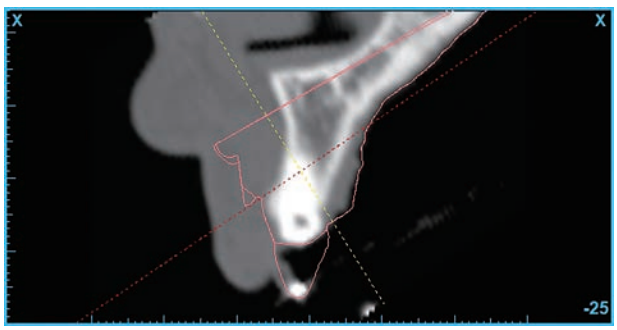


図4

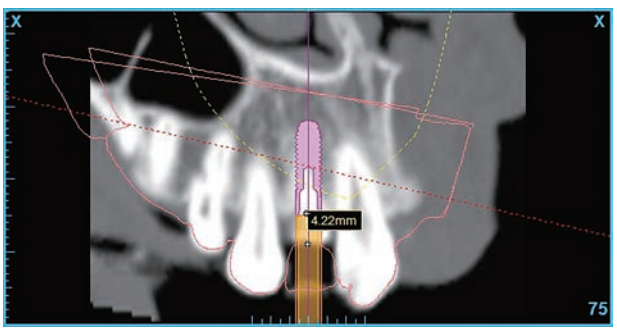


図6

ことから、抜歯即時埋入の埋入位置は口蓋側低位埋入が適していると考えられる。そして、当然十分な初期固定が得られることも必須条件である[4]。十分な初期固定を得るにはインプラント体の長さや的確に埋入窩を形成することが求められる。

今回のケースでは薄いが唇側骨が十分な高さ存在していることが確認できたため、抜歯即時インプラントを行うこととした。ここで重要なのが愛護的に抜歯を行うことである。この薄い唇側骨をいかに温存したままインプラント埋入できるかが治療成功のカギとなる。

⑵　抜歯即時埋入手術

術前の口腔内を示す（図７）。今回は愛護的に抜歯を行うために残根牽引抜歯器具：Venex® Ⅱ（株式会社フォレストワン、日本）を使用した。この器具は周囲骨に可及的に侵襲を与えずに残根を牽引抜歯することができるため、即時インプラント治療に有用な器具である。術前に歯冠及びコアを除去しておき、歯根を引っ張り上げるアンカーを歯根に装着

図７

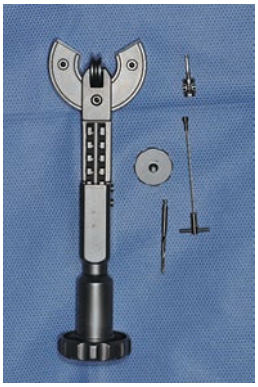


図８

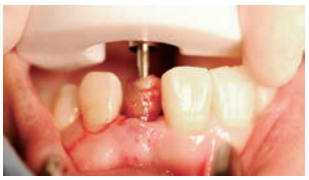


図９

図10

図11

した後に愛護的に抜歯を行う（図８，９）。

唇側骨を温存でき、外側性の GBR が必要ない場合は切開を行わず、抜歯窩より埋入窩の形成を行う。ガイドを用いてインプラント埋入のための適切な埋入窩形成を行うのだが、インプラントの埋入位置が非常に重要になってくる。待機埋入でもそうだが、前歯部のインプラント埋入部位は十分に骨があ

図12

図13

る場合でない限り斜面になることが多く、正確な埋入窩形成が行われないと、唇側にインプラントがずれる危険性がある。このずれは特に前歯部インプラント治療を行う場合、審美的な問題を招く可能性が非常に高くなるので、十分念頭に置いておかなければいけない。ドリルが滑らないようにラウンドバーやダイヤモンドバーで起始点を形成するのも重要なポイントである（図10）。埋入窩の形成後、慎重にインプラント体を埋入する（図11）。この時、長いインプラント埋入ドライバーを用いて埋入することで、インプラント体の埋入方向の変化を如実に察知することが可能である。予定の位置にインプラント体を埋入し終わった後、オステル ISQ アナライザーにて ISQ 値を測定し、65以上であれば即時修復が可能だと言われている[5)]。今回の測定値は72

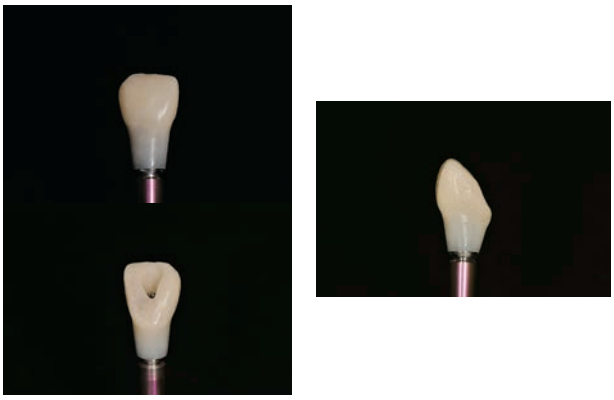


図14

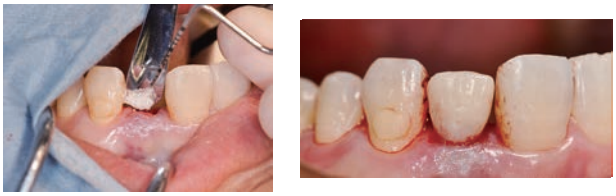


図15

図16

であったため（図12）、予定通り即時修復を行うこととした。この時もし、測定値が65以下の場合、即時修復は諦め、即時埋入のみに留めたほうが良い。事前に中をくりぬいた暫間上部構造を準備しておき、口腔内で位置を調整したのち、インプラント体に装着したテンポラリーシリンダーと光重合コンポジットレジンにて繋げる（図13）。それをいったん取り外し、技工室サイドで完成させる。この時、唇側面の立ち上がりを根元から立ち上げるのではなく、図のようにすることで唇側歯肉を圧迫せずに歯肉退縮が防げる（図14）。唇側骨とインプラント体

のギャップに骨補填材を填入し、作製した暫間上部構造を装着する（図15，16）。この時対合歯と接触しないようにすることも重要であるが、隣在歯と固定などはしないようにする。

⑶　術後

術後は術部の感染や暫間上部構造の動揺などに注意しながら経過観察し、インプラントが骨とオッセオインテグレーションするまで待機する。術後半年経過時点の口腔内写真を示す。右上反対側同名歯と暫間上部構造装着部の歯頚部の高さは同等に保たれており炎症や感染の兆候も認められない（図17，18）。その後印象採得を行い、最終上部構造を作製した。最終上部構造装着時の口腔内写真を示す（図19，20）。最終上部構造装着時の歯頚部の高さもまた、反対側同名歯と同等であり、歯間乳頭部のブラックトライアングルも見られず、審美的な仕上がりとなっている。

図17

図18

図19

図20

3．まとめ

インプラント治療の普及に伴い、失われた咬合を再構築するという最大の目的のほかに審美性を回復するという新たな目的も達成されつつある。しかし、前歯部審美インプラント治療を行うには従来の臼歯部インプラント治療に加え、術前・術中・術後にいくつか注意点がある。術前の注意事項としては軟組織・硬組織の状態を見極めることである。例えば唇側骨や歯頚部歯肉の高さが低い場合、残根を牽引にて挺出させてから再度評価をすることも可能であるし、即時修復を行わず、フラップを開いてしっかりGBRしなければいけない場合もある。また、術中においても場合によっては治療法を切り替えていかなければいけない。

本稿内だけではすべての注意事項に触れることはできないが、基本を押さえておけば取り返しのつかない失敗は免れる。また、今回単独歯埋入について言及したが埋入本数が複数になった場合の埋入位置や深度などもガイドラインが出来つつあるため、各解説書をしっかり熟読し、治療を行うことで、患者満足度の高い治療が可能となるだろう。

参考文献

1）Iasella JM, Greenwell H, Miller RL, Hill M, Drisko C, Bohra AA, Scheetz JP : Ridge preservation with freeze-dried bone allograft and a collagen membrane compared to extraction alone for implant site development: a clinical and histologic study in humans. J Periodontol, 74(7) : 990–9, 2003.

2）Chen ST, Wilson TG Jr, Hämmerle CH. Immediate or early placement of implants following tooth extraction: review of biologic basis, clinical procedures, and outcomes. Int J Oral Maxillofac Implants. 19 Suppl : 12–25, 2004.

3）Botticelli D, Berglundh T, Lindhe J. Hard-tissue alterations following immediate implant placement in extraction sites. J Clin Periodontol. 31(10) : 820–8, 2004.

4）APARICIO, C., RANGERT, B., SENNERBY, L. : Immediate/early loading of dental implants:A report from the Sociedad Espanola de Implantes World Congress Consensus Meetingin Barcelona, Spain, 2002 ; Clin Inplant Dent Relat Res, 5 : 57–60, 2003.

5）Benic GI, Mir-Mari J, Hämmerle CH. Loading protocols for single-implant crowns : a systematic review and meta-analysis. Int J Oral Maxillofac Implants. 2014 ; 29 Suppl : 222–38, 2014.

福岡歯科大学学内同窓会・学術振興事業の実施について

本事業は、福岡歯科大学学内同窓会に属する正会員、準会員を対象とする学術および研究活動を支援するものです。同窓会年会費を滞りなく納めている者が対象です。４つの事業により成り立っており、同窓会特別委員会により管理運営されています。本事業の申請については、同窓会本部事務局へお尋ね下さい。

対象項目

１）研究助成金（学内同窓会正会員の研究を対象とする）

２）研究奨励賞（学内同窓会正会員の論文を対象とする）

３）旅費援助金（国内外で開催される国際学会の発表に対する旅費の援助）

４）留学援助金（外国・国内留学への援助金）

福岡歯科大学同窓会・学術振興事業内訳

事業名	対象者	金額	申請書類	備考
研究助成金	同窓会学内支部に属する正会員	50万円を上限とする。	様式１、様式２ 推薦状	大学経理、推薦者を経て、申請者の研究費となる。
研究奨励賞	同窓会学内支部に属する正会員	３万円	様式１、様式３ 推薦状、別刷２部	本賞金は同窓会総会等において同窓会長が賞状と共に授与し、２名を限度とする。
旅費援助金	同窓会学内支部に属する正会員、準会員	正会員　国内　５万円 海外　10万円 準会員　国内　３万円 海外　５万円 を上限とする。	様式１、様式４ 発表演題の受領を証明する書類を添付	国際学会を対象とし、原則として正規の旅費以内で援助限度額以内とする。
留学援助金	同窓会学内支部に属する正会員	国内　10万円 海外　30万円	様式１、様式５ 留学先の受け入れを証明する書類を添付	

＊平成28年１月１日より施行する。

「新しい学生生活」

福岡歯科大学
総務委員長
田中　弥秀（５年）

任期満了に伴う福岡歯科大学学友会総務委員長の改選が行われ、この度令和３年度総務委員長に就任しました田中弥秀と申します。福岡歯科大学同窓会のみなさまにおきましてはいつも多大なるご支援を賜り厚く感謝申し上げます。

さて昨今新型コロナウイルスの影響で度重なる緊急事態宣言の発令など予断を許さない状況が続いております。福岡歯科大学学生は感染防止対策をとって日々生活しております。まず登校時、お昼休みの食事時の学食の密を避けるため各学年で時間をずらしたり、毎朝の体温測定やこまめな手洗い、うがい、手指消毒、マスクを正しく装着するなど当たり前のことを日々徹底しております。また、昨年に完成した新病院では感染防止対策として処置前に患者様にうがいをしてもらったり、診療前後でユニットを消毒用シートで拭いて毎日テープをつけ換えたりすることで清潔・不潔域の区別を徹底しスタンダードプリコーションに配慮した歯科治療を患者様に提供しております。

次に我々学生たちの普段の生活も一変しました。クラブ活動は昨年度から活動中止で毎年開催されるオールデンタルや各部活が出店する田の歯科祭等も中止となりました。またプライベートでの友達との時間も制限されました。勉強面でも教室での密を避けるために遠隔授業が昨年から始まりました。動画での授業なので何度も見返せる反面、授業の緊張感・雰囲気がない分どうしても動画だけでは集中しにくいので、内容をしっかり理解できるのか不安でした。

最後に私は今５年生として登院を通して勉強に励んでおります。臨床現場では様々な症状をもった患者様が来院され、教科書通りに治療を行っても症状が解消されない患者様もいらっしゃってしっかり勉強してもそれが患者様を治せるとはかぎらないことにギャップを感じました。卒業後は、何が正しくて正解なのか明確な答えがない領域を扱うことに、以前先生が授業中におっしゃっていた卒業後の勉強の方が大変ということが身に染みました。ただまずは、１年半後の歯科医師国家試験を合格しないことにはそのステップにいけないので現役合格目指して頑張りますので変わらぬご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願いします。

「夕焼けに染まる棚田」

福岡歯科大学
福田　　光（５年）

夏休みにできることもなかったので、気晴らしにドライブをしていました。

夕陽が沈む中、流れ行く景色の中で、急に視界が開けるとそこには夕焼けに染まる広大な棚田が広がっていました。

日付　2021年７月24日
場所　佐賀県東松浦郡玄海町浜野浦
　　浜野浦の棚田展望台より

カメラ　Canon EOS R6
レンズ　TAMRON SP24-70mm
　　F/2.8 Di VC USD G2 A032
撮影データ　ISO160 70mm F11 1/200s

「リーダーシップ」

米国ワシントン州
開業医勤務
片渕　三千綱（25期）

「リーダーシップ」という言葉に、何かしらの抵抗感を感じるのは自分だけであろうか。この原稿依頼を受けてから、どのような内容を書くことで福岡歯科大学に貢献できるかを考えた末、ここに焦点を当ててみる事にした。同大学を卒業したのが2003年、改めて18年の月日が流れている事に気づいた。

米国北西部に位置するワシントン州とその中心都市であるシアトルに足を踏み入れたのが2013年。臨床医としてのレベルをもう一段上げたいという一心で、ワシントン大学の歯周病学の門を叩いた。プログラムの期間は３年間、４人の同級生と切磋琢磨するという環境に身を置いた。ワシントン大学は、補綴科、歯周病科、矯正科の結びつきが強く、専門医達が一丸となって症例に取り組む、いわゆるインターディシプリナリー・アプローチの草分け的存在である。期待と不安に溢れた初日に、初めて同級生と顔を合わせた日の事は記憶に新しい。無事に卒業し、もう少し現場でのキャリアを積むために就職先を探した。運よく勤め始めたものの、専門医になりたての日本人が簡単に患者の紹介をもらえる程甘い世界ではなかった。紹介医と連携して高度な治療をと考えていたが、そもそも紹介がない。理想を実現とするにはリーダーシップと大きな関わり合いがあると気付くのは随分先になる。現院長とスタッフに支えてもらいながら、約４年間、地道に丁寧に患者さんを診て、良い形で紹介医に送り返す事を続け、ようやく継続して患者さんの紹介をもらえる様になり、医院の一つを任せてもらえるまでになった。言い換えると、信頼を得ることができ始めた、また意図せずにリーダーシップが形をなし始めたと思う。

私は、リーダーシップという言葉に、先頭に立って周りを牽引していく印象を持っていた。内向的な自分には向いていない、むしろ苦手な役割である。しかしこれは私の身勝手な想像であり、リーダーシップとはむしろ元来無形なものであることと解釈する機会があった。2021年10月、米国歯周病学会（AAP）が主催する次世代のリーダーを育成するLEAD プログラムに招かれた。現会長や役員が、教育機関や開業医としてそれぞれの立場でどのような役割を果たしているか、またどのようにしてそこに至ったかを、招かれた21名と議論するというのが企画の一部であった。学会に長年貢献している先生達の生き方を垣間見ることができた。私の結論は、リーダーシップの形は多様で、それぞれの人生、理念、出会ってきた人達の影響を反映したものであり、自分なりの形を成して良いと考えた。むしろ、自分の人生経験を通して形作られた物こそが、最も頼れる基盤であり、そこに LEAD プログラムは自信を与えてくれたと思う。紹介医と複雑な治療の計画を立てる際などに、相手に気兼ねなく意見をしてもらう場を作ることや、スタッフが相談を持ちかけやすい病院の環境を作ることなども、一つのリーダーシップの形と言える。現在は、私と仕事をすることに、紹介医やスタッフが安心感を感じてくれることが、私のリーダーシップスタイルであり、それならば内向的な自分でも継続できると考えている。福岡歯科大学で育まれたものを、多様な文化が混じりあう環境で磨いてきた。歯科医師として少しずつでも前進しようとする中で、自分の内面に目を向ける良い機会であった。

「卒業31年目の挑戦」

佐賀県開業
久野歯科医院
久野 麻弓（12期）

同窓生の皆様、お久しぶりです、12期卒業、佐賀の久野麻弓です。コロナで世界が変わってしまい、世の中の早すぎる進化にこれからついていけるだろうかと不安もちょっとある今日この頃の50代後半です。学生時代には多くの先生方、先輩方、同級生の皆さんにお世話になりありがとうございました。この場をお借りして30年ぶりにお礼申し上げます。

「光陰矢の如し」皆様も同じだと思いますが、卒業して、がむしゃらに働いていて気がつくと30年も経っていた、とふと気づきました。コロナで県外に出向くことが激減し、勉強会も一時は何も無くなり、別世界となったスローモーションのような日々の中で、今までの人生を振りかえる時間ができたとき、急に「あの先輩は…あの教授は…あの友達…あのときのあの人…」日々の仕事に忙殺されて忘れていた方々を懐かしく思い出す機会が増えました。

人生いろいろありました、自分の為に今まで一生懸命に生きてきたような人生だけど、世のため人のために貢献できるような人生にあこがれるような歳にもなりました。今まで、ここまで来るのにどれだけの人に助けてもらったことか、それを考えると、自分のためだけに生きるわけにはいかないな、と思い始めたのが数年前。町のためになるような歯科医院を作り残したいと思い計画を練り始め、今年の７月に移転開業することができました。

５～６年前、50歳になって初めて移転開業を計画するわけですが、計画が甘く土地を購入するにも一苦労、周りは農地ばかりで、宅地転用という言葉も知りません。また、農家の方は、1,000坪単位で土地を売却しようとされてなかなか土地が見つかりません。知り合いに助けられ数年かかって土地獲得。さあ、次は設計士さんと建築会社を決めなければ、と思いそちらの方向に走り出す私でしたが、後々大失敗することになります。当医院は28年前から医療法人です。医療法人は移転など変更事項があるときは、「定款の変更」をまず一番最初にしなければならないのに、何事も考えが甘い私は、届出はまだまだ先でいいだろうと余裕を持ちすぎていました。結局、開業予定日ギリギリにすべての書類の処理が終わりました。税理士さんから「間に合って良かった…」とのお言葉。

自分の歯科医院を建築してみて、何十人もの方々が私を助けて支えてくださり、真剣に取り組まれる姿を見続ける日々。感謝と尊敬と、自分もまだまだ頑張って、社会貢献の人生を歩むぞ！という決心を頂くことができました。現場監督がいつも社長から言われるのが、「うちには営業マンはいない、お前たちの姿（が営業）ぞ！」だそうで、その仕事ぶりに胸が熱くなるときもありました。行動がすべてを語りますね。当院の理念は「心の医療」です。この理念をきちんと行動で示し地域社会に貢献していくことをこの書面で誓います！今回このような機会を頂きありがとうございました。

福岡学園はいま

福岡学園は、教職員が一丸となって、厳しい倫理観、さらに目的意識を持ち、学生が意欲を持って勉学し、同窓生が誇れる母校を目指して参りたいと思います。福岡歯科大学同窓生の皆様には、今後とも変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

以下、この一年間の学園の主なトピックスをご紹介します。

○福岡歯科大学長に髙橋　裕氏を再任

福岡歯科大学長の任期が令和３年１月31日で満了となることに伴い、令和２年12月15日開催の第556回理事会の議を経て、髙橋裕氏の再任を決定いたしました。任期は令和３年２月１日から令和６年１月31日までとなります。

髙橋　裕　福岡歯科大学長

○熊本県歯科医師会より感謝状が贈呈されました

建替え前の病院で使用していたユニットを令和２年７月豪雨で甚大な被害を受けた熊本県の歯科医院へ寄贈したことに対し、熊本県歯科医師会より感謝状が贈呈されました。熊本県歯科医師会伊藤明彦会長より水田理事長、髙橋歯科大学長へ感謝状が手渡された後、被災直後の様子と寄贈されたユニットを取り付けた様子を写真とともに説明され、改めて感謝の意を伝えられました。

右側より福岡歯科大学同窓会 吉永会長、熊本県歯科医師会 伊藤会長、水田理事長、髙橋歯科大学長、阿南病院長

○学校法人福岡学園・福岡歯科大学創立50周年記念講堂起工式を挙行

令和３年３月30日、学校法人福岡学園・福岡歯科大学50周年記念講堂建設工事に先立ち、起工式が執り行われ、水田理事長、田口常務理事、髙橋歯科大学長をはじめとする本学園関係者ならびに設計および施工関係者が参列し、これから始まる工事の無事を祈願しました。

この講堂は、令和４年に学校法人福岡学園・福岡歯科大学が創立50周年を迎える記念事業の一環として、旧病院跡地に建設されます。約550人収容の大ホールと共に、大小のセミナー室を配置し、１階にはフードコートも設置され、令和４年６月の完成を目指し、工事が進められます。

記念講堂予想図

○職域接種の実施/福岡市のワクチン接種支援へ

医科歯科総合病院は、新型コロナウイルス感染拡大を踏まえ、本学園の学生および教職員とその家族・親族・近隣住民等における希望者を対象とした職域接種を実施しました。職域接種の実施によって地域負担の軽減や接種の加速化を図り、安心安全な教育・研究・医療環境を学生や教職員、地域の皆さまへ提供していきます。また、ワクチン接種の担い手不足が深刻化する中で特例により歯科医師も容認されたことを受け、福岡市からの要請のもと、本学園の医師、看護師に加え、歯科医師も集団接種会場において支援を行いました。

看護師によるワクチン接種の様子

集団接種会場における支援について（８月31日時点）
主な支援会場
マリンメッセ福岡Ｂ館、中央ふ頭クルーズセンター、福岡市西部地域交流センターさいとぴあ、福岡市ももち体育館
支援者数・期間
〈医師〉 延べ 29名（７月１日～８月31日） 〈歯科医師〉 延べ236名（５月28日～８月31日） 〈看護師〉 延べ 43名（５月16日～８月25日） （うち、福岡看護大学17名） ※９月１日以降９月22日まで延べ52名の予定 （うち、福岡看護大学19名）

○学校法人福岡学園・福岡歯科大学創立50周年記念募金　実績報告

平成30年７月より開始しました「学校法人福岡学園・福岡歯科大学創立50周年記念募金」について、多くの方からご寄付をいただいており、創立50周年特設記念サイトに「寄付者ご芳名一覧」を掲載させていただいております。

同窓会の皆さまより多大なるご寄付をいただきました。また他にも個人・法人でご寄付をいただきました多くの皆様に、心より感謝申し上げます。

この募金は、学校法人福岡学園・福岡歯科大学が令和４年に創立50周年を迎えるにあたり実施する記念事業（講演会や学生イベントの開催等）にかかる費用に充当するために実施しているものです。記念募金の趣旨にご賛同いただき、引き続き、ご支援・ご協力のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

●募金実績額

（平成30年７月１日～令和３年10月31日ご寄付分）

610名　74,903,000円

○学校法人福岡学園開学記念式典を挙行

令和３年７月27日、福岡歯科大学本館９階講堂において、学校法人福岡学園開学記念式典が執り行われました。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、座席の間隔を広く取り、マスクの着用やアルコールでの手指の消毒など対策を徹底して実施しました。

名誉教授称号授与、永年勤続者表彰、福岡歯科大学・福岡医療短期大学最優秀教育改善賞表彰、福岡歯科大学・福岡看護大学特待生表彰、福岡医療短期大学特別奨学生表彰、研究優秀賞表彰が行われ、今年度は、福岡学園コロナウイルス管理室に理事長特別賞、福岡医療短期大学の学生に福岡医療短期大学校章デザイン優秀賞が併せて表彰されました。

開学記念式典

○福岡看護大学大学院看護学研究科を開設

令和２年10月23日に文部科学省より設置認可を受けた「福岡看護大学大学院 看護学研究科 看護学専攻 修士課程」を令和３年４月に開設しました。

福岡看護大学は平成29年４月に、一人ひとりの尊厳を保ち、その人らしい最適な暮らし（well-being）を支える看護専門職を育成することを目的とし、福岡学園キャンパス内に開設しました。看護学研究科看護学専攻修士課程は、同学部を基礎とし、看護の専門性を一層向上させていくことを目指します。

福岡看護大学

◆福岡歯科大学◆

○災害時の歯科医療支援活動に関する協定書を締結

令和２年11月20日、福岡歯科大学は、福岡県歯科医師会と災害時の歯科医療支援活動に関する協定書を締結しました。この協定は、被災者の口腔ケアや亡くなられた方の身元確認といった災害時の歯科医療における支援内容を事前に決めておき、歯科医師などの人員を円滑に派遣するためのものです。本学のほか、九州大学、九州歯科大学、福岡県歯科衛生士会、福岡県技工士会がそれぞれ協定を結び、県全体で災害時の迅速な対応を促進することとなりました。

締結の様子

○「学術研究振興資金」に福岡歯科大学日髙教授が採択

日本私立学校振興・共済事業団による令和３年度学術研究振興資金の選考結果が発表され、日髙真純教授（分子機能制御学分野）の研究課題「DNA 損傷に応答して細胞死を選択する制御機構の解明」が採択されました。本資金は、私立の大学、短期大学、高等専門学校における社会的要請の強い学術研究に交付されます。各学校からの応募は１課題のみに限定されており、令和３年度は新規応募件数108件のうち、採択は17件のみ（採択率15.7％）と難関の研究助成です。

本研究は、がん細胞優先的な細胞死誘導を目指し

た基礎研究であり、遂行できれば、口腔扁平上皮がんの新たな治療法につながる独創的な研究テーマである点が評価され、採択となりました。

日髙　真純　教授

○国際交流

令和３年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、本学から協定締結校への訪問は中止いたしました。

○第114回歯科医師国家試験

令和３年３月16日、厚生労働省から第114回歯科医師国家試験の結果が発表されました。全国の受験者は3,284名で、合格者は2,123名でした。福岡歯科大学からは新卒者83名、既卒者122名、計205名が受験し、新卒者47名、既卒者27名、計74名が合格しました。

○生涯研修の充実

福岡歯科大学では平成23年12月に開院した口腔医療センターを生涯研修の中核施設として、歯科医師等の資質の保持・向上に向けた研修を積極的に開催しています。

令和２年度は、「摂食嚥下リハビリテーションに役立つ知識」「スケーリング・ルートプレーニングセミナー」「歯周組織再生療法セミナー」「睡眠時無呼吸症候群マウスピース治療実践セミナー」「口腔インプラント初級講習会」の５つのプログラムを実施し61名の方が参加されました。

令和３年度は、「摂食嚥下リハビリテーションに役立つ知識」「歯周組織再生療法セミナー」「スケーリング・ルートプレーニングセミナー」「睡眠時無呼吸症候群マウスピース治療実践セミナー」「口腔インプラント初級講習会」を実施・計画しております。

今後も、歯科医学・歯科医療の進展や社会環境の変化に対応し、社会のニーズに応えることの出来る歯科医師等の育成・支援を目指して、様々な生涯研修を開催しますので、是非ご参加ください。

生涯研修

◆医科歯科総合病院◆

○発熱外来を開設

医科歯科総合病院では、新型コロナウイルス感染症対策の一環として、病院玄関で手指の消毒と検温を行っています。皆さまが安心して受診いただけるよう、令和３年４月１日、発熱外来を開設いたしました。病院玄関の検温にて発熱などの症状がみられる場合には、感染予防のため一般診察室と分けて、別の場所で診療いたします。

発熱外来

○ホームページをリニューアル

医科歯科総合病院のホームページを新病院の開院にあわせ、大幅にリニューアルいたしました。この度のリニューアルでは、スマートフォンを中心としたデバイスからの閲覧でも、使いやすい環境が提供できるよう、デザインや構成を見直しました。

今後も地域の皆様や患者の皆様をはじめとして、多くの方へ本学の医療・研究・社会貢献の諸活動を、ホームページを通じて発信してまいります。

【URL】
https://www.fdcnet.ac.jp/hos/

◆福岡医療短期大学◆

○第30回歯科衛生士国家試験

令和３年３月26日、厚生労働省から第30回歯科衛生士国家試験の結果が発表されました。全国の受験者は7,099名で、合格者は6,624名でした。歯科衛生学科からは新卒者72名、既卒者５名、計77名が受験し、新卒者72名、既卒者１名、計73名が合格、新卒者の合格率は100％となりました。

今回も昨年同様、国家試験対策として国試問題集の出題範囲を限定した演習試験を実施し、各回の成績不振者に対して、放課後等に補習を行いました。また、演習ならびに模擬試験の成績不振者には冬期休暇中はもとより、国家試験直前まで特訓補習を実施しました。

○福岡医療短期大学の校章を制定

福岡医療短期大学の校章が新たに制定されました。この校章のデザインは、学内で広く公募を行い、学生から応募のあったグラジオラスの花の作品を基に制作しました。応募した学生は、「ピンクのグラジオラスには『たゆまぬ努力』という花言葉があり、日々進歩する医療に対してついていけるように勉強を怠らず、自分自身を向上させる努力を惜しまないようにするという意味を込めた。」と話していました。

福岡医療短期大学の校章

○保健福祉学科が閉学科

保健福祉学科が令和３年３月31日をもって閉学科となりました。

保健福祉学科は、介護福祉士養成学科として平成12年４月に開設。平成27年には、福岡県の介護福祉士養成施設では初めてとなる喀痰吸引研修等登録研修機関として登録されました。また、介護福祉士のスペシャリストを育てる教育は、その取り組みが文部科学省に高く評価され、通算６つの文部科学省のGP（優れた教育プログラム）の選定を受けていました。しかし、介護職を取り巻く環境は厳しく、全国的に介護福祉士を目指す学生が減少するなか、福岡医療短期大学も令和２年度の保健福祉学科の募集を停止。令和３年３月に最後の学生６人が卒業を迎え、21年の歴史に幕を下ろしました。

閉学科に先立ち、３月12日に閉学科式が執り行われました。式では、これまでの思い出や卒業生からのメッセージを紹介した動画が流され、駆け付けた卒業生たちは学生時代に思いを馳せながら、閉学科を惜しんでいました。

閉学科式

○ホームページをリニューアル

福岡医療短期大学では、受験生をはじめ、在学生や卒業生、保護者の方など多くの方々に福岡医療短期大学の魅力を発信できる広報ツールとしてさらに活用すべく、この度、ホームページを大幅リニューアルしました。情報の探しやすさに配慮した構成としたほか、スマートフォンを中心とした小さなデバイスからもご利用いただけるようになっています。

今後も福岡医療短期大学の最新の情報を皆さまに提供してまいります。

【URL】
https://www.fdcnet.ac.jp/jcol/

◆受賞など◆

○短期大学教育功労者として堀部学科長が文部科学大臣から表彰

堀部晴美 歯科衛生学科長が、文部科学省「短期大学教育功労者」の表彰を受けました。

短期大学教育功労者表彰は、短期大学教育制度が発足して70年となる節目に際して、短期大学教育に特に功労のあった者を文部科学大臣が表彰するものです。

堀部学科長は、平成９年４月から福岡医療短期大学に在籍されており、歯科衛生学科助手、講師、准教授を経て、現在は教授として歯科診療補助、歯科予防処置、歯科保健指導、口腔介護関係などの講義や実習を担当されております。長年にわたる教育への貢献が評価されて、今回の表彰に至りました。

○医学教育等関係業務功労者として久保歯科衛生士が文部科学大臣から表彰

久保美由紀 歯科衛生士が、文部科学省「医学教育等関係業務功労者」の表彰を受けました。

医学教育等関係業務功労者表彰は、医学又は歯学に関する教育、研究若しくは患者診療等の補助的業務に関し、顕著な功労のあった方々を毎年文部科学大臣が表彰するものです。

久保歯科衛生士は、長年にわたり福岡歯科大学医科歯科総合病院にて業務に従事し、その功労が顕著であり、他の模範となっていることが評価されて、今回の表彰に至りました。

◆人　　事◆

（令和２年11月１日～令和３年10月31日）

■名誉教授

令和３年７月27日に執り行われた学校法人福岡学園 開学記念式典において、石川博之前教授（矯正歯科学分野）ならびに廣藤卓雄前教授（総合歯科学分野）に福岡歯科大学名誉教授の称号が授与されました。

石川氏は、平成12年11月に福岡歯科大学教授に就任後、同大学医科歯科総合病院長、学校法人福岡学園（旧福岡歯科学園）理事・評議員等を歴任し、平成27年には福岡歯科大学長に就任。その後、平成30年より常務理事を務められ、約20年間、学園の発展に尽力されました。また、廣藤氏は、平成14年９月に福岡歯科大学教授に就任後、学生研修センター主事、情報図書館長を歴任し、令和３年まで総合歯科学講座主任教授を務められました。臨床では、総合歯科長、口臭クリニック科長等を歴任し、約19年間、学園の発展に尽力されました。

石川　博之 名誉教授

廣藤　卓雄 名誉教授

■新役職教員等紹介

●医科歯科総合病院 副病院長

令和３年２月に開催された第558回理事会において、都築 尊教授、樋口勝規客員教授、中畑高子客員教授が新副病院長に選任されました。また都築副病院長は、令和３年３月に開催された理事会、評議員会の議決により、学校法人福岡学園の新評議員に選任されました。

※川野庸一教授は任期期間中のため、継続

都築　尊 副病院長

樋口　勝規 副病院長

中畑　高子 副病院長

●福岡歯科大学新役職教員

令和３年２月16日に開催された第558回理事会において、大学運営の中核を担う役職教員が次の通り決定しました。

【病院長】
阿南　　壽〔歯科保存学分野・教授〕
【学生部長】
稲井哲一朗〔機能構造学分野・教授〕
【情報図書館長】
坂上　竜資〔歯周病学分野・教授〕
【口腔・歯学部門長】
城戸　寛史〔口腔インプラント学分野・教授〕
【全身管理・医歯学部門長】
池邉　哲郎〔口腔外科学分野・教授〕
【社会医歯学部門長】
埴岡　　隆〔口腔健康科学分野・教授〕
【基礎医歯学部門長】
日髙　真純〔分子機能制御学分野・教授〕

●福岡看護大学副学長および福岡看護大学大学院研究科長

令和３年２月16日に開催された第558回理事会において、樗木晶子教授が福岡看護大学副学長および福岡看護大学大学院研究科長に選任されました。

●医科歯科総合病院看護師長

医科歯科総合病院看護師長に伊藤明美氏が選任されました。

■新教授紹介

【令和３年10月１日付】

米田　雅裕 教授

米田（よねだ）　雅裕（まさひろ）

〔総合歯科学分野・教授〕

九州大学歯学部卒。同大学大学院歯学研究科修了。同大学歯学部助手、福岡歯科大学総合歯科学分野講師、同分野助教授、同大学口腔医療センター教授、同大学総合歯科学分野定員外教授を経て、令和３年10月１日、同大学総合歯科学分野教授に就任。博士（歯学）。

■採用

【令和３年２月１日付】
大野　　純〔口腔医学研究センター・任期付教員（教授）〕
【令和３年４月１日付】
川波　　哲
〔全身画像診断学分野（現：放射線診断学分野）・教授〕
大島　裕司〔眼科学分野・准教授〕
池田　水子〔麻酔管理学分野・講師〕
藤岡　奈美〔看護大・母性看護学分野・教授〕
吉田　大悟〔看護大・地域・在宅看護部門・准教授〕
山﨑　啓子〔看護大・成人看護学分野・講師〕

■昇任

【令和２年12月１日付】
梅﨑陽二朗〔高齢者歯科学分野・准教授〕
大谷　崇仁〔機能構造学分野・講師〕
【令和３年１月１日付】
勝俣　由里〔口腔外科学分野・講師〕
横大路智視〔病院事務課・課長〕
【令和３年３月１日付】
渡辺　　猛〔社会歯科学分野・教授〕
川口　　稔〔材料工学分野・准教授〕
【令和３年４月１日付】
水上　正彦〔歯科保存学分野・講師〕
佐々木三奈〔口腔腫瘍学分野・講師〕
藤井　裕樹〔内科学分野・講師〕
三好　麻紀〔看護大・基礎看護学分野・准教授〕
町島希美絵〔看護大・地域・在宅看護部門・准教授〕
秋永　和之〔看護大・成人看護学分野・講師〕
青野　広子〔看護大・小児看護学分野・講師〕
南　レイラ〔短大・歯科衛生学科・講師〕
加藤　　健〔企画課・課長〕
和才　広輝〔教育研究支援課・課長〕
【令和３年５月１日付】
晴佐久　悟〔看護大・基礎・専門基礎分野・教授〕

【令和３年６月１日付】
加我　公行〔冠橋義歯学分野・講師〕
【令和３年７月１日付】
佐藤　　平〔材料工学分野・講師〕
【令和３年８月１日付】
島津　　篤〔社会歯科学分野・准教授〕

■新任客員教員

【令和３年４月１日付】
大久保つや子〔看護大・客員教授〕

■新任臨床教員

【令和３年４月１日付】
二木　寿子〔臨床教授〕
平塚　正雄〔臨床教授〕

■定年退職

廣藤　卓雄〔総合歯科学分野・教授〕
渡辺　　猛〔社会歯科学分野・教授〕
川口　　稔〔材料工学分野・准教授〕
大久保つや子〔看護大・基礎・専門基礎分野・教授〕
森中　恵子〔看護大・地域・在宅看護部門・准教授〕

■退職

【令和２年11月30日付】
山下　潤朗〔口腔医学研究センター・教授〕
【令和２年12月１日付】
岡野　慎士〔病態構造学分野・准教授〕
【令和２年12月31日付】
福永　重智〔病院事務課・課長〕
【令和３年３月31日付】
徳本　正憲〔内科学分野・准教授〕
冨永　晋二〔麻酔管理学分野・講師〕
橋本　直隆〔内視鏡センター・講師〕
石井　健士〔生化学分野・講師〕
朔　　敬〔客員教授〕
香月　俊博〔内部監査室・内部監査室長〕
青木　潤吉〔施設課・課長〕
嶋田　　香〔看護大・基礎・専門基礎分野・教授〕
村田　節子〔看護大・成人看護学分野・教授〕
大城　知子〔看護大・成人看護学分野・准教授〕
倉成　由美〔看護大・精神看護学分野・講師〕
末松美保子〔短大・保健福祉学科・特任教員（教授）〕
【令和３年８月31日付】
中村加奈子〔看護大・小児看護学分野・講師〕

柔道部 OB 会
「我々はレジェンドと なりえたのか？」

柔道部 OB 会
会長　**野田 大三**（４期）

新型コロナの感染拡大が始まり約２年の年月がたち未だ出口が見えない状況が続いております。また、豪雨による自然災害も発生しました。同窓生の皆様はお変わりなくお過ごしでしょうか。

柔道部 OB 会も一期生の先輩方が卒業された年に立ち上げられてから41年がたちました。会員数も78名となり発会当時からは考えられない大所帯となっております。昨年から計画しておりました OB 会40周年記念事業も新型コロナ感染拡大のため２度３度と延期を余儀なくしており、現在45周年記念式典として事業をしようと計画を立てているところです。

OB 会の活動としての大きな柱となっていることは、①柔道部員（現役）への物心両面にわたる援助 ② OB 会員相互の親睦　この２つである。①においては、オールデンタル出場、これに伴う合宿への補助援助。新入生歓迎コンパ、卒業生追い出しコンパへの援助を中心としており進級や学生生活の悩みなども個別に受けている様です。

②においては、OB 総会の開催を中心にゴルフコンペや小規模 OB 会（単なる OB 会員による飲み会）を個別でやっているようです。

現在 OB 会が抱える大きな問題は、新入会員入会の減少で有ります。この事は大学の入学定員の減少、新入生の男女比の変化が大きく関わっています。その他には、「会費の徴収」「OB 会への参加増員」「高齢会員と若い会員との考え方のギャップ」等問題は山積しています。しかしこれらの事はゆっくりと腰を据え解決して行こうと思っています。

OB 会の活動内容はこれ位として、数年前の OB 総会の懇親会の折、若い会員の先生方数名が「先輩方には○○事や○○の事をされた方がおられると聞いたぞ」と耳に入って来た。「よくそんなこと知ってるね」と声をかけると少し興奮気味に「先輩、○○の事や○○の事は本当なんですか？」と訊ねて来た。「全て本当だよ」と答えると「先輩よくご存じですね」と「実際に見てたからね」と答えると「先輩は何期卒ですか？」「４期だけど」と答えると、若い先生方は「レジェンド世代じゃないですか！」と「そんな事は無いよ、まだまだ神話になるには早すぎるよ。」と彼らの知らない昔話を一つ二つ話してほかの会員の所へ移動した。

確かに OB 会員の先生方には残念な事だが鬼籍に入ってしまわれた方々も数名おられるが、私たちまでもがレジェンドなのだろうか？と悩んでしまう。はたして諸先輩方が残そうとした福歯大柔道部精神とは、次世代にこの精神のかけらでも残してこられたのだろうか？と自問自答を繰り返しております。しかし、会員の先生方には地元の柔道指導員として後輩の育成に励む者、学術の研鑽に励み指導者となる者、各地区の歯科医師会で手腕を発揮している者等多くの OB 会員が活躍していると聞いています。彼らの後ろには諸先輩方が残されて来た福歯大柔道部の精神が脈々と息衝いているものと思います。苦しい時こそ道場に掲げられた「道場訓」を思い出しもうひと踏ん張りして行こうと思います。

同窓会会員の皆様もコロナ感染拡大の中、福岡歯科大で培われた精神でこの難局を乗り越えて下さい。明かりはもう見えています、もうひと踏ん張りです。

「補綴とカーリング精神」

長谷歯科医院（兵庫県）
副院長
長谷 英明（31期）

福岡歯科大学を31期生として卒業し、早12年が経ちました。私は卒後の９年間を母校の有床義歯学分野でお世話になり、２年前から地元兵庫県で勤務しております。福岡時代の私には①補綴、②音楽、③カーリングの３本柱がございました。在学中はミュージックアソシエーション部に籍を置き、もっぱらバンド練習に精を出しておりましたが、ちょっとは運動しなきゃいけないなと思っていた矢先に私が福岡で偶然出会ったのが深夜番組で紹介されていたカーリングでした。今はなき KBC の名物番組「ドォーモ」で、リポーター陣が福岡の選手とカーリング対決をするというものでした。丁度2006年のトリノオリンピックが終わった後で、ウィンタースポーツが注目されている時期ならではの企画だったのですが、まさか福岡でカーリングができるとは！という衝撃が私を直撃しました。深夜の勢いで物事を決めると大概失敗するので翌朝にもう一度考えたのですが、やはり昨夜の衝撃が忘れられず、私は３日後に福岡県カーリング協会の門を叩くことになります。

１試合でバレーボールと同じカロリーを消費すると言われているカーリングは想像以上にハードなスポーツでしたが、頭、体力、五感、そしてメンバーと行う競技中のディスカッションを総動員して戦う不思議なスポーツにみるみるのめり込んでいき、同時期に競技を始めた仲間とチームを結成し、各地の大会に出場するようになっていきました。トリノ五輪、バンクーバー五輪代表の金村萌絵さんの指導のもと合宿を行い、選手権にも出場しました。残念ながら全日本選手権の出場は逃しましたが、西日本選手権で準優勝の記録を残すことができました。

何故カーリングにのめり込んでいったのか、よくよく考えてみると歯科（特に補綴治療）に似ているなと感じる部分が多々ありました。こじつけ感がやや強いですが、カーリングは四人一組で行う競技です。歯科医師、歯科衛生士、歯科技工士、そして患者さんの四者がそれぞれ意見と技術を出し合い協力しないと治療の成功には近づけないと考えられます。また、カーリングには選手全員が遵守するカーリング精神というものがあり、要約すると「不当に勝つぐらいなら負けることを選び、反則を犯したときは自己申告し、敵味方関係なくいいショットが見られたら喜び、この精神を生活の行動指針とすること」と記してあります。この精神は歯科に通じることがあると強く感じており、臨床を行う際に心の中に留めております。そして競技を通してチームで行うディスカッションの重要性をとことん学べたことが私の日常臨床の方向性を決めてくれたと強く確信しております。

現在ホームリンクであるパピオアイスアリーナの閉鎖問題で存続が危ぶまれる福岡のカーリングですが、興味を持つ人が増え、少しでも長く続いてほしいと願ってやみません。

南富良野合宿（写真中央・トリノ五輪代表金村萌絵さん）

島根県開催の西日本オープンにて

北見で福岡県選手権
カーリング もてなしに感謝

【北見】福岡県カーリング協会（友田剛会長）主催の県選手権大会が18日、北見市の河西建設カーリングホールで始まった。福岡に専用リンクが無く、開催地を探していたところ、北見カーリング協会が受け入れを快諾。初めて「聖地」でプレーした選手らは地元のもてなしに感激していた。

出場したのは、福岡市に拠点を置く「S-1S」と「ブランツはかた」の2チームで、高校生から社会人までの選手10人。19日まで3試合を戦う。大会は来年1～2月に名寄市で開かれる日本選手権につながる。

県大会は4回目。第1回は福岡市の屋内リンクを使ったが、フィギュアスケートなどと共用しているため氷の状態が競技に適さず、第2回から県外での開催に切り替えた。

北見では、地元のカーリング協会の会員らがボランティアで運営を行い、17日の歓迎会では市常呂町産のホタテやカキを振る舞った。友田会長は「何から何まで感動ばかりで、本当に来てよかった」と笑顔で話していた。（中橋邦仁）

北見で県選手権を戦う福岡のカーリング選手

北海道新聞社様ご提供

「卒後の今」

江﨑 真奈美（42期）

42期生の江﨑真奈美と申します。第113回歯科医師国家試験に合格し、九州大学病院で研修医課程を修了した後、2021年４月より同窓生である糸島市のおぎの歯科医院で、勤務医として日々診療に取り組ませていただいております。

2020年４月後半、新型コロナウイルス感染拡大予防のため緊急事態宣言が発令されました。まさに研修医として勤務し始めた直後でした。飛沫感染を予防するため処置内容を限定したり、勤務形態が交代制になったりした影響で、実際に診療に関わる機会も少なく不安を感じていました。その後緊急事態宣言が解除され、アシストから段階的に診療に参加し、患者さんを担当することになりました。今までの学生時代の模型実習とは全く違う、唾液や舌や頬粘膜のある実際の口腔中での処置は苦戦することが多くありました。技術的に難しいと思うことや治療計画を立案する難しさに悩むこともある一方で、少しでも処置が上手くできた時や患者さんに感謝の言葉をいただいた際には歯科医師としてのやりがいを感じることができました。研修医課程では、歯周病科、咬合補綴科、顎口腔外科、歯科麻酔科、全身管理歯科にお世話になりました。基礎疾患が多い患者さん、一般開業医では専門的処置が難しい患者さんが多く来院されました。学生時代も登院実習を経験しましたが、地域医療の中核を担う大学病院ならではの患者さんに「歯科医師」として真摯に向き合えた事は歯科医師人生の一歩目として非常に良い経験ができたと考えています。

2021年４月からおぎの歯科医院で勤務させていただいております。一般歯科治療はもとより、矯正、インプラント、再生治療など幅広い診療に取り組んでいる医院です。当院では歯科用 CT、マイクロスコープ、CAD/CAM システム、3D プリンターを導入し、治療の選択肢を広げ患者さんにそれらを提示できるようにしています。しかし、それらが治療してくれるわけではなく、機材の機能を最大限に活かせる歯科的技術力や知識を有していることが必要不可欠です。沢山のことを学べる環境に日々感謝し、歯科医療に真摯に向き合っております。

「歯並びが悪いから矯正したほうがいい」その言葉だけでは患者さんには響きません。しかし、実際はその場しのぎの治療をしてきたがゆえに咬合のバランスが崩れ、顎が痛い、頭が痛い、なんとなく痛みずっと治らないなどの不調を抱える患者さんの多くが、矯正治療を含めた全顎的治療を必要とします。患者さんの現在を診て、過去を読み、未来を予想した上で、治療を考える。そして様々な選択肢を提示した上で患者さんに決めてもらうことが大切であると院長から教えられます。患者さんが「治療してみようかな」と思ってもらえるきっかけを作るのは説明次第だと感じています。痛いところだけ治してほしい、全体的に治して噛めるようになりたいなど様々な価値観の方がいらっしゃいますが、問診・診査・診断を行い様々な治療方法を提案することで患者さんに「寄り添う」ことが出来るのではないかと考えています。

まだまだ歯科医師として２年目であり、技術的にも知識的にも不足していることばかりです。院長をはじめスタッフの皆さんに迷惑をかけながらも日々診療に一生懸命に取り組んでいます。様々な機材を最大限に活かし、患者さんに寄り添った治療ができるようこれからも日々研鑽していく所存です。世界はデジタル化が目まぐるしく進んでいます。この波に乗り遅れないようにする事が、私の歯科医師人生をより豊かで楽しいものにしてくれると考えています。

これからの未来を想像することはなかなか難しく不安な面もありますが、何故かワクワクもしています。未来を決めるのは私自身！と強く心に思い益々頑張りたいと思います。今回はこの様な機会をいただき感謝致します。ありがとうございました。

「卒後の歩み」

矢野歯科医院（高知県）
矢野 宗憲（9期）

今回、福岡歯科大学同窓会広報部より、「トーク& NOW」の執筆依頼を受けました。

なぜ？いま？私？色々思う事はありますが、折角のご指名ですので、引き受けることとしました。

昨年より続いているコロナ感染により先生方もご苦労されていることと思います。

また、今年はオリンピック並びにパラリンピックが開催されました。現在第５波と言われるコロナ禍で開催に色々賛否両論はありましたが、真摯に競技に向き合っている選手の方をテレビで拝見していると、感動を覚えました。結果として成功裏に閉会し、良かったと思います。

さて、挨拶が遅れましたが、高知で開業している９期の矢野宗憲と申します。先生方におかれましては日々研鑽され、素晴らしい治療をされていると思いますので、今回、歯科治療に関しては一切していません。

日々過ぎるのは早いものでして、卒後35年となりました。この間、同窓生（特に同級生、同郷の先生方）にはお世話になり、この場をお借りして感謝申し上げます。この35年間の大切なものと言えば、やはり友人、先輩後輩の繋がりだと思います。

卒後、毎年（残念ながらここ２年はコロナの影響で中止していますが）10名弱でプチ同窓会を開催しており、同級生に会えることが楽しみでなりません。毎年、参加された同級の先生方の元気な顔を見ると、「また来年‼」と一年間頑張る気になります。

先日はZOOMで２名の先生方とオンラインをしました。これからはオンラインも一つの通信手段となっていくと思われますが、やはり、顔を突き合わせてのトークには及びませんね。早くコロナが収束することを願うばかりです。オンラインと言えば医薬ではICTによる治療、指導が進んでいます。歯科もICTを提唱していますね。高知県ではICTは特に過疎化が進んだ医師不在の中山間部においての活用を考えているみたいですが、歯科はどのような活用をしていくのか、乞うご期待というところですね。

さて、同郷においては、３年前より高知支部同窓会の会長に就任し、現在に至っています。

気さくな性格の先輩先生方ばかりで、本当にお世話になっています。最近は５期のK先生と月一のゴルフを楽しんでいます。また、後輩の先生方は市・郡歯科医師会の役職も兼ね多忙中にも関わらず同窓会の役職も務めていただいております。後輩の先生方が少なく、再選を繰り返すことになりそうで、本当に申し訳なく思っています。現在、高知県出身の在校生がいません。高知支部同窓会もいつまで続くか、私は会長引退できるのか、と、危惧しています。何卒、母校福岡歯科大学におきましては、一層の頑張りを願いまして、同窓会生の増加を、特に同郷の同窓生の増加を期待するばかりです。

最後になりますが、同窓生先生方の益々のご健勝、ご繁栄をお祈りいたします。

左が私、真ん中が５期のＫ先生、右が明海大学歯学部同窓会高知支部会会長Ｍ先生

親子で頑張る同窓生

「親目線、子目線」

林 あつ子（12期）

1990年に福岡歯科大学を卒業して、早31年。また福岡歯科大学の卒業式に来るとは、夢にも思っていませんでした。

校舎を見上げながら「あ～。私の大学だったのになあ。もうすっかり息子の大学になってしまった。」と少し寂しく思いました。

私は、福岡歯科大学に12期生として入学。大学時代はJAZZ研に所属し、バブル期の博多を謳歌しました。いろいろと口実をつけて開催した飲み会、同級生や研究室の仲間と行った川棚温泉、日奈久温泉や阿蘇への旅行…。楽しかったなあ。

しかし、いくら自分が楽しい大学生活を送ったとはいえ、息子が同じ大学に入学することを手放しで喜ぶわけにはいきませんでした。

なぜなら、息子を卒業させるためにどれだけ働かなければならないのか、怖いくらい想像できたからです。

地元で開業して18年になりますが、ここ６年間は馬車馬のように働きました。

しかし、そんな母の努力をよそに、息子は学生生活を大いに楽しんだようです。特に、部活動に力を入れていたようで、成績表が送られてくるたびに「バドミントン大学に入学させたわけじゃないのになあ。」とため息が漏れてしまうほどでした。

とはいえ、無事に卒業し、心配だった国家試験にも合格してくれました。親としては、とても大変な６年間でしたが、息子が自分と同じ大学を卒業するというのは、やはり感慨無量のことです。息子よ、よく頑張った。そして私もよく頑張った。

これから始まる歯科医師人生も楽しんで！意外と先は大変だぞ～。

林　周季（43期）

私は、2021年に福岡歯科大学を卒業し、現在は、福岡歯科大学補綴科所属の研修医として歯科医としての基礎を学ぶ日々です。

学生時代は、バドミントン部に所属し、仲間たちと汗を流しました。デンタル遠征を大義名分に、ディズニーランドやUSJに行ったことも最高の思い出の一つです。バドミントン部で一緒に切磋琢磨してくれた仲間達は、一生の宝になりました。

もともと福岡歯科大学は「両親の出身校」というイメージでした。それが６年間の思い出とともに徐々に「私の出身校」になっていきました。

研修医としての日々は、想像の数倍大変で、実習と臨床との違いを実感しています。その中で、歯科医師としての自覚と責任の重みを感じるようになりました。

私の歯科医師人生はまだ始まったばかりですが、福岡歯科大学での楽しい思い出を胸に、歯科医師としての道を歩んでいきたいです。

親子で頑張る同窓生

「今後とも宜しくお願い申し上げます」

山本 順一（10期）

10期生の私が卒業して33年が経ち、この春に息子が母校を卒業そして国家試験を合格し歯科医師としての一歩を踏み出せたことは、とても感慨深いものでした。親子で福岡歯科大学にお世話になり、先生方そして事務職員の方々に深く御礼申し上げます。

私は卒業後、九州大学第二口腔外科に５年間在籍しておりました。現在の福岡歯科大学口腔外科の池辺教授と平木教授には当時から大変お世話になり、また、息子も母校の口腔外科に入局して両教授にお世話になっております。きっと皆様もそうだと思いますが、私も学生時代の事は昨日の様に思い出されます。毎日部活に明け暮れた事や仲間と騒ぎまくっていた事、よく食べた定食屋や吐きまくっていた屋台（何と当時、原交差点裏付近にあったんです、学校周囲はずいぶん変わりましたね。）、同級生とやった国試勉強など良き思い出が沢山です。30数年経っても色褪せないのは楽しくキツく激しかったのもありますが、当時の同級生や先輩後輩と今でも繋がっているからではないかと思っています。

私が歯科医師として一人前（？）になり患者さんを診るにあたり、これら学生時代や医局時代の経験と繋がりは大変役立っていると感じています。昨年来のコロナ禍がまだまだ続いておりますが、息子にも学生時代や医局での繋がりを大切に歯科医師として成長して欲しいと思っています。

皆様もコロナに負けず、ご自愛下さい。

山本 健一朗（43期）

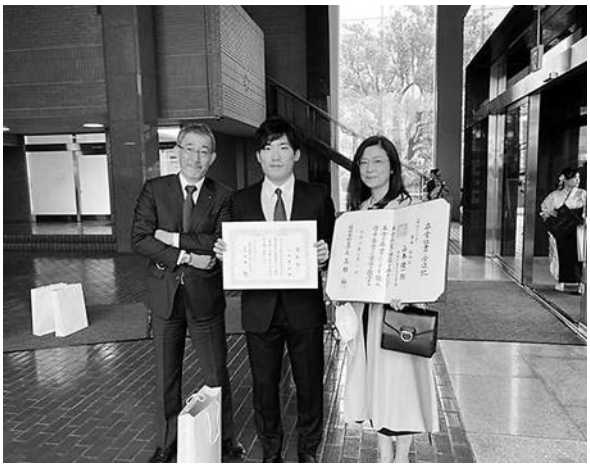
私は今春、歯科医師国家試験に合格し、研修医として母校の福岡歯科大学医科歯科総合病院で歯科医師人生を始めました。

思い返せば、学生生活は同学年の友人達や部活の先輩後輩、優しい先生方に恵まれ、楽しみが尽きない６年間でした。楽しむときは全力、勉強するときも全力の学校生活があったから、卒業試験、国家試験に向けての勉強を最後まで頑張ることができたと思います。

研修医生活は国家試験的な知識と臨床の違いに迷ったり、実際の患者さんから学んだり、足りないことばかりで、決して楽なものではありませんが、毎日の色々な発見や同期の皆の話を聞くともっともっと頑張ろうと思えます。ここまで本当にたくさんの人に助けられてきました。まだまだ自分一人の力では何もできませんが、立派な歯科医師を目指すことでこれから少しずつ恩返ししていきたいです。

コロナ禍という未曾有の災禍の中ではありますが、皆様におかれましても益々のご発展を心からお祈り申し上げます。

最後に25年間、ここまで支えてくれた家族に改めて感謝します。



親子で頑張る同窓生

「これからも宜しくお願いします」

吉川 英治（12期）

私が卒業して30数年。

今春、娘が卒業、歯科医師になることができました。福岡歯科大学では先生方をはじめ職員の皆様にお世話になりました。

娘が帰省する度に、私が在校中の先生方や職員の方の話を聞き、有り難いと思う６年間でした。「パパはどうだったの～」と言われるとぐうの根もでなかったですが。

娘が小学校に上がる前に開業しました。診療に主軸を置き、娘の子育てにさほど関われたわけではありません。今、娘と診療を含めて、色んな話ができる。何よりも幸せに思います。

どんなことがあろうとしっかり応援します。この幸せは同大学のおかげだと深く感謝しております。

吉川 かりん（43期）

今春、無事に歯科医師国家試験を合格することができました。

福岡歯科大学の先生方、職員の皆様、先輩、友人、そして家族の支えがあってこその結果だと思っています。心から感謝します。

学生時代、私は開業医の父の背中を追いかけ、ただ漠然と歯科医師を目指していました。長かった６年間の学生生活も終わり、４月から念願の歯科医師としての勤務。やっと父に追いついたぞと、ゴールテープを切ったつもりでしたが、研修を積む日々で、知らないこと出来ないことに沢山ぶつかり、父の背中はこんなに遠かったのだと知りました。試験に追われていた頃は、試験から解放されるために早く合格して早く働きたいと思っていましたが、働き始めた今の方が積極的に必然的に勉強しています。

早く一人前の歯科医師として成長し、自分のスタイルを見つけて、父と語り合いたいと思います。

昇　　格

令和２年11月１日

福岡歯科大学
総合歯科学講座
高齢者歯科学分野・講師

山　口　真　広（35期）

高齢者、有病者の“オーラル・キーパー”として……

高齢者歯科学分野の講師に任命されました。研究エビデンスを持つ“オーラル・キーパー”となり地域高齢者ならびに有病者が美味しく食べることができるように、患者様に寄り添って精一杯務めて参ります。これからも福岡歯科大学の発展のため同窓の先生方をはじめ皆様の変わらぬご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い致します。

令和３年１月１日

福岡歯科大学
口腔・顎顔面外科学講座
口腔外科学分野・講師

勝　俣　由　里（30期）

2021年１月１日付けで口腔外科学分野の講師を拝命いたしました。口腔外科学を通じて臨床、教育、研究に努め、口腔医学の発展に貢献したいと思います。また、これまでお世話になった母校の先生方、同窓生の皆様に恩返しができるよう母校の発展のために今後とも精進してまいります。

令和３年４月１日

福岡歯科大学
口腔治療学講座
歯科保存学分野・講師

水　上　正　彦（32期）

令和３年４月１日付で、歯科保存学分野の講師を拝命いたしました。歯内療法学、保存修復学を通じて教育・臨床・研究に貢献できるように日々研鑽をつんでいく所存です。

今後とも、同窓会の諸先生方をはじめ皆様のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

令和３年４月１日

福岡歯科大学
口腔・顎顔面外科学講座
口腔腫瘍学分野・講師

佐々木　三　奈（32期）

令和３年４月１日付で口腔・顎顔面外科学講座　口腔腫瘍学分野の講師を拝命いたしました。口腔外科分野において、臨床・教育・研究に貢献できるよう日々精進していく所存です。

今後とも諸先生方をはじめ皆様のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

本学学位取得者（甲）

福岡歯科大学
咬合修復学講座
有床義歯学分野

田　代　　宗（37期）

博士（歯学）（甲第322号）
令和３年３月14日
学位論文題名
Bond strength of artificial teeth to thermoplastic denture base resin for injection molding
（射出成形型熱可塑性樹脂に対する人工歯の結合強さに及ぼす人工歯基底面処理の影響）

福岡歯科大学
総合歯科学講座
高齢者歯科学分野

江　頭　留　依（38期）

博士（歯学）（甲第323号）
令和３年３月13日
学位論文題名
Low Tongue Strength and the Number of Teeth Present Are Associated with Cognitive Decline in Older Japanese Outpatients : A cross-Sectional Study
（低舌圧と現在歯数は高齢の歯科外来患者の認知機能低下と関連している：横断研究）

福岡歯科大学
総合歯科学講座
総合歯科学分野

大　曲　紗　生（38期）

博士（歯学）（甲第324号）
令和３年３月13日
学位論文題名
Effects of S-PRG Eluate on Bacterial Activity Related to Periodontitis and Oral Malodor
（S-PRG 溶出液が歯周炎および口臭産生にかかわる細菌活性におよぼす影響）

学位取得者紹介

福岡歯科大学
成長発達歯学講座
成育小児歯科学分野

熊　谷　徹　弥（36期）

博士（歯学）（甲第325号）
令和３年３月13日
学位論文題名
Verification of antibacterial activity to enamel surfaces of new type of surface coating
（新しいタイプの亜鉛・フッ素含有歯面コーティング材の抗菌性及び脱灰抑制に関する研究）

福岡歯科大学
成長発達歯学講座
成育小児歯科学分野

石　井　華　子（38期）

博士（歯学）（甲第326号）
令和３年３月13日
学位論文題名
Cisplatin-induced sonic hedgehog signaling mediates epithelial-mesenchymal transition in hertwig's epithelial root sheath cells
（シスプラチン誘導性ソニックヘッジホッグ伝達経路は、ヘルトヴィッヒ上皮鞘細胞の上皮間葉転換を制御する）

福岡歯科大学
咬合修復学講座
冠橋義歯学分野

藤　本　啓　貴（38期）

博士（歯学）（甲第327号）
令和３年３月13日
学位論文題名
Combined administration of thalidomide and bortezomib suppresses angiogenesis in tumors but has no negative impact on tooth extraction socket healing
（サリドマイドとボルテゾミブの投与は腫瘍の血管新生を抑制するが抜歯窩治癒には影響しない）

福岡歯科大学
口腔・顎顔面外科学講座
口腔腫瘍学分野

大　林　佑　子（36期）

博士（歯学）（甲第328号）
令和３年３月13日
学位論文題名
Suppression of TopBP1 function increases the efficacy of chemotherapeutic treatments by enhancing the induction of apoptosis
（TopBP1の抑制はDNA損傷応答経路を阻害し化学療法剤の感受性を促進する）

他大学学位取得者

九州大学大学院歯学府
口腔機能修復学講座
歯周病学分野

大　和　寛　明（38期）

博士（歯学）（甲第854号）
令和３年５月31日
学位論文題名
Combined application of geranylgeranylacetone and amelogenin promotes angiogenesis and wound healing in human periodontal ligament cells
（ゲラニルゲラニルアセトンおよびアメロジェニンの併用は歯根膜細胞の血管新生と創傷治癒を促進させる）

歯科医師（常勤・非常勤）募集

医）徳和会　上田歯科医院（本院）

給与：常勤（正社員）50万
非常勤（アルバイト）時給4,000円
週に１日でもOK！午前、午後だけでも要相談
正社員は　完全週休2日制　有給10日～
福利厚生：厚生年金・歯科国保・中退共・雇用
勤務時間：9時～18時　月20時　土12時半
勤務お祝い金：50,000円（勤続6月後）
（入職後、６か月経過後給与にて支給します。）

◎CT、セレック、インビザライン矯正など最新機器を導入。保険診療から自費診療まで幅広く学べます。資格取得支援あり。福歯卒17期

〒802-0841
福岡県北九州市小倉南区北方1-12-40
担当　5000三浦　TEL 093-921-1806

医）徳和会　ひまわり歯科（分院）

給与：常勤（正社員）60万
非常勤（アルバイト）
時給4,000(平日)～5,000(土)円
週に１日でもOK！午前、午後だけでも要相談
福利厚生：厚生年金・歯科国保・中退共・雇用
勤務時間：9時～18時　土17時　木曜休み
完全週休2日制　**勤務お祝い金**：50,000円
（入職後、６か月経過後給与にて支給します。）

◎小児が多く、子供が好きな方大歓迎です！
院長は30代女医さん　東京医科歯科大学卒

〒806-0033
福岡県北九州市八幡西区岡田町12-16
担当　小林智恵　TEL 093-632-6480

本部会務報告

第68回全国歯科大学同窓・校友会懇話会全歯懇報告

コロナ感染予防の観点から開催日時や方法に関して事前アンケートを取るなど試行錯誤を繰り返し６月５日14時30分より愛知県歯科医師会館と Web 併用による第68回全国歯科大学同窓・校友会懇話会が開催された。愛知学院大学歯学部同窓会が当番校となり、（公）日本歯科医師会　堀会長・柳川副会長、（一）愛知県歯科医師会 内堀会長、愛知学院大学引田学長・後藤歯学部長を来賓に迎え、本会からは吉永会長と私が web にて参加し総勢100名超で始まった。出席者の紹介、座長選出後、各校より報告が行われた。協議として「次回・次々回当番校の選出及び承認について」を行った。我が校は７年後の担当になりそうである。順調に進んだ会議の終了後、「新型コロナウイルス感染症対応と2040年を見据えた歯科ビジョン」題名にて堀日歯会長による講演会が開催された。

日本歯科医師会５年間の総括としてこれまでの歯科界の議論と取り組みから、堀執行部の対応とその成果、および今後の課題と方向性について報告説明があった。また歯科医師による新型コロナのワクチン接種など感染症対応の必要性の話がなされた。

日本歯科医師会は日常生活の基本的な機能を人生最後まで全うすることを目指し、真の健康寿命社会の実現に向けて歯科医療や口腔健康管理の充実を図る理念とその社会的使命を踏まえ、今後積極的な政策提言とアクションを約束され終了した。

専務理事　秋山達也（７期）

12校会議報告

11月28日（日）「12校会議　会長・専務会」が鶴見大学歯学部同窓会（以下同窓会を略）を事務局としてリモート方式で開催された。11時から朝日大学歯学部同窓会会長中嶋先生を議長として、役割分担、2020・2021年度会計報告などがあった。各同窓会からの報告の中で、愛知学院大学歯学部から６月に開催された全歯懇のお礼と堀日歯会長の講演会報告、松本歯科大学からは50周年記念の対外的な催しは控える主旨報告、神奈川歯科大学からはコロナ感染予防に尽力いただいた山田議員、大阪大学天野教授からの社会に向けた口腔ケアの大切さを引き続き PR していただきたいとの事が提案され、我が福岡歯科大学からは比嘉奈津美先生の参議院議員に繰り上げ当選の報告と応援要請の継続を行った。

また来年度の会費徴収の有無、12校会議の今後の在り方や意義、当番校の持ち回りの検討などが課題に挙がり、来年３月20日に岩手医科大学歯学部が議長役で、鶴見大学歯学部事務局のもと東京開催予定となった。社会情勢によるものの、できれば対面方式で協議したいとの意見が多く、約１時間で閉会となった。

専務理事　秋山達也（７期）

福祉厚生委員会

「福祉厚生委員会」の活動報告をさせていただきます。

毎年のように大災害が全国各地で発生し、まさかと思う処の皆様が地震や大雨そして土石流の危険に曝されています。そこで吉永会長が就任されるときに近年自然災害の遭遇することが増え、また大きな被害をもたらす激甚災害も多く発生するような状況を鑑みて「災害時緊急連絡網整備」の指示を受けました。

まず委員会で災害が起こるかもしれない状況で多くの地区から同時に双方向から連絡が出来ること、さらに迅速性・携帯性に優れ記録が残るものを条件として選別しました。私も使用していましたが「LINE グループ」が最も多くの方が利用されていて有用性に優れているということで決まりました。各同窓会から２名の「災害対策責任者」の方々に参加していただきました。その際は本当にありがとうございました。本年も数回の豪雨、台風そして関東

地方の地震が発生し床上浸水の被害に遭われた同窓生もおられました。お見舞い申し上げます。この「災害時緊急連絡網」はこれまで有意義に活用できていると思っています。ただ委員会からの安否や被災状況の確認への回答のみならず、各地からのご報告を随時お願いしたいと思います。本部より被災に応じてお見舞いをさせていただいており出来るだけ早めにお渡ししたいのですが、報告が遅くなる傾向にありますので是非よろしくお願いします。各同窓会の会員数にもよりますが府県内の地区責任者の方々との連携を密にお願いしたいと思います。

福歯大同窓会災害対策

これまで法人改正の際に福祉厚生に関しての事業と切り離された歯科医師会が多く、個人対応となっていると思います。今後、委員会で同窓会会員に向けて同窓会ならではの有益な情報発信が出来るように努力する所存ですのでよろしくお願いいたします。

常務理事　俣野正仁（５期）

会計からのお願い

平素より福岡歯科大学同窓会の発展のため格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

福岡歯科大学は昭和54年、第１期生の卒業と同時に設立され、本年度の第43期卒業生を含め同窓生は4,714名となっております。本同窓会では会員の福祉増進と会員相互の親睦、母校への貢献を目的に活動を続けております。その他にも記念事業の開催、災害等に被災された同窓生に対する見舞金の援助などを行っております。会費は入会金３万円、年会費１万円となっております。過去に３年間の同窓会費未納が続いた場合は、自動的に非会員扱いとなり刊行物等の発送も停止されます。ただし過去の未納の会費があっても再び本年会費を納入することで、正会員と認められ刊行物を発送いたします。また、終身会員として、同窓会入会から通算40年経過し、会費を滞りなく納められた会員におかれましては、理事会の承認を経て会費が免除されることとなります。福岡歯科大学同窓会は同窓生の皆様からの会費で運営しております。会費納入につきまして引き続きご協力賜りますようお願い申し上げます。

常務理事　浦　嘉訓（12期）

第33回学術講演会・2021年臨床スキルアップセミナー

本年も残り１ヶ月余りとなり、だいぶ寒さを感じるようになりました。新型コロナウィルスも収まりをみせており、人の集まりや動きが活発になってきているように思います。歯科界における学術事業も少しずつですが、対面形式の学会や会議と人が集まることが少しずつ増えてきました。しかしながら、まだまだ予断を許すことができず感染防止に努めながら学術事業の方を進めていきたいと考えております。

そんな中、令和３年２月28日に開催されました第33会学術講演会は、「矯正治療をより身近にするために―矯正医の立場から、GP の立場から―」というタイトルで４人の演者から講演をいただきました。本講演会は同窓会学術事業として初めてのリアルタイムウェブ配信という形で、新型コロナウィルス蔓延の中で行いました。各演者をインターネットで結び、本部を福岡国際会議場に座長を置いてウェブ配信業者の手助けを受けながら行いました（写真）。何分すべてのことが初めてのことで、タイムスケジュールや連携面で戸惑いがありましたが、何とか無事に終えることができました。講演内容では、各演者とも矯正治療における基本の重要性や臨床の勘所を余すことなくお話していただけたこと、そして現在注目されているアライナー矯正治療に関する見解を話ししていただき大変有意義な講演会となりました。１つだけ残念に感じたことは、視聴者

第33回学術講演会「矯正治療をより身近にするために」
講師　下田哲也先生　座長　松永興昌先生

2021年度臨床スキルアップセミナー
第１回目「ラバーダム防湿の基礎と臨床」

2021年度臨床スキルアップセミナー
第２回目「パーシャルデンチャーの基本」

からの質問に対して演者が熱く答えていることがネット上で上手く伝わっているのかどうかが曖昧でした。このことを今後のウェブ学術事業において、いかに視聴者に伝えていけるかと注意しながら進めていきたいと思っております。

2021年度の臨床スキルアップセミナーでは、さらに新型コロナウィルス感染が拡大する中、各回の座長及び演者をネット上で綱いで録画編集を行い、後日オンデマンド配信で行っております（写真）。６月の配信となりました「ラバーダム防湿の基本と臨床」では、ラバーダムの基本事項から、ダイレクトボンディングや歯内療法におけるラバーダム防湿の重要性を講演していただきました。若手の先生に対して、ラバーダムの重要性が伝わった配信だったと思っております。そして、第２回の８月に配信されました「パーシャルデンジャーの基本」では、サベイングの重要性や歯周病患者や長期予後における義歯設計の重要性を講演していただき、複雑なパーシャルデンジャーの臨床的勘所をお話しして頂きました。さらに、10月に配信されました第３回の「クラウン・コア・破折ファイル・インプラントの除去の実際」では、私を含めた４名の先生で講演、ディスカッションさらに質疑応答を行い録画配信しました。さまざまな除去という若手の先生が苦慮する臨床を、基本的注意事項から術式に至るまでその詳細をお話しさせていただきました。この内容は、若手学術委員の先生から出されてものであり、こういったタイトルが同窓生に良い形で伝われればと思い行いました。今後も同窓生からのご意見ご要望等、お伺いしながら学術事業を運営していきたいと思っております。今後のスキルアップセミナーの予定、は令和４年１月28日より歯科医師と歯科衛生士のコラボレーション企画であります「歯科医師と歯科衛生士が共に輝けるように」というタイトルで３人の演者から配信していただく予定です。大変興味深い内容ですので、是非ご視聴いただきたいと思っております。さらに、来年度企画しております第34回学術講演会では、歯内療法をテーマに２月27日に対面式リ

2021年度臨床スキルマップセミナー第４回チラシ
第４回　2022.　1/28～2/6
「歯科医師、歯科衛生士がともに輝けるように」

アル講演会と３月９日よりオンデマンド見逃信を企画しております（写真）。来年度も学術委員会は、時代の変化や流れを敏感に取り込み、臨機応変に学術事業を進めていきたいと考えております。

学術委員長　松永興昌（16期）

ご逝去のお知らせ

【大学関係】

黒水　健治先生（享年79）
機能生物学講座生化学分野 元教授　令和３年10月22日

阿部　興紀先生（享年81）
機能生物学講座生化学分野 初代教授　令和３年７月24日

福島　忠男先生（享年72）
福岡歯科大学再生医療研究センター 前教授　令和３年３月21日

松浦　智二先生（享年89）
咬合修復学講座　冠橋義歯学分野 元教授）　令和３年２月18日

医療法人勇飛会　いさみ歯科きららクリニック

・ご希望の働き方に合わせて勤務対応
・社会保険完備（厚生年金）
・新卒/既卒/子育て中ＤＲも勤務あり
・転居費用や交通費全額負担

常勤・非常勤
見学随時ＯＫ！
求人情報➡

【同窓生】

栗田　崇之先生（26期、佐賀）　令和２年12月３日
濱田眞佐男先生（６期、宮崎）　令和２年12月23日
小田　知子先生（12期、福岡西）令和３年３月６日
村田　淳一先生（８期、山口）　令和３年３月13日
柴田　誠一先生（１期、中部）　令和３年５月１日
荒木　秀之先生（４期、佐賀）　令和３年５月１日
比嘉　恒人先生（18期、沖縄）　令和３年７月10日
長谷川靖史先生（15期、福岡西）令和３年９月27日
河村敬一郎先生（４期、山口）　令和３年10月13日
北島　健吾先生（19期、佐賀）　令和３年10月17日
河野　雅美先生（14期、福岡南）令和３年10月28日
長谷川智秀先生（７期、福岡西）令和３年10月29日
田口　勝規先生（１期、関東）　令和３年11月５日
河野　勝寿先生（１期、福岡北）令和３年11月24日

福岡学園・福岡歯科大学創立50周年記念

「50周年を祝って」

福岡歯科大学同窓会
福歯大創立50周年記念
事業準備臨時委員会
委員長（副会長）
髙嶺　明彦（６期）

「ich（イッヒ）、du（ドゥー）……」、入学してすぐに、わけも分からず唱えさせられたのは、小林栄三郎教授のドイツ語の授業でした。私は、1977年（昭和52年）の入学ですから、開学５年目のということになります。助言班が泣く子も黙る小林班であったために、小林教授には大変お世話になりました。不良学生であった私を、歯科医師としての道に導いてくださったのも、小林教授であったと、深く感謝しています。

その僅か数年前に、本学は開学を迎えたわけです。それは、まさに産みの苦しみであったようです。当時の事情については、福岡歯科大学十年史に詳しいので、是非とも読んでみてください。これまでの50年を知る上では、草創期の苦難と新しい大学を創造する意欲と活気に満ちた時代と、井戸を掘った人々のことを忘れてはいけないと思います。

当時、私達の学舎の窓からは、遠くには力強く連なる背振の山々が見渡せ、近くには四季折々によってその姿を変える豊穣な水田を見ることができました。それが最近では、大学周辺にも近代化の波が押し寄せて、その周辺の様相も一変してきています。しかしながら、いつの時代にも大学の窓から見える外の世界は、同窓生にとって共通の風景であったはずです。

背振の麓で、同じ窓から見える同じ景色を共有した原体験は、我々の血となり肉となって、私達の中に脈々と生き続けています。それこそは、私どもの誇りとするところであるはずです。

ここまで私達を育ててくれたのは、大学の存在そのものであり、大学で学んだ６年間の原風景ではないでしょうか。もう一度目を閉じて胸に手を当てて、生みの親である両親と、育ての親である大学への感謝を思い出してください。

本学は、５千名近い卒業生を輩出して、2022年に創立50周年を迎えます。深甚なる敬意と祝意を表したいと思います。卒業生の中からは、多くの各県歯科医師会長をはじめ役員や、学術の分野でも多くの素晴らしい業績を残した逸材を輩出しています。すなわち、各地域における歯科医療の充実、発展のためにたくさんの同窓生が、県民・国民の期待を担って活躍しているのです。

これから先の50年は、水田祥代理事長、髙橋裕学長のご指導のもと、新たな輝かしい歴史を刻まれることと、ご期待申し上げます。

私たちも、お世話になった大学の50周年記念事業に、少しでも協力したいと考えています。どうぞ、もう一度学生時代に戻られて、楽しかった日々と、お世話になった先生方のことを想い出しながら、募金へのご協力を、伏してお願い申し上げます。

福岡歯科大学同窓会
令和2年度第 43 回定時総会

（評議員会書面議事報告）

令和3年12月

会員各位

会員の皆様方におかれましては平素より本会の会務運営に際しましてご指導とご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

さて本来ならば評議員会を開催し議決承認後、総会にて報告をいたすところではありますが、事前送付しておりました通り、新型コロナウイルスの感染予防対策の観点から、昨年に引き続き令和 2 年度第 43 回定時総会は、本会誌の書面にてご報告させていただきます。

〈第43回定時総会〉

福岡歯科大学同窓会令和2年度第 43 回定時総会
（評議員会書面議事報告）

1．吉永会長挨拶

新型コロナウイルスのパンデミックが収束しようとしています。ウィズコロナを考えた日常が戻りつつあります。大学においても講義も平常に戻りました。

また50周年事業の準備も進んでおり、同窓生皆さんの協力もあり、記念誌の原稿、寄付金も順調です。本当にありがとうございます。しかし、寄付金においては目標額を達成しておらず引き続きご協力をよろしくお願いします。

また、比嘉奈津美（8 期）先生が参議院繰り上げ当選され、同窓会としても大変喜ばしいことです。比嘉先生には歯科界のために、国民の健康のために活躍を期待しております。同窓会としてもできる限りの応援をしていこうと考えています。しかし、3 年前の選挙に関して大きな反省点があります。先生自身も同窓生も次点という結果に大変悔しい思いをしました。準備期間が短かったとはいえ、同窓会が応援したのにもかかわらず次点であったことに同窓会の力不足を感じました。

同窓会事業においても、学生の進級、国家試験合格、同窓生の支援などやらなければならないことは山積みです。しかし、私が会長に就任して 2 年間運営してきた実感として、同窓会の結束力不足を感じます。本部と支部の一体感が希薄です。次年度は結束力を高め同窓会を一枚岩にするために、同窓会本部組織も改正します。支部の皆さんと情報を共有化し、できることをすぐ実行していきます。支部の皆さんも、本部の至らないところは腹蔵なく意見してください。そして共に改善策を考え、私たちの母校のため、同窓生のため、後輩のためにご協力よろしくお願いします。

2．議事録署名人選出

宮崎県同窓会：黒木康夫先生

福岡西同窓会：重冨澄保先生

3．報告

（1）会員現況並びに会務報告

令和2年度、会員数 2,375 名、準会員（学生会員）352 名、物故者 8 名

① 第114回歯科医師国家試験結果について

出願者数 229 名、受験者数 205 名、合格者 74 名（36.1%）

（2）監査報告 監事 原 文夫（2 期）、西原義一（3 期）

- 会計監査

令和2年度会計収支決算並びに財産目録は、適正に執行され、帳簿、書類の記帳、整理等、関係規則に則り適正な処理が行われている事を認める。

- 業務監査

各担当理事は業務に手慣れ、適切に業務を遂行し、理事会においても活発な意見の交換がみられた。

会務報告書の内容は真実であると認める。

理事の職務執行に関する不正の行為または法令に違反する重大な事実はないものと認める。

（3）特別会員の推薦について

総合歯科学講座 総合歯科学分野

教授 廣藤卓雄 先生（2021.3/31 定年退職）

(4) 令和2年度7月豪雨見舞金の報告について

令和2年7月豪雨見舞金報告書

金額	詳細
100,000	長崎県同窓会
150,000	山口県同窓会（長洲歯会）
100,000	沖縄県同窓会
20,000	島根県同窓会
200,000	福岡県西同窓会
100,000	大阪府同窓会
150,000	福岡県北同窓会
100,000	大阿蘇会（熊本県同窓会）
100,000	大分県同窓会
100,000	宮崎県同窓会
100,000	広島県同窓会
100,000	福岡県南同窓会
20,000	京滋同窓会
100,000	鹿児島県同窓会
100,000	佐賀県同窓会
100,000	愛媛県同窓会
50,000	香川県同窓会
50,000	高知県同窓会
274,000	他個人会員13名
2,014,000	単位：円

《分配先》	※分配は地区会長との調整による
大分県同窓会	50,000
福岡県南	100,000
熊本県同窓会	1,864,000
	2,014,000

(5) 会員拡大臨時委員会の設立について

中副会長を委員長、副委員長に都築学内会長を任命して府県同窓会長から委員を選出

（提案理由）

学生.新卒者.親子.夫婦会員など未入会員の入会促進と終身会員会費の見直し。

1、会員増強は今後の同窓会が九州地区でリーダーシップをとる上において必要であること。

2、同窓生間で、入会しているか、いないかで各支部の活動に支障をきたしやすいこと。

3、同窓会活動を活発資するべきであること。（国試の支援、大学医局員の支援など）

4、昨年より年会費免除者が発生し、入会者が減少していること。

5、毎年災害が起こっていること。

(6) 福岡歯科大学創立50周年記念準備臨時委員会の設立について

高嶺副会長を委員長に任命、委員には各府県会長又は地区より委員を選出。

（提案理由）

来年開催される福歯大創立50周年記念式典開催に向けて、寄付金の募集や記念式典の準備を行う為。

(7) クレジット決済（九州カード）利用の会費納入について

（提案理由）

これまで、府県同窓会会費一括納入以外の一般会員からの会費支払い方法は、郵便局の振込用紙を利用して窓口での支払いであったが、今後の会員への利便性と会員増強を見据えて、会費支払いの際、ネット上のパソコン、スマートフォン等が可能なクレジット決済を加えさせて頂きたい。

【提携会社】（学園からの紹介）

カード会社　　：九州カード㈱ 福岡市博多区駅前4丁目 3-18　　TEL092-452-4640

決済代行サービス：㈱F-REGI 福岡市中央区天神1丁目1-1アクロス福岡　　TEL092-752-3737

〈第43回定時総会〉

※現在、学術事業のセミナー開催の受講料支払いの決済として試験的に利用を開始している。

(8) 福岡県歯科医師会予備選挙について

福岡歯科大学同窓会会員の先生におかれましては新型コロナ禍でご心労のことと拝察いたします。この度第 33 期福岡県歯科医師会会長予備選挙が 2 月 5 日に公示され我が同窓の神田晋爾先生が同窓生からはじめて立候補されました。3 月 6 日に投票、翌 7 日に開票が行われましたが結果 31 票差ではございましたが当選には至りませんでした。新型コロナ感染対策を講じた中での選挙ではありましたが、本部同窓会の推薦を頂き、たくさんの先生からご支援を賜り有難うございました。心より御礼申し上げます。

福岡県地区会会長 中田 宏

【選挙結果】

有権者数 3065 投票者数 2199 (投票率71.7%)

神田晋爾候補 1078 大山茂候補 1109 無効票数 12

4.議事

第 1 号議案 福岡歯科大学同窓会会則の改正(案)の承認を求める件

[現 行]

「会 則」 総則 第 5 条 事務局

本会は事務局を福岡市早良区田村 2 丁目 15-1、福岡歯科大学内に置く。

[改正案]

本会は事務局を福岡市早良区田村 2 丁目 15-1、福岡歯科大学内に置き**所在地とする。**

第 2 号議案 令和2年度福岡歯科大学同窓会収支決算書の承認を求める件

第 3 号議案 特別会計令和2年度福岡歯科大学同窓会特別支援事業収支決算書の承認を求める件

第 4 号議案 令和3年度福岡歯科大学同窓会事業計画(案)の承認を求める件

① 総務

- 評議員会・総会開催について
- 同窓会諸会議の運営について

② 福祉厚生(災害対策)

- 災害時における緊急連絡網整備と対応
- 福祉共済制度について
- 会員への情報発(各種保険、経営、事業継承)
- 総会懇親会

③ 組織

- 組織活性化計画
- 同窓会入会率の向上
- 母校支援(行事等協力)
- 学生支援(就職活動支援等)

④ 広報

- 同窓会誌「背振 40 号」発行
- 学園通信紙「ソフィア」同窓会関係の執筆者選定

⑤ 学術
- 2021 年度臨床スキルアップセミナー
- 第 34 回学術講演会
- 学術渉外活動
- 特別支援事業

⑥ 企画情報
- 福岡歯科大学同窓生名簿発行。
- 福岡歯科大学同窓会通信「季節風」発行。
- 「福岡歯科大学メールマガジン」発行
- 福岡歯科大学同窓会同窓生名簿に掲載するための広告を募集。
- 福岡歯科大学同窓会事務局の備品の管理および整備を行う。
- ホームページの整備
- 福岡歯科大学同窓会事務局の備品の管理および整備
- WEB 会議等の推進

⑦ 学内同窓会活動
- 学内学術振興事業
- その他

第 5 号議案 令和3年度福岡歯科大学同窓会収支予算（案）の承認を求める件

第 6 号議案 特別会計令和3年度福岡歯科大学同窓会特別支援事業収支予算（案）の承認を求める件

第 7 号議案 令和3年度会費免除（終身）の承認を求める件
51名の会員が会費免除を承認された。

以上、評議員 54 名全議事が承認されましたので、ここにご報告します。

議事録署名人 宮崎県同窓会：黒 木 康 夫

福岡西同窓会：重 冨 澄 保

令和 3 年 7 月 15 日

福岡歯科大学同窓会
会長 吉 永 修

〈第43回定時総会〉

第17期福岡歯科大学同窓会本部役員

平成31年４月１日～令和３年３月31日

役職	氏名	期	地区	医院
名誉会長	宮口　巖	1	長崎	宮口歯科医院
名誉会長	髙橋　裕	3	学内／福岡北	福岡歯科大学　学長
会長	吉永　修	4	熊本	医）徳治会吉永歯科医院
副会長（相談役）	寺尾隆治	1	佐賀	寺尾歯科医院
副会長（相談役）	長尾博通	1	大分	長尾歯科
副会長（相談役）、府県会長	伊藤明彦	5	熊本	伊藤歯科医院
副会長（総合対策）	髙嶺明彦	6	沖縄	たかみね歯科クリニック
副会長（総合対策）	佐伯和道	4	福岡北	佐伯歯科医院
副会長（総合対策）	中　四良	5	福岡西	医）中歯科医院
副会長（総合対策）	森　直樹	6	奈良	学園前歯科
副会長（総合対策）	宇治寿隆	7	熊本	宇治歯科医院
副会長（総合対策）、府県会長	石田哲也	9	大阪	石田歯科医院
副会長（組織）	神田晋爾	4	福岡西	神田歯科医院
副会長（学術）	上田秀朗	5	福岡北	医）うえだ歯科医院
副会長（福祉厚生）	水谷匡秀	6	福岡西	みずたに歯科医院
副会長・地区会会長	槙原政博	7	関東	槙原歯科新橋インプラントセンター
副会長・地区会会長、府県会長	藤田忠篤	2	兵庫	フジタ歯科医院
副会長・地区会会長	大橋義文	13	岡山	大橋歯科医院
専務理事	秋山達也	7	福岡南	秋山歯科医院
常務理事（総務）	石本　圭	16	福岡西	医）今宿いしもと歯科医院
常務理事（総務）	芝池　覚	4	大阪	芝池歯科医院
常務理事（福祉厚生）	俣野正仁	5	長崎	またの歯科口腔外科クリニック
常務理事（広報）	劉　中憲	14	福岡西	バンダ小児歯科医院
常務理事（学術）	矢野尚一	4	福岡北	矢野歯科医院
常務理事（学術）	葛西秀夫	6	福岡西	医）かさい歯科医院
常務理事（企画・情報）	小柳進祐	12	佐賀	小柳歯科医院
常務理事（会計）、府県会長	浦　嘉訓	12	佐賀	浦歯科医院
理事（総務補佐）	寺﨑　宏	5	長崎	寺崎歯科医院
理事（総務補佐）、府県会長	岡　浩司	7	福岡南	岡歯科医院
理事（総務補佐）、府県会長	山本浩之	9	福岡東	山本歯科医院
理事（総務補佐）	村川　昇	10	大阪	村川歯科
理事（総務補佐）、府県会長	浅尾　武	10	福岡北	浅尾歯科医院
理事（総務補佐）	原田裕教	12	大分	歯科原田医院
理事（総務補佐）（福岡県地区会長）	中田　宏	13	福岡西	中田歯科医院

役職	氏名	期	地区	医院
理事（総務補佐）	平川俊洋	14	鹿児島	ひらかわ歯科クリニック
理事（総務補佐）	新垣　斉	14	沖縄	ハンビー歯科クリニック
理事（総務補佐）	椿　誠	16	熊本	椿歯科クリニック
理事（福祉厚生委員長）	田中靖彦	12	長崎	医）恵和会タナカ・デンタル・クリニック
理事（福祉厚生副委員長）	中岡俊智	12	大阪	医）謙信会あおぞら歯科クリニック
理事（福祉厚生副委員長）	稲井哲郎	16	福岡西	稲井歯科医院
理事（福祉厚生）	北村勝文	9	福岡西	きたむら歯科医院
理事（福祉厚生）	大塚秀一	9	福岡西	社会医療法人 福岡記念病院
理事（組織委員長）	吉兼　透	22	福岡西	よしかね歯科クリニック
理事（組織副）	花水麻美	30	福岡西	医）一徳会 DENTAL CLINIC 桜坂南
理事（広報委員長）	江藤ゆかり	12	宮崎	さどわら中央歯科医院
理事（広報副委員長）	香川豊宏	15	学内／香川	診断・全身管理学講座画像診断学分野
理事（学術顧問）	枌　浩一	3	福岡西	医）かさい歯科医院
理事（学術委員長）	松永興昌	16	福岡西	松永歯科クリニック
理事（学術副委員長）	大熊一徳	13	福岡南	おおくま歯科医院
理事（学術副委員長）	西　耕作	15	福岡西	西耕作歯科
理事（企画・情報委員長）	荻野真介	24	福岡西	荻野歯科医院
理事（企画・情報副委員長）	田代　剛	26	佐賀	たしろ歯科医院
理事（会計副委員長）	加倉加恵	24	学内／広島	咬合修復学講座口腔インプラント学分野
顧問	勝俣辰也	1	福岡西	かつまた歯科小児歯科医院
顧問	梶谷　剛	1	福岡西	はるデンタルクリニック
顧問	友添秀樹	2	福岡南	友添歯科医院
顧問	岩本憲明	2	福岡西	医療法人社団プラタナス会いざき歯科医院
顧問	尾崎正雄	3	学内／福岡西	成長発達歯学講座成育小児歯科学分野
顧問	城戸寛史	6	学内／福岡北	咬合修復学講座口腔インプラント学分野
顧問	比嘉奈津美	8	沖縄	
顧問	古賀千尋	10	学内／福岡南	口腔医療センター
顧問	都築　尊	18	学内／愛媛	咬合修復学講座有床義歯学分野
顧問	内田竜司	18	学内／熊本	福岡歯科大学教育支援・教学IR室
顧問	玉置幸雄	19	学内／山口	成長発達歯学講座矯正歯科学分野
監事	原　文夫	2	福岡西	アンブル歯科
監事	西原義一	3	福岡西	西原歯科医院
選挙管委委員長	枌　泰生	11	福岡西	枌歯科医院

第17期福岡歯科大学同窓会委員会

総務委員会

役　職	氏　名	期	府　県
常務理事（総務）	石本　圭	16	福岡西
常務理事（総務）	芝池　覚	4	大阪
理事（総務補佐）	寺﨑　宏	5	長崎
理事（総務補佐）	岡　浩司	7	福岡南
理事（総務補佐）	山本　浩之	9	福岡東
理事（総務補佐）	村川　昇	10	大阪
理事（総務補佐）	浅尾　武	10	福岡北
理事（総務補佐）	原田　裕教	12	大分
理事（総務補佐）（福岡県地区会長）	中田　宏	13	福岡西
理事（総務補佐）	平川　俊洋	14	鹿児島
理事（総務補佐）	新垣　斉	14	沖縄
理事（総務）	椿　誠	16	熊本

福祉厚生委員会

役　職	氏　名	期	府　県
副会長（福祉厚生）	水谷　匡秀	6	福岡西
常務理事（福祉厚生）	俣野　正仁	5	長崎
理事（福祉厚生委員長）	田中　靖彦	12	長崎
理事（福祉厚生副委員長）	中岡　俊智	12	大阪
理事（福祉厚生副委員長）	稲井　哲郎	16	福岡西
理事（福祉厚生）	北村　勝文	9	福岡西
理事（福祉厚生）	大塚　秀一	9	福岡西
委員（福祉厚生）	三箇　正賢	18	福岡北
委員（福祉厚生）	椿　賢	18	熊本
委員（福祉厚生）	今田　圭二	21	福岡東

組織委員会

役　職	氏　名	期	府　県
副会長（組織）	神田　晋爾	4	福岡西
理事（組織委員長）	吉兼　透	22	福岡西
理事（組織副）	花水　麻美	30	福岡西

広報委員会

役　職	氏　名	期	府　県
常務理事（広報）	劉　中憲	14	福岡西
理事（広報委員長）	江藤ゆかり	12	宮崎
理事（広報副委員長）	香川　豊宏	15	学内／香川
委員（広報）	後藤加寿子	21	学内／福岡西
委員（広報）	野上堅太郎	22	学内／福岡西
委員（広報）	川口　智弘	29	学内／福岡西
委員（広報）	廣松　亮	32	学内／福岡南
委員（広報）	白本　和志	38	福岡西
委員（広報）	田平　和久	39	学内／鹿児島

学術委員会

役　職	氏　名	期	府　県
副会長（学術）	上田　秀朗	5	福岡北
常務理事（学術）	矢野　尚一	4	福岡北
常務理事（学術）	葛西　秀夫	6	福岡西
理事（学術顧問）	枌　浩一	3	福岡西
理事（学術委員長）	松永　興昌	16	福岡西
理事（学術副委員長）	大熊　一徳	13	福岡西
理事（学術副委員長）	西　耕作	15	福岡南
委員（学術）	江﨑　和久	8	福岡南
委員（学術）	中村　恵子	18	学内／福岡北
委員（学術）	坂田　憲彦	20	福岡西
委員（学術）	古賀めぐみ	23	福岡西
委員（学術）	鈴木　宏樹	23	福岡西
委員（学術）	青木　隆宜	26	福岡西
委員（学術）	森川　秀典	31	福岡南
委員（学術）	宮園　祥爾	37	学内／福岡南

企画情報委員会

役　職	氏　名	期	府　県
常務理事（企画・情報）	小柳　進祐	12	佐賀
理事（企画・情報委員長）	荻野　真介	24	福岡西
理事（企画・情報副委員長）	田代　剛	26	佐賀

会計委員会

役　職	氏　名	期	府　県
常務理事（会計）	浦　嘉訓	12	佐賀
理事（会計副委員長）	加倉　加恵	24	学内／広島
委員（会計）	松本　彩子	35	学内／福岡南

〈第43回定時総会〉

学内・府県同窓会会長・評議員

地区会	府県	役職	氏名	期	勤務先
学内		地区会会長・学内会長（本部顧問）	都築 尊	18	咬合修復学講座 有床義歯学分野
		評議員	橋本憲一郎	23	口腔・顎顔面外科学講座 口腔腫瘍学分野
福岡県	福岡東	府県会長（本部理事）	山本浩之	9	山本歯科医院
		評議員	丸林睦明	11	丸林歯科医院
		評議員	葉山揚介	26	はやま歯科医院
	福岡西	地区会会長・府県会長（本部理事）	中田 宏	13	中田歯科医院
		評議員	日高英治	5	日高歯科医院
		評議員	小河清裕	8	小河歯科医院
		評議員	赤間 圭	14	たくみ歯科医院
		評議員	西原浩平	10	西原歯科医院
		評議員	飯田聖子	17	まえばる歯科医院
		評議員	池田正博	18	いけだ歯科医院
		評議員	重冨澄保	24	重冨歯科医院
		評議員	杉本大輔	24	杉本歯科医院
		評議員	牧野正敬	25	牧野歯科医院
	福岡南	府県会長（本部理事）	岡 浩司	7	岡歯科医院
		評議員	吉田 亨	11	よしだ歯科
		評議員	澁江 拓	13	しぶえ歯科・小児歯科
		評議員	姫野尚宏	11	姫野歯科医院
		評議員	野田慎一朗	21	のだ歯科・小児歯科
	福岡北	府県会長（本部理事）	浅尾 武	10	浅尾歯科医院
		評議員	川野俊介	14	川野歯科医院
		評議員	友岡和紀	17	友岡歯科診療所
		評議員	向坊明浩	24	むかいぼう歯科
九州	佐賀	地区会会長・府県会長（本部常務理事）	浦 嘉訓	12	浦歯科医院
		評議員	山口倫仁	7	やまぐち歯科医院
		評議員	田邉 隆	10	たなべ歯科医院
		評議員	酒井正男	14	酒井歯科医院
	長崎	府県会長・評議員	渡邊知英	13	わたなべ TOMO 歯科医院
		評議員	原 精一郎	21	はら歯科医院
		評議員	東 義隆	21	東歯科医院
		評議員	橘 一史	27	たちばな歯科
	熊本	府県会長・評議員	渡辺猛士	5	渡辺歯科医院
		評議員	武藤健史	6	武藤歯科医院
		評議員	渡辺 洋	9	渡辺歯科クリニック

地区会	府県	役職	氏名	期	勤務先
九州	熊本	評議員	井上裕邦	15	井上歯科クリニック
	大分	府県会長・評議員	山田道男	6	高城やまだ歯科
		評議員	茂山裕之	20	南立石イトセ歯科医院
		評議員	西澤浩太郎	21	にしざわ歯科 口腔外科クリニック
	宮崎	府県会長・評議員	黒木康夫	6	黒木康夫歯科医院
		評議員	陶山 隆	6	陶山歯科医院
	鹿児島	府県会長・評議員	要 光	11	かなめ歯科医院
		評議員	山之内 伸	1	山之内歯科医院
	沖縄	府県会長・評議員	松島一夫	8	まつしま歯科医院
		評議員	城間吉弘	4	しろま歯科医院
中国	山口	府県会長・評議員	佐々木 猛	1	佐々木歯科医院
		評議員	児玉昭彦	5	児玉歯科医院
	広島	府県会長・評議員	村上誠一	7	村上歯科医院
		評議員	石本智教	9	石本歯科クリニック
	島根	府県会長・評議員	青笹之夫	2	青笹歯科医院
	岡山	地区会長（本部副会長）	大橋義文	13	大橋歯科医院
		府県会長	平 和義	7	ひら歯科クリニック
		評議員	石川拓志	6	いしかわ歯科医院
四国	愛媛	府県会長	小林 悟	4	小林歯科医院
	高知	府県会長・評議員	矢野宗憲	9	矢野歯科医院
	香川	府県会長	濱岡宏典	9	はまおか歯科医院
	徳島	地区会長・府県会長・評議員	野口圭司	2	野口歯科医院
近畿	大阪	府県会長（本部副会長）	石田哲也	9	石田歯科医院
		評議員	加藤秀治	13	医療法人昭成会加藤歯科
		評議員	竹田具弘	17	たけだ歯科
	京・滋	府県会長	金谷 徹	15	金谷歯科医院
	兵庫	地区会会長・府県会長（本部副会長）	藤田忠篤	2	フジタ歯科医院
		評議員	宮脇正樹	10	宮脇歯科医院
	和歌山	府県会長	藤田知則	8	藤田歯科診療所
	奈良	府県会長	上林 融	3	上林歯科医院
中部		地区会長・府県会長	和田三茂	15	わだ歯科医院
		評議員	伊藤恒一	2	中津第一歯科医院
関東		地区会会長・府県会長・評議員	中野裕次	6	なかの歯科医院

会　務　報　告

自 令和２年４月１日
至 令和３年３月31日

月日	曜日	詳　　細	出　　席　　者	場　　所
4／9	木	令和元年度監査		同窓会室
4／15	水	令和２年度入学式（延期）		本学園
5／16	土	大分県同窓会総会・講演会（懇親会中止）		トキハ会館
〃	〃	長崎県同窓会総会・懇親会（近親者のみ）	吉永会長	ホテル JAL シティ長崎
6／16	火	学校法人福岡学園理事会・評議員会・理事会	吉永会長、宮口・髙橋名誉会長	本学園
6／24	水	第１回常務理事会 Web 会議	常務理事以上	Web
6／25	木	福岡県西同窓会総会		福岡県歯科医師会館
7／4	土	福岡県南同窓会令和２年度定時総会学術講演会	吉永会長、神田副会長	久留米歯科医師会
7／8	水	第１回学術委員会 Web 会議	学術委員会	Web
7／13	月	第２回常務理事会 Web 会議	常務理事以上	Web
7／27	月	福岡学園開学記念式典	吉永会長、中・伊藤副会長、秋山専務、宮口名誉会長	福岡学園
8／3	月	学校法人福岡学園理事会・評議員会	宮口名誉会長	福岡学園
8／17	月	第３回常務理事会 Web 会議	常務理事以上	Web
8／19	水	福岡市歯科医師会神田会長懇談会	吉永会長、佐伯・上田副会長、秋山専務、中田常務、宮口名誉会長、重冨評議員	あまの
8／27	木	新病院グランドピアノ納品		新病院
8／28	金	新病院グランドピアノ検収	吉永会長	新病院
9／13	日	医科歯科総合新病院開設内覧会	宮口名誉会長、神田・寺尾・髙嶺・佐伯・中・森・水谷副会長、秋山専務、梶谷顧問	医科歯科総合病院
〃	〃	12校会議	吉永会長、槙原副会長	東京ステーションホテル
9／14	月	学校法人福岡学園理事会	宮口名誉会長	本学園
10/19	月	第４回常務理事会 Web 会議	常務理事以上	Web
10/20	火	学校法人福岡学園理事会	宮口名誉会長	本学園
10/24	土	オープンキャンパス		本学園
11／4	水	第２回学術委員会 Web 会議	学術委員会	Web
11/16	月	総合歯科学講座　総合歯科学分野 廣藤卓雄教授最終講義	吉永会長	本館501講義室
11/17	火	第５回常務理事会 Web 会議	常務理事以上	Web
11/18	水	学校法人福岡学園理事会・評議員会	吉永会長、 宮口・髙橋名誉会長、中副会長	本学園

〈第43回定時総会〉

11/21	土	第３回学術委員会 Web 会議	学術委員会	Web
12/ 7	月	第４回学術委員会 Web 会議	学術委員会	Web
12/15	火	学校法人福岡学園理事会	宮口名誉会長	本学園
12/21	月	第６回常務理事会 Web 会議	常務理事以上	Web
12/28	月	仕事納め		
1 / 4	月	仕事始め 年頭あいさつ		
1 / 5	火	第５回学術委員会 Web 会議	学術委員会	Web
1 / 9	土	福岡県歯科医師会長選挙 神田晋爾先生事務所開き	吉永会長、秋山専務	福岡市
1 /18	月	第７回常務理事会 Web 会議	常務理事以上	Web
1 /19	火	学校法人福岡学園理事会	宮口名誉会長	本学園
1 /22	金	第33回学術講演会リハーサル並びに第６回学術委員会 Web 会議	学術委員会	Web
1 /24	日	第37回全国歯科大学同窓会・校友会学術担当者連絡会準備委員会オンライン会議	矢野常務	Web（Zoom）
2 / 1	月	第７回学術委員会 Web 会議	学術委員会	Web
2 /15	月	第８回常務理事会 Web 会議	常務理事以上	Web
2 /16	火	学校法人福岡学園理事会	宮口名誉会長	本学園
2 /18	木	奈良県同窓会総会・学術講演会	森副会長	江戸川ならまち店
2 /28	日	福岡歯科大学同窓会主催第33回学術 Web 講演会	学術委員会	Web
3 / 8	月	第８回学術委員会 Web 会議	学術委員会	Web
3 /11	木	総務委員会 Web 会議	総務委員会	Web
3 /12	金	福祉厚生委員会 Web 会議	福祉厚生委員会	Web
3 /13	土	福岡歯科大学第43回卒業式	都築顧問	本学園
3 /15	月	第９回常務理事会 Web 会議	常務理事以上	Web
3 /16	火	学校法人福岡学園理事会・評議員会	吉永会長、 宮口・髙橋名誉会長、中副会長	本学園
3 /29	月	第９回学術委員会 Web 会議	学術委員会	Web

一般会計

令和２年度　福岡歯科大学同窓会会計収入支出決算書

自　令和２年４月１日
至　令和３年３月31日

収入の部　　単位：円

款	項	科　　目	予　算　額	決　算　額	予算との差額	執 行 率	備　　考
1		会費・入会金	24,500,000	16,970,000	−7,530,000	69.3%	
	1	会員	22,000,000	15,770,000	−6,230,000	71.7%	会費及び入会金
	2	準会員	2,500,000	1,200,000	−1,300,000	48.0%	入会金
2		学術	1,200,000	711,000	−489,000	59.3%	
	1	講演会	600,000	711,000	111,000	118.5%	第33回 Web 学術講演会受講料・企業 CM/ 広告協賛料
	2	臨床セミナー	200,000	0	−200,000	0.0%	臨床セミナー中止
	3	スキルアップセミナー	400,000	0	−400,000	0.0%	2020年度スキルアップセミナー中止
3		雑収入	801,000	1,260,273	459,273	157.3%	
	1	預金利息	1,000	273	−727	27.3%	一般会計分利息（2,727×10%）
	2	広告料	700,000	1,200,000	500,000	171.4%	同窓会誌広告
	3	その他	100,000	60,000	−40,000	60.0%	同封手数料
		小　　計	26,501,000	18,941,273	−7,559,727	71.5%	
4		預り金	−11,570	−11,672			源泉徴収分一時預かり
	4	預り金	−11,570	−11,672			
5		前年度繰越金	6,865,066	6,865,066	0		
	1	前年度繰越金	6,865,066	6,865,066	0		
		合　　計	33,354,496	25,794,667	−7,559,829	77.3%	

支出の部

款	項	科　　目	予　算　額	決　算　額	予算との差額	執 行 率	備　　考
1		人件費	4,300,000	3,795,707	−504,293	88.3%	
	1	人件費	4,300,000	3,795,707	−504,293	88.3%	
2		通信費	960,000	966,674	6,674	100.7%	
	1	通信費	960,000	966,674	6,674	100.7%	
3		事務費	660,000	411,281	−248,719	62.3%	
	1	事務費	660,000	411,281	−248,719	62.3%	
4		連絡会議費	3,300,000	538,488	−2,761,512	16.3%	会長・専務交通費
	1	連絡会議費	3,300,000	538,488	−2,761,512	16.3%	理事会・評議員会書面決済、総会中止
5		広報印刷費	2,000,000	1,813,136	−186,864	90.7%	
	1	広報印刷費	2,000,000	1,813,136	−186,864	90.7%	
6		慶弔費	380,000	237,640	−142,360	62.5%	
	1	慶弔費	380,000	237,640	−142,360	62.5%	
7		学術費	2,170,000	1,135,906	−1,034,094	52.3%	第33回 Web 学術講演会
	1	学術費	2,170,000	1,135,906	−1,034,094	52.3%	
8		渉内費	3,600,000	582,510	−3,017,490	16.2%	
	1	渉内費	3,600,000	582,510	−3,017,490	16.2%	
9		渉外費	3,190,000	1,503,370	−1,686,630	47.1%	
	1	渉外費	3,190,000	1,503,370	−1,686,630	47.1%	
10		雑費	100,000	55,080	−44,920	55.1%	
	1	雑費	100,000	55,080	−44,920	55.1%	
11		予備費	1,000,000	0	−1,000,000	−	
	1	予備費	1,000,000	0	−1,000,000	−	
12		積立金	4,500,000	4,500,000	0	100.0%	
	1	名簿積立金	600,000	600,000	0	100.0%	
	2	退職金積立金	200,000	200,000	0	100.0%	
	3	備品積立金	200,000	200,000	0	100.0%	
	4	周年記念準備基金	1,000,000	1,000,000	0	100.0%	同窓会記念事業の積立金
	5	学園改修等協力積立金	2,500,000	2,500,000	0	100.0%	学園施設改修等・事業協力基金
		小　　計	26,160,000	15,539,792	−10,620,208	59.4%	
13		次年度繰越金	7,194,496	10,254,875	3,060,379	142.5%	
	1	次年度繰越金	7,194,496	10,254,875	3,060,379	142.5%	令和元年度繰越金
		合　　計	33,354,496	25,794,667	−7,559,829	77.3%	

〈第43回定時総会〉

令和２年度積立金会計収支決算書

自　令和２年４月１日
至　令和３年３月31日

単位：円

退職金積立金	
過年度積立金	5,349,833
本年度積立金	200,000
利息（西日本シティ/野芥）	46
合　計（次年度繰越金）	5,549,879

基本財産積立金	
過年度積立金	58,291,780
計上利息（普通・定期預金利息90％）	2,454
合　計（次年度繰越金）	58,294,234

周年記念準備基金			
収　入		支　出	
過年度積立金	11,107,235	残高証明書	330
本年度積立金	1,000,000		
利息（西日本シティ/野芥）	90	合　計	330
合　計	12,107,325	合　計（次年度繰越金）	12,106,995

学園改修等協力金			
過年度積立金	34,426,683	残高証明書発行手数料	103
本年度積立金	2,500,000	新病院寄贈ピアノ代金	3,630,440
利息（ゆうちょ銀行/通常貯金４月10月）	12	ワンタイムパスワード機器トクーン	1,650
利息（ゆうちょ銀行/通常貯金）			
利息（ゆうちょ銀行/定額貯金）		小　計	3,632,193
合　計	36,926,695	合　計（次年度繰越金）	33,294,502

備品積立金			
過年度積立金	1,686,060	ノートパソコン一式	182,226
本年度積立金	200,000		
利息（西日本シティ/野芥）	14		
		小　計	182,226
合　計	1,886,074	合　計（次年度繰越金）	1,703,848

名簿積立金	
過年度積立金	2,167,165
本年度積立金	600,000
利息（西日本シティ/原）	18
合　計	2,767,183

特別会計

令和２年度福岡歯科大学同窓会特別支援事業収支決算書

（福岡歯科大学同窓会共催　第11回 ICOI Fellowship 養成コース）

自　令和２年４月１日
至　令和３年３月31日

収入の部　　単位：円

款	項	科　　目	予　算　案	決　算　額	予算との差額	備　　考
1		参加費	200,000	0	－200,000	
	1	参加費	200,000	0		ICOI 実施は中止
2		雑収入	1,000	3	－997	
	1	雑収入	1,000	3		預金利息
小　　計			201,000	3	－200,997	0.0%
3		繰入金	435,516	435,516		前期繰越金
	1	繰入金	435,516	435,516		
小　　計			435,516	435,516	0	
収入合計			636,516	435,519	－200,997	

支出の部

款	項	科　　目	予　算　案	決　算　額	予算との差額	備　　考
1		人件費	0	0	0	
	1	人件費	0	0		
2		通信費	100,000	0	－100,000	
	1	通信費	100,000	0		
3		会場費	50,000	0	－50,000	
	1	会場費	50,000	0		
4		講演費	150,000	0	－150,000	
	1	講師料	100,000	0	－100,000	
	2	材料費	50,000	0	－50,000	
	3	昼食費	0	0	0	
	4	印刷費	0	0	0	
	5	その他	0	0	0	
5		事務費	0	0	0	
	1	事務費	0	0		
6		会議費	100,000	0	－100,000	
	1	会議費	100,000	0		
7		雑費	0	0	0	
	1	雑費	0	0		
8		予備費	0	0	0	
	1	予備費	0	0		
9		学会関連費	100,000	314,050	214,050	
	1	学会関連費	100,000	314,050		翻訳費用
10		大学関連費	0	0	0	
	1	大学関連費	0	0		
小　　計			500,000	314,050	－185,950	62.8%
11		繰越金	136,516	121,469	－15,047	次年度繰越
	1	繰越金	136,516	121,469		
支出合計			636,516	435,519	－200,997	

〈第43回定時総会〉

令和３年度福岡歯科大学同窓会会計収支予算

収　入　額　25,361,000円　　支　出　額　26,910,000円
前年度繰越金　10,254,875円　　次年度繰越金　5,304,066円

自　令和３年４月１日
至　令和４年３月31日

収入の部　　単位：円

款	項	科　　目	前年度決算額	本年度予算額	決算額との差額	備　　考
1		会費・入会金	16,970,000	22,160,000	5,190,000	
	1	会員	15,770,000	20,000,000	4,230,000	会費及び入会金
	2	準会員	1,200,000	2,160,000	960,000	入会金（学生）
2		学術	711,000	2,300,000	1,589,000	
	1	講演会	711,000	1,000,000	289,000	Web 講演会・企業協賛
	2	臨床セミナー	0	0	0	
	3	臨床スキルアップセミナー	0	1,300,000	1,300,000	2021年度４回コース（オンデマンド）・企業協賛
3		雑収入	1,260,273	901,000	−359,273	
	1	預金利息	273	1,000	727	普通預金利息
	2	広告料	1,200,000	800,000	−400,000	同窓会誌広告
	3	その他	60,000	100,000	40,000	
小　　計			18,941,273	25,361,000	6,419,727	
4		預り金	−11,672	−12,000		源泉徴収分預かり
	1	預り金	−11,672	−12,000		
5		前年度繰越金	6,865,066	6,865,066	0	前年度から繰越
	1	前年度繰越金	6,865,066	6,865,066	0	
収入合計			25,794,667	32,214,066	6,419,399	

支出の部

款	項	科　　目	前年度決算額	本年度予算額	決算額との差額	備　　考
1		人件費	3,795,707	4,350,000	554,293	
	1	人件費	3,795,707	4,350,000	554,293	
2		通信費	966,674	960,000	−6,674	
	1	通信費	966,674	960,000	−6,674	
3		事務費	411,281	540,000	128,719	
	1	事務費	411,281	540,000	128,719	
4		連絡会議費	538,488	3,950,000	3,411,512	
	1	連絡会議費	538,488	3,950,000	3,411,512	各会議
5		広報印刷費	1,813,136	2,050,000	236,864	
	1	広報印刷費	1,813,136	2,050,000	236,864	同窓会誌、季節風印刷
6		慶弔費	237,640	360,000	122,360	
	1	慶弔費	237,640	360,000	122,360	
7		学術費	1,135,906	2,600,000	1,464,094	
	1	学術費	1,135,906	2,600,000	1,464,094	Web 講演会・スキルアップセミナー
8		渉内費	582,510	3,200,000	2,617,490	
	1	渉内費	582,510	3,200,000	2,617,490	
9		渉外費	1,503,370	3,300,000	1,796,630	
	1	渉外費	1,503,370	3,300,000	1,796,630	
10		雑費	55,080	100,000	44,920	
	1	雑費	55,080	100,000	44,920	
11		予備費	0	1,000,000	1,000,000	
	1	予備費	0	1,000,000	1,000,000	
12		積立金	4,500,000	4,500,000	0	
	1	名簿積立金	600,000	600,000	0	
	2	退職金積立金	200,000	200,000	0	
	3	備品積立金	200,000	200,000	0	
	4	周年記念準備基金	1,000,000	1,000,000	0	同窓会周年記念事業の積立金
	5	学園改修等協力積立金	2,500,000	2,500,000	0	学園施設改修等事業協力基金
小　　計			15,539,792	26,910,000	11,370,208	
13		次年度繰越金	10,254,875	5,304,066	−20,490,601	次年度へ繰越
	1	次年度繰越金	10,254,875	5,304,066	−4,950,809	
支出合計			25,794,667	32,214,066	6,419,399	

特別会計

令和３年度福岡歯科大学同窓会特別支援事業収支予算書

令和３年４月１日～令和４年３月31日

収入の部

単位：円

款	項	科　　目	前年度決算額	予　算　案	予算との差額	備　　考
1		参加費	200,000	5,000,000	4,800,000	
	1	参加費	200,000	5,000,000		
2		雑収入	1,000	1,000	0	
	1	雑収入	1,000	1,000		預金利息
小　　計			201,000	5,001,000	4,800,000	
3		繰入金	435,516	121,469		前期繰越金
	1	繰入金	435,516	121,469		
小　　計			435,516		−435,516	
収入合計			636,516	5,122,469	4,485,953	

支出の部

款	項	科　　目	決　算　額	予　算　案	予算との差額	備　　考
1		人件費	0	200,000	200,000	
	1	人件費	0	200,000		
2		通信費	0	100,000	100,000	
	1	通信費	0	100,000		郵送料等（一般会計へ振替）
3		会場費	0	100,000	100,000	
	1	会場費	0	100,000		
4		講演費	0	750,000	750,000	
	1	講師料	0	500,000	500,000	講師・インストラクター礼金、交通費・宿泊代
	2	材料費	0	50,000	50,000	材料・機材費
	3	昼食費	0	100,000	100,000	
	4	印刷費	0	100,000	100,000	
	5	その他	0	0	0	
5		事務費	0	100,000	100,000	
	1	事務費	0	100,000		事務手数料
6		会議費	0	100,000	100,000	
	1	会議費	0	100,000		
7		雑費	0	50,000	50,000	
	1	雑費	0	50,000		
8		予備費	0	50,000	50,000	
	1	予備費	0	50,000		
9		学会関連費	314,050	100,000	−214,050	
	1	学会関連費	314,050	100,000		学会関連関係
10		大学関連費	0	100,000	100,000	
	1	大学関連費	0	100,000		
小　　計			314,050	1,600,000	1,285,950	
11		繰越金	322,466	3,522,469	3,200,003	次年度繰越
	1	繰越金	322,466	3,522,469		
支出合計			636,516	5,122,469	4,485,953	

福岡歯科大学同窓会会則

第１章　総　　則

第１条　名　称

本会は、福岡歯科大学同窓会と称する。

第２条　組　織

１．本会は、福岡歯科大学（大学院を含む）を卒業（修了）した者及び福岡歯科大学在校生で組織する。

２．本会は、各地区、学校法人福岡学園勤務の同窓との連携を計り、会務運営の円滑を期待するために地区会、学内同窓会を置くことができる。

３．地区会の区割り及び学内同窓会、その他必要な事項については別に規則を定める。

第３条　目　的

本会は歯科界、並びに母校の発展に寄与し、併せて会員の福祉及び会員相互の親睦を図ることを目的とする。

第４条　事　業

本会は、第１章第３条の目的を達成するために次の事業を行う。

１．母校の発展に関すること。

２．会員の福祉増進及び親睦に関すること。

３．歯科医学の向上に関すること。

４．その他本会の目的に関すること。

第５条　事務局

本会は事務局を福岡市早良区田村２丁目15-１、福岡歯科大学内に置き所在地とする。

第２章　会　　員

第６条　会　員

本会は次の会員を以って組織する。

１．正会員　福岡歯科大学（大学院を含む）卒業（修了）者で、第２章第７条第１項を満足するものとする。

２．準会員　福岡歯科大学在校生。

第７条　会員の権利と義務

１．会員は居住、又は就業する地域の地区会都道府県同窓会に所属することを原則とする（但し、学内同窓会に所属する会員は、この限りではない）。

２．会員は本会の主催する事業に参加し、本会の発行する機関誌及び印刷物の頒布を受け、若しくは購入することができる。

３．会員は総会に出席し、意見を述べることができる。

４．会員は、総会並びに評議員会の決定事項を遵守する義務を有する。

５．会員は、住所を異動した場合、所属の都道府県同窓会を経由して本会に届け出なければならない。

６．会員が死亡又は除名されたときは、本会会員の身分を失ったものとする。

７．会員が本会を退会するときは、その旨を記載した書面を本会に提出しなければならない。

８．正会員は、総会において議事を審議し、議決権を有する。また役員になることができる。

９．準会員は、本校在学者とし、正会員としての権能は有しない。

第３章　名誉会長・名誉会員・特別会員・臨床研修会員

第８条　名誉会長・名誉会員・特別会員・臨床研修会員

本会に名誉会長、名誉会員、特別会員、臨床研修会員を置くことができる。また、前項の会員は、本会の研修会等に出席し学術研究を発表し、あるいは本会の会誌及び刊行物の配布を受けまたは購入することができる。本条の会員は前項のほか、正会員の権利を有しない。但し、本会員の正会員で名誉会員に推薦された者はこの限りではない。

１．名誉会長は、理事会の議決を経て会長が推薦する。任期は、会長の在任期間とする。

２．名誉会員は、母校並びに本会に対して特に功労があった者を評議員会の議決を経て会長が推薦する。

３．特別会員は、退職した母校の教授、または母

校並びに本会に対して特に功労があった者を理事会の議決を経て会長が推薦する。

4．臨床研修会員は、他大学卒業の歯科医師法に定める臨床研修歯科医師で、本学で臨床研修を行っている者を会長が推薦する。また、会員の資格は臨床研修の期間とする。

第４章　会費及び負担金

第９条　会費及び負担金

1．会員は本会所定の入会金、会費、及び負担金を本会へ納入しなければならない。

2．入会金、会費及び負担金の額ならびに支払いの方法は、総会で決める。

第10条　会費の減免

本会の会員にして長期疾病及び災害等により本会所定の会費の支払いが極めて困難な者は、都道府県同窓会会長の申請に基づき理事会の議を経て、復帰するまでの期間を前提として会費を減免、またはその納入を猶予することができる。但し、都道府県同窓会を経由することが困難な場合には、本部へ直接減免願いを提出することができる。

第11条　会費の返還

本会に納入された入会金、年会費及び負担金はいかなる理由があっても返還しない。

第12条　負担金その他

本会は、評議員会、総会の承認を経て負担金を徴収することができる。

第５章　役　　員

第13条　役員の種別と定数

本会に次の役員を置く。

1．会　長　１名

2．副会長　若干名

3．理　事　若干名

4．監　事　３名以内

第14条　役員の選出

1．会長、監事は選挙規則に従い、評議員会において正会員の中から選出する。但し、監事は他役員を兼任できない。

2．副会長、理事、委員は会長が指名する。

3．理事の内、１名を専務理事、若干名を常務理事とする。

第15条　役員の職務

1．会長は本会を代表し、会務を総理する。

2．会長は総会、評議員会、理事会、委員会、地区会長会議を招集する。

3．会長は、理事会の決議を要する事柄でありながら、緊急必要事項については専決することができる。但し、後日理事会へ報告しなければならない。

4．副会長は会長を補佐し、会長に事故ある時または欠けた時は会長の職務を代行する。

5．専務理事は、会長の旨を受け会務を掌理し、会長及び副会長共に事故ある時または欠けた時はその職務を代行する。

6．常務理事は、会長の旨を受けその担当業務を掌理して専務理事を補佐する。

7．各前号に定める以外の理事は、会長の旨を受けて会務を分掌して会長を補佐する。

8．監事は本会の業務と会計を監査し、評議員会、総会に報告しなければならない。

第16条　役員の任期

1．会長、監事及び役員、委員の任期を２年とする。但し、再任を妨げない。

2．役員は任期満了後も、後任が選出されるまでは、その職務を行う。

第17条　役員の補充

副会長、理事の欠員が生じた時は、本会会則５章第14条に従い補充することができる。その任期は前任者の残留任期とする。

第18条　顧　問

本会は、顧問を置くことができる。顧問は会長が推薦し委嘱する。顧問の任期は、委嘱した会長の在任期間とする。

第６章　評　議　員

第19条　評議員

1．本会に評議員を置く。

2．評議員は第13条で規定する役員と兼ねることができない。

〈会則〉

第20条　選任等

1．評議員は正会員で地区会、学内同窓会より選出される。

2．評議員の選任数は、地区会、学内同窓会における１月末日現在の本会会員50名までに対して１名、50名を超える場合は、50名までごとに１名の割合で加えた数の評議員を上限として選出するものとする。

3．地区会、学内同窓会は評議員に変更がある場合は、速やかに本会に報告しなければならない。

4．評議員の任期は２年とし、選任された年の４月１日に始まる。

第21条　職務及び権能

1．評議員は評議員会に出席し、地区会、学内同窓会の同窓会会員の意見を反映させると共に、その決定事項を地区会、学内同窓会の同窓会会員に報告しなければならない。

2．評議員は、評議員会で会則その他の規定で定められていることを審議し、又は、本会の目的、事業について意見を述べることができる。

第22条　職務代理及び代行

評議員に事故ある時または欠けた時は、当該地区より評議員会の議長宛に委任状を提出するか、または当該地区より代理人は書面をもって指定し届ける事とする。代理人は、評議員と同等の権利と義務を有する。

第７章　会　　議

第23条　会議の種類

1．本会の会議は、総会・評議員会・常務理事会・理事会・委員会・地区会会長会議とする。但し、会長は必要に応じ会議を開催することができる。

2．評議員会を本会の最高議決会議とする。

第８章　総　　会

第24条　構成・種別及び開催等

1．総会は正会員を以って構成し、議決、報告及び承認する。

2．総会は定時総会と臨時総会とする。

3．定時総会は毎年１回原則として５月に開催する。

4．臨時総会は、会長が必要と認めた場合に開催する。

第25条　招　集

1．評議員の３分の２以上又は監事から、臨時総会の招集の要求があった場合は、会長はできるだけ早く臨時総会を招集しなければならない。

2．会長は総会を招集しようとする時は、事前に日時、場所及び会議の目的を示した書面を以って会員に知らせなければならない。

第26条　総会の権能

総会では、次の事項を承認又は議決し会員へ報告しなければならない。

1．評議員会の決議承認事項

2．会務全般にわたる事項

3．その他、総会において必要と認めた事項

第27条　議長及び副議長

総会の議長及び副議長は出席正会員の中から選出する。

第28条　委任規定

議事規則は、別に定める。

第９章　評 議 員 会

第29条　構成・種別及び召集

評議員会は評議員を以って構成する決議機関である。

1．評議員会は定時評議員会と臨時評議員会とする。

2．定時評議員会は総会開催前に会長が招集する。

3．臨時評議員会は会長が必要と認めた時、あるいは全評議員の４分の１以上の要求があった時に招集する。

4．評議員会は、委任状を含む全評議員の３分の２以上の出席で成立する。

第30条　意見陳述

役員は評議員会に出席して意見を述べることができるが、表決に加わることはできない。

第31条　評議員会の権能と総会への上程

評議員会では次の事項を行い承認又は議決を経

〈会則〉

てこれを総会へ上程する。
1．会則及び諸規則改正の審議
2．会長選出
3．前年度会計報告の審議並びに承認
4．前年度会務及び事業報告の審議並びに承認
5．新年度予算案の審議並びに承認
6．役員の承認
7．入会金、会費及び負担金の金額並びに徴収方法の決定
8．本会の目標達成に必要な事業で経費を要するものの承認
9．その他の必要と認める事項

第32条　議長及び副議長

評議員会の議長及び副議長は評議員で互選する。

第33条　委任規定

議事規則は別に定める。

第10章　常務理事会

第34条　常務理事会の構成

常務理事会は、会長、副会長、専務理事、常務理事を以って構成し会長が随時必要な場合にこれを招集する。

第35条　権　能

常務理事会は、常務会務並びに緊急を要する会務に関することを執行する機関であり、会長がこれを招集する。
1．常務理事会で処理した事項は、理事会に報告しなければならない。

第11章　理　事　会

第36条　理事会の構成及び招集
1．理事会は、本会の会務全般を執行する機関であり、会長がこれを招集する。
2．理事会は、会長、副会長、専務理事、常務理事、理事、委員を以って構成し、会長が随時必要な場合にこれを招集する。

第37条　理事会の権能

理事会は本会の業務に必要な事項の審議を行う。
1．総会及び評議員会の招集に関する事項とこれに付議する事項
2．会費の減免に関する事項
3．その他本会の運営業務執行に関する事項

第38条　監事の権能

監事は随時出席して意見を述べることができるが表決に加わることはできない。

第12章　委　員　会

第39条　委員会
1．会長は、必要に応じて理事会の同意を得て、委員会を置くことができる。
2．委員会は、理事会の議を経て会長が委嘱した委員で構成する。
3．委員会の種類、構成、活動は必要に応じ理事会で決定する。
4．会長は随時必要な場合にこれを招集することができる。

第40条　委員会の事業

委員会は、会務処理の円滑を図るため次の事業部を置き、常務理事が各委員会を統括する。
1．総務
2．福祉厚生
3．組織
4．広報
5．学術
6．企画・情報
7．会計

第41条　臨時委員会
1．会長は、特別な行事及び重要な問題が生じた時に理事会の承認を経て臨時委員会を設置することができる。
2．会長が委員長を指名し、会長及び委員長が必要に応じ委員を選任する。

第42条　特別委員会
1．会長は、特別な行事及び重要な問題が生じたときに評議員会の承認を経て特別委員会を設置することができる。
2．会長が委員長を指名し、会長及び委員長が必要に応じ委員を選任する。

第13章　地区会会長会議

第43条　地区会会長会議

本会議は、会長が必要と認めたとき随時開催することができる。

第14章　選挙管理委員会

第44条　選挙管理委員会

1．本会に選挙管理委員会を置く。
2．選挙管理委員会は、選挙管理委員をもって組織する。
3．選挙管理委員会の構成及び任務その他必要なことは、選挙規則で定める。

第15章　会計及び財産

第45条　会計年度

本会の会計年度は毎年４月１日に始まり、翌年３月31日に終わる。

第46条　財産の構成

本会の財産は、次にあげるものをもって構成する。

1．入会金
2．年会費
3．寄付金
4．前年度の繰越金
5．その他の収入

第47条　財産の管理

本会の財産は、会長が代表としてこれを管理し、毎年その状況を評議員会、総会で報告しなければならない。

第48条　経費の支弁

本会の経費は、財産をもって支弁する。

第49条　委任規定

本規則に定める以外の財産の管理及び会計に関する規則は別に定める。

第16章　賞　　罰

第50条　表　彰

会員で本会に功労のあった者、及び医療界に貢献した者は、評議員会の議決によって表彰することができる。

第51条　処　罰

会員で本会の目的趣旨に反し、またはその体面を汚したものは総会の議決によって適当な処置を講ずる。

第17章　会則の改正

第52条　会則の改正

本会則の改正には、評議員会及び総会において出席者の３分の２の賛成を以って議決されることを要する。

〔附　　則〕

1．この規則は平成16年５月29日から施行する。
2．この規則は平成20年５月24日から施行する。
3．この規則は平成23年５月28日から施行する。
4．この規則は平成26年４月１日から施行する。
5．この規則は平成29年５月27日から施行する。
6．この規則は令和元年５月25日から施行する。

福岡歯科大学同窓会地区会設置規則

第１条　本規則は本会会則第１章第２条第３項により定める。

１．地区会は、地区会会長を選出できる。

２．地区会に都道府県同窓会を置くことができる。

第２条　地区会の目的

１．会務運営の円滑を期するため地区会を置く。

２．地区会は当該地域内の都道府県同窓会、本部同窓会及び母校の発展に関する協議を行う機関とする。

第３条　地区会、都道府県同窓会の設置

各地区においては下記のように７地区（ブロック）に分割し地区の中に都道府県同窓会を置く。但し、福岡県に限っては４分割設置し、関東地区においてはこの限りでない。

福岡県地区会

（福岡県東、福岡県西、福岡県南、福岡県北）同窓会

九州地区会

（長崎県、佐賀県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県）同窓会

中国地区会

（山口県、広島県、島根県、鳥取県、岡山県）同窓会

四国地区会

（愛媛県、高知県、香川県、徳島県）同窓会

近畿地区会

（兵庫県、大阪府、京・滋、奈良県、和歌山県）同窓会

中部地区会

（福井県、岐阜県、愛知県、三重県、石川県、富山県、長野県、静岡県）同窓会

関東地区会

（関東以北の都道府県を含む）

第４条　地区会の任務

１．地区会は評議員を選出する。

２．地区会は次の事項を本会に届けなければならない。

（１）役員の名簿

（２）会員の異動

（３）会員の死亡、若しくは不慮の災害が生じた場合

第５条　地区会会長

地区会会長は、地区会から選出し、本部会長が指名する。地区会会長は地区会を代表して次の任務を行う。

１．地区会会長は地区の同窓会会員を掌握し、その融和と親睦を図る。

２．地区会会長は本部との連絡を密にし、地区会の決定事項、実施した事項及び本会本部に対する要望事項、その他必要な事項を本部会長に報告しなければならない

第６条　都道府県同窓会会長

都道府県同窓会会長は、都道府県同窓会会員から選出し、本部会長が指名する。都道府県同窓会会長は都道府県同窓会を代表して次の任務を行う。

１．都道府県同窓会会長は都道府県同窓会会員を掌握し、その融和と親睦を図る。

２．都道府県同窓会会長は地区会、本部との連絡を密にし、都道府県同窓会の決定事項、実施した事項及び地区会、本部に対する要望事項、その他必要な事項を地区会会長に報告しなければならない。

第７条　会議

１．地区会会長は、必要に応じて会議を開催することができる。

２．地区会会長は、会議に本部役員の出席が必要な場合、必要な役員を招聘することができる。

３．近隣の地区会との協議が必要な場合は、合同で開催することができる。

〔附　　則〕

１．この規則は平成16年５月29日から施行する。

２．この規則は平成20年５月24日から施行する。

３．この規則は平成26年４月１日から施行する。

４．この規則は平成28年６月11日から施行する。

５．この規則は平成30年６月２日から施行する。

福岡歯科大学同窓会学内同窓会規則

第１条　本規則は本会会則第１章第２条第３項により定める。

１．学内同窓会は、学内同窓会会長を選出することができる。

第２条　組　織

１．学内同窓会は、福岡歯科大学（大学院を含む）を卒業（修了）したもの、準会員及び学内勤務会員で組織する。

第３条　学内同窓会の目的

１．会務運営の円滑を期するため学内同窓会を置く。

２．学内同窓会は、本部同窓会及び母校の発展に関する協議を行う。

第４条　学内同窓会の任務

１．学内同窓会は評議員を選出する

２．学内同窓会は次の事項を本会に届けなければならない。

（１）会員の名簿

（２）会員の異動

（３）会員の死亡、若しくは不慮の災害が生じた場合

第５条　会　員

学内同窓会正会員

本会正会員で学校法人福岡学園勤務の者。

準会員

本会の準会員

第６条　学内勤務会員

学校法人福岡学園に５年以上勤務で、学内同窓会会長が推薦し本部理事会の議決を得て、会長が指名した者で、会費は正会員に準ずる。但し、正会員としての権能を有しない。

第７条　学内同窓会会長

学内同窓会会長は、学内同窓会会員から選出し本部の会長が指名する。学内同窓会会長は学内同窓会を代表して次の任務を行う。

１．学内同窓会長は学内同窓会会員を掌握し、その融和と親睦を図る。

２．学内同窓会会長は本部との連絡を密にし、学内同窓会の決定事項、実施した事項及び本会に対する要望事項、その他必要な事項を本部会長に報告しなければならない。

〔附　　則〕

１．この規則は平成26年４月１日から施行する。

福岡歯科大学同窓会総会議事規則

第１章　会議の開閉

第１条　この規則は、本会会則第８章第28条に基づいて定めるものとする。

第２条　議事日程に記載した事項の議事が終わったときは、議長は散会を宣告する。会議を終わらない場合でも、議長は、過半数の賛成を得て延会又は散会をすることができる。

第３条　議長が会議を宣告する前、又は散会若しくは延会を宣告した後は、何人も議事について発言することはできない。

第４条　議事日程には、会議の日時及び会議に付する事項並びにその順序を記載しなければならない。

第２章　議　　事

第１節　審　議

第５条

１．審議中発言せんとする会員は、手を挙げ議長の許しを得て発言しなければならない。

２．二人以上発言を求めたときは、議長はその発言の順序を決めることを要する。

第６条　すべての問答は、議長に向かってしなければならない。

第７条　一議案の審議中は、他の議案について発言することはできない。

第８条　発言は、個人の事柄にわたってはならない。

第９条

１．会員が発議しようとするときは、その理由を付し、建議を添え、５人以上の賛成者とともに連署して会議の２週間前までに会長に提出しなければならない。

２．動議は、５人以上の賛成者を得て提出することができる。

３．議長は、第１項・第２項に規定する発議及び動議について議場に諮り、出席者の過半数の賛成を得た場合、これを議題とすることができる。

第２節　決　議

第10条　出席者は特別の理由がない限り、可否いずれかの数に加わらなければならない。

第11条　議長表決をとるときは、表決に附する事項を明らかにしなければならない。議長表決に附する事項を宣言した後は、何人も議案について発言することはできない。

第12条　賛否は出席者の過半数で決める。賛否を決める方法は、議長が適宜決める。賛否が同数のときは議長が決める。

第13条　修正案は、原案より先に賛否を決めなければならない。同一の議案について数個の修正案が提出された場合は議長が採決の順序を決める。その順序は、原案に最も遠いものから先に採決する。

第14条　修正案が全部否決されたときは、原案について賛否を決める。

第15条　修正案及び原案が共に過半数の賛成を得なかった場合は、委員会を設置して更に修正案を提出させることができる。

第16条　議決の条項中、字句の整理を議長に委任することができる。

第17条　討論終結及び散会、休憩の合議は、討論を用いないで議長が決める。

第18条　議長は、議事を妨げると認めるものがあるときは、退場を命ずることができる。

第19条　議長は、議事整理のためやむを得えないときは出席者の発言を止め又は中止することができる。

第３章　議　事　録

第20条　議事録には次の事項を記載する。

１．総会の名称と開会の年月日時

２．出席者の氏名

３．会議に附した議案の題目

４．議題となった動議及び発議者の氏名

５．議決事項

６．賛否の数を計算したときはその数

７．議長において必要と認めた事項

第21条　議事録は、議長の指名した会員２人がこれに署名捺印しこれを本会に保管する。

〔附　　則〕

１．この規則は平成16年５月29日から施行する。

２．この規則は平成26年４月１日から施行する。

福岡歯科大学同窓会評議員会議事規則

第１章　総　　則

第１条　趣　旨

この規則は、本会会則第９章第33条に基づいて定めるものとする。

第２条　氏名点呼

開議の時刻に至るときは、執行部はその席に着き、出席評議員の氏名を点呼する。

第３条　会議の開閉

１．議長は、前条による氏名点呼の結果、定足数に達していることを確認したときは、開会を宣言する。

２．会議の閉会は議長が宣言する。

第４条　欠席の届出

１．評議員が欠席しようとするときは、予め議長に委任状と共に届けなければならない。

２．評議員は、出席できないときは、その職務を代理する代理人を議長に届け出なければならない。

第２章　議　　事

第５条　議題の宣言

議長は、会議に付する案件を議題とするときは、その旨を宣言する。

第６条　一括議題

議長は、必要があると認められるときは、２件以上の案件を一括して議題とすることができる。

第７条　案件の説明と質問

会議に付する案件は会議において提出者の説明を聞き、質問がある時は質問を行わせ、質問が終わった時は討論に付しその終結の後、表決に付する。

第８条　議決案件の条項、字句及び数字等の整理

評議員会は、議決の結果生じた条項、字句、数字、その他の整理については議長に委任することができる。

第３章　発　　言

第９条　発言の許可等

１．評議員が発言しようとするときは、挙手により議長を呼び自己の地区名と姓名を告げ、議長の許可を得なければならない。

２．２人以上の挙手により発言を求めたときは、議長は先に挙手をした者と認めた者を指名して発言させる。

３．評議員の発言は、すべて議長に向かってこれをなさなければならない。

第10条　発言内容

１．発言はすべて簡明を旨とし、重複を避け、議題外にわたり又はその範囲を超えてはならない。

２．議長は、その発言が前項の規定に反すると認めるときは注意をし、なお従わないときは発言を禁止することができる。

３．評議員は、議題になっている案件に限り、質問をすることができる。

第11条　発言時間

１．議長は、必要があると認めたときは予め発言時間を定めることができる。

２．前項により、発言時間の定めをした場合に、評議員の発言がその予定時間を超えたときは、議長は注意し、又は発言の中止を命ずることができる。

第12条　議事進行に関する発言

１．議事進行に関する発言は、議題に直接関係あるものについて、又は議事進行上の問題について、質問し、注意し、又は希望を述べるものでなければならない。

２．議事進行の発言が、その趣旨に反すると認めるときは、議長は直ちに制止しなければならない。

第13条　議長の発言及び討論

１．議長が討論しようとするときは、案件朗読後評議員席に着き代理者を議長席に着かせなければならない。

２．議長が討論したときは、その議題の表決が終わるまで議長席に復することができない。

第14条　質疑又は討論の終結

質問又は討論が終わったときは、議長はその終結を宣告する。

１．発言が尽きないときは、評議員から質疑又は討論終結の動議を提出することができる。

２．前項の動議が提出されたときは、議長は直ちに表決しなければならない。

第４章　議　　決

第15条　表決事項の宣告

議長は、議決しようとするときは、議決に付する議案又は動議の内容を宣告しなければならない。

第16条　挙手による表決

表決は、挙手により議長はその多少を認定して可否を宣告する。

第17条　修正案の採決の順序

１．修正案は、原案より先に採決しなければならない。

２．同一の議案について数個の修正案が出された場合は、議長が採決の順序を定める。その順序は原案に最も遠いものから採決する。

３．修正案がすべて否定されたときは、原案について採決しなければならない。

第５章　発議と動議

第18条　発　議

評議員会において評議員が議案を提出しようとするときは、提案理由を付し、５人以上の賛成者とともに連署して、開催日の２週間前までに会長に提出することができる。

第19条　動　議

動議は、５人以上の賛成者を得て提出することができる。

第６章　議　事　録

第20条　議事録の作成

議長は、評議員会の会期ごとに議事録を作成しなければならない。

第21条　議事録署名人

議事録は、議長及び当日議長の指名した出席評議員２名がこれに署名捺印し、これを本会に保管する。

〔附　　則〕

１．この規則は平成16年５月29日から施行する。

２．この規則は平成26年４月１日から施行する。

福岡歯科大学同窓会監査規則

第１章　総　　則

第１条　本会会則第５章第15条第８項の規定に基づいて監事が行う監査は、この規則に定めるところによる。

第２条　監査は会務運営と財産管理の全般について、その実態を正確に把握し運営の合理化と業務の改善に資すると共に過誤を防止し、財産の保全を図ることを目的とする。

第３条　監事は、前条の目的を達成するため経理の適正と財産の保全の監査を行う。

第４条　監査は、公平不偏なる態度をもって事実に基づいて行い、想像推察によって事象を判断してはならない。

第２章　監査の方法・種別及び時期

第５条　監査の方法は、書類監査と実地監査とする。

第６条　監査の種別は、定時監査と臨時監査に分かち、次の各号によることとする。

（１）定時監査は年１回、４月に行う

（２）臨時監査は必要と認めた場合

第７条　実地監査は年１回以上行うものとする。

第８条　監事は監査を実施するために役員又は事務局に対し、帳簿、諸報告書及び諸統計その他必要な資料の提出を命じ、又は事実の説明その他監査に必要な事項を要求することができる。

第９条　監査は、書類、帳簿、証拠書類等の記録に基づき、突合わせ、分析、実査、質問、立会い等必要と認める監査手段を選択適応して実施する。又、監査手段の選択適応については、その重要性、範囲、日数、効果等を勘案して決定する。

第３章　監 査 報 告

第10条　監事は、監査の都度、監査報告書を次により作成し、会長に提出するとともに、評議員会及び総会に監査の実地状況及び結果などを総括し、文書により報告するものとする。

第11条　会長は監査の結果に基づき対策及び措置を必要とするときは、速やかに理事会にはかり措置するものとする。

第12条　監事の監査報告書は、本会の運営管理全般に関し、有効な改善を計るための重要な資料とするものである。

第４章　補　　則

第13条　役員の任期満了の年の年度会計決算書の監査は、新任監事で行い、旧監事が立会いするものとする。

〔附　　則〕

１．この規則は平成16年５月29日から施行する。

２．この規則は平成26年４月１日より施行する。

福岡歯科大学同窓会財産管理及び会計規則

第１章　総　　則

第１条　趣　旨

この規則は本会会則第47条に基づいて定めるものとする。

第２条　財産管理及び会計の責任者

１．財産管理及び会計の最終責任者は、会長とする。

２．会長は、財産管理及び会計について直接的責任を会員に対して負うものとし、会計担当役員がこれを補佐する。

第３条　予算統制

本会のすべての収入及び支出は、予算に基づいて統制を行う。

第４条　予算期間

予算は単年度予算とする。

第５条　予備費の設置

１．不時の支出に充てるため予備費を設けることができる。

第６条　決算剰余金の次年度繰越

各会計年度において決算上剰余金を生じたときは、次年度に繰り越すものとする。

第２章　財産の管理

第７条　会計の資金区分

本会の会計は、次の資金区分による。

（１）一般会計資金

本会の経常的な事業活動に使用される資金

（２）積立会計資金

引当資金としての積立資金

（３）別途会計資金

別途の事業資金

第８条　会計相互間の貸借の禁止

各会計相互間の貸借を禁ずる。ただし、評議員会の承認を得た場合はこの限りではない。

第９条　運用収益金

各会計の運用収益金は、各会計に繰り入れるものとする。

第10条　寄付金品の使途

使途を決めて寄付された金品はその使途に用い、決められていないものは評議員会に諮って使途を決める。

第11条　取引銀行・有価証券・固定資産

１．次の事項は、会長が理事会の議を経て行う

（１）取引銀行の新設及び変更

（２）有価証券（電話債券を除く）の取得、売却、貸付、入質

（３）固定資産の購入、改良、売却、除去、賃借、入質

２．前項の規定にかかわらず、次の事項は評議員会の承認を要する。

（１）多額の積立金の取引銀行の新設及び変更

（２）不動産の購入、改良、売却、除去、賃借、入質

第12条　金銭の定義

１．この規則で金銭とは、現金、預金および合同運用信託をいい、現金とは通貨のほか、小切手、郵便為替証書、振替貯金証書などをいう。

２．公社債、債権などの有価証券及び手形は金銭に準ずるものとして扱う。

第13条　資金の範囲

本会において資金の範囲とは、次に掲げるものとする。

（１）第12条に規定する金銭

（２）短期間において入金或いは支払うべきことが確実な、未収、未払金等の債権債務

第14条　固定資産の定義

１．この規則で固定資産とは次に掲げるものをいう。ただし、時の経過によりその価値を減少する償却資産については、耐用年数が１年以上で１単位当たり取得価格が償却資産課税額のものをいう。

（１）有形固定資産

土地、建物（建物付属設備含む）・構築物・備品（機械装置、車両運搬具、器具含む）

（２）無形固定資産

借地権・施設利用権・電話加入権など

２．第１項の規定にかかわらず、次に掲げる資産は、会計書類上固定資産として仕訳する。

（１）長期預託を目的とした預金・合同運用信託、

長期保有を目的とした有価証券など。

第15条　固定資産の取得価格

固定資産の取得価格は次の各号による。

（1）購入によるものは、購入価格に付帯費用を加算した金額

（2）交換によるものは、交換に際し提供した物件の帳簿金額

（3）贈与によるものは、評価額

第16条　物品の定義

この規則で物品とは、事務用品等で耐用年数1ヶ月以上で、1単位当たり取得価格が5千円以上、償却資産課税額未満のものをいう。

第3章　会　　費

第17条　入会金及び年会費

正会員、準会員、勤務会員の入会金及び年会費は次のとおりとする。

1．入会金　30,000円

2．年会費　10,000円

第18条　支払方法

1．本会所定の入会金、会費並びに負担金は所属の都府県同窓会を経由して本会に支払わなければならない。但し、所属の都道府県同窓会を経由することが困難な場合には、直接本部に会費を支払うことを妨げない。

2．準会員、勤務会員は、本会所定の入会金を本会に支払わなければならない。

第4章　会費の減額及び免除

第19条　会費の免除

1．本会の会員にして、通算40年を経過し、本会則4章第9条第1項の義務を果たしているものについては、評議員会の承認を得て、その会費を全額免除する。

2．本学卒業以外の本病院所属臨床研修医は、年会費は正会員の2分の1とし、入会金は免除とする。

3．その他の特別会員・名誉会長・名誉会員は、会費、入会金は徴収しない。

4．前項のほか会員のうち特別な事情ある者に対しては、理事会の決定により、会費を減免することができる。

第5章　予算の編成と執行

第20条　予算編成

予算編成は、会長が理事会の議を経てこれを行う。

第21条　予算科目

1．予算は、収支の性質、目的に従い、款、項の科目に区別する。

2．予算科目は、事業計画との関連を明瞭に表示する名称を用いる。

第22条　予算の補正

規程予算の変更を必要とするときは、会長は理事会の議を経て予算の補正を行い、評議員会の承認を求める。

第23条　款相互間の流用の禁止

予算の執行にあたって、 各款の予算金額は、相互に流用してはならない。

第24条　予算執行上の理事会付議事項

次の事項は、会長が理事会の議を経て行い、次の評議員会で報告する。

（1）同一款内における各項の予算の流用

（2）緊急の必要にもとづく軽微なる予算の変更

第6章　決　　算

第25条　決算の作成時期

会長は、毎会計年度終了後2ヶ月以内に会計担当役員に決算書類の作成を求め、会長に提出する。

会長は理事会でこの決算書類を審議、監事の認証を得て、評議員会及び総会の承認を求める。

第7章　補　　則

第26条　委　任

この規則の施行についての必要な事項は、会長が理事会の議を経て定める。

〔附　　則〕

1．この規則は平成16年5月29日から施行する。

2．この規則は平成24年5月26日から施行する。

3．この規則は平成26年4月1日から施行する。

4．この規則は平成30年6月2日から施行する。

5．この規則は令和元年5月25日から施行する。

福岡歯科大学同窓会福祉共済規則

第１章　総　　則

第１条　この規則は、本会会則第１章第４条第２項に基づいて規定する。

第２条　本共済は、福岡歯科大学同窓会会員を以って組織し、会員相互扶助の精神に基づき、福祉厚生をはかることを目的とする。

第３条　前述の目的達成の為、次のことを行う。

弔慰金、慰労金、会員の療養、火災、天災その他、福祉厚生に関して必要な給付を行う。

第２章　給　　付

〈給付〉

第４条　給付の有無並びに支給額は理事会において決定する。

〈弔慰金〉

第５条　会員死亡に対しては弔慰金、弔花、弔電を贈る。但し５万円を上限とする。

第６条　名誉会員および特別会員の死亡に対しては弔慰金、弔花、弔電を贈る。

〈会員の療養〉

第７条　会員が入院加療の場合は次の通りとする。（入院後２ヶ月以内に都道府県同窓会会長を通して診断書を本部に提出）

イ．１ヶ月以上　　３万円

〈火災〉

第８条　火災見舞金は、次の通りとする。（火災発生後６ヶ月以内に都道府県同窓会会長を通して本部に通知）

イ．全焼又は総面積の50％以上　　３万円

ロ．総面積の50％未満　　２万円

〈天災、その他〉

第９条　水害等の天災に対する見舞金は、次の通りとする。（災害発生後６ヶ月以内に都道府県同窓会会長を通して本部に通知）

イ．全壊又は総面積の50％以上の破壊　　３万円

ロ．床上浸水又は総面積の50％未満の破壊２万円

〈会長先決〉

第10条　会長は、緊急必要事項については応急の処分をすることができる。但し、後日理事会への報告が必要である。

〈会則改正〉

第11条　本共済の規則改正は理事会の承認を経て改正される。

〔附　　則〕

１．この改正規則は、昭和59年５月より施行する。

２．この改正規則は、昭和61年５月より施行する。

３．この改正規則は、昭和63年５月より施行する。

４．この改正規則は、平成２年５月より施行する。

５．この改正規則は、平成10年５月より施行する。

６．この改正規則は、平成19年５月より施行する。

７．この規則は、平成22年５月29日より施行する。

８．この規則は、平成26年４月１日より施行する。

福岡歯科大学同窓会選挙規則

第１条　趣　旨

この規則は、本会会則第５章第14条第１項に基づいて定めるものとする。

第２条　選挙方法

選挙管理委員会が評議員会に委嘱する。

第３条　選挙管理組織

１．選挙管理委員長を同窓会会長が指名し、評議員会の承認を得る。

２．選挙管理委員長は選挙管理委員を若干指名することができる。

第４条　選挙管理委員長の任期

任期は２年とする。

第５条　選挙権

福岡歯科大学同窓会の評議員とする。

第６条　被選挙権

１．福岡歯科大学同窓会正会員とする。

２．重複立候補の禁止

候補者は会長と監事の重複立候補はできない。

３．選挙事務関係者の立候補制限

選挙管理委員長、選挙管理委員は、その在職中に候補者となることはできない。立候補する場合は、その職を辞することとする。

第７条　選挙期日

選挙管理委員会が指定する日

第８条　選挙の告示

選挙は選挙期日の２ヶ月前に選挙管理委員会が告示する。

第９条　立候補の届出

選挙の告示から１ヶ月以内に郵送かあるいは文書で選挙管理委員会に届ける。

第10条　立候補の辞退

文書を選挙管理委員会の定める期日迄に選挙管理委員会に届ける。

第11条　当選人

１．有効投票の最多数を得た者。

２．得点が同数ならば（最多数同志）決選投票とする。

３．候補者が定員数以内の場合には、投票を行わず、当該候補者をもって当選人と定める。なお、定員に足らないときには、別段の方法をとることができる。

第12条　当選人決定の告知及び告示

当選人が決定したら、選挙管理委員会は直ちに当選人の住所、氏名及び得票数、各候補者の得票数を会員に報告しなければならない。

第13条　当選の効力発生

当選人の住所、氏名の告示のあった日から生ずる。

第14条　選挙に際しては次の細則をもうける。

１．選挙運動の期間

立候補の届出より選挙の前日まで。

２．選挙運動

選挙管理委員会の指示に従う。

３．選挙立会人

候補者は選挙立会人を１人指名して、前日迄に選挙管理委員会に届け出る。

４．開票の指定及び告示

選挙管理委員会が指名及び告示する。

第15条　選挙規則の改正

選挙規則の改正は、選挙管理委員会が審議し、評議員会の承認を得るものとする。

〔附　　則〕

１．この規約は、昭和54年３月より施行する。

２．この改正規約は、昭和58年５月より施行する。

３．この改正規約は、昭和62年５月より施行する。

４．この改正規約は、平成19年５月29日より施行する。

５．この規則は、平成22年５月29日より施行する

６．この規則は、平成26年４月１日より施行する。

編集後記

日常生活はひとしく信じられないほどたわやすく一変してしまいました。新型コロナウイルス感染症。このウイルスが猛威を振いだして１年以上になります。この間、様々なイベントが中止もしくは大幅な縮小を余儀なくされ、本同窓会におきましても顔を合わせてのコミュニケーションはほぼ全滅の様相を呈しております。これまで、大学によく顔を出していただいていた先生がたも、母校に足を寄せることに二の足を踏んでいるのではないでしょうか。そのような中で、本同窓会誌「背振」は貴重な同窓生の情報源であり、コミュニケーションの場ではないかと考えます。

さて、常任理事の劉　中憲先生のもと、背振も40号の発刊となりました。イベントが次々と中止に追いやられていく中、劉先生からの様々なアイデアをもとにいろいろ工夫をさせていただきました。大学及び同窓会の最新情報を楽しんで読んでいただけましたら幸いです。

そして、次号、背振41号が発刊される令和４年は福岡歯科大学の開学50年の記念すべき年です。第１期生が昭和48年に入学して以来、半世紀を迎えたことになります。その華々しい記念の目玉でもあります50周年記念講堂も地盤工事が終わり、現在は躯体工事へと移り、日々、着々と進んでおります。背振41号の紙面は50周年の記事で埋め尽くされることでしょう。どうぞ楽しみにお待ちください。

本原稿執筆時の10月下旬は非常事態宣言が解除され、少しずつではありますが、もとの生活に戻りつつあります。このまま、新型コロナウイルス感染症がおさまり、盛大に執り行われる７月24日の記念式典では同窓生の先生がたとお目にかかれることを心より願ってやみません。

末尾になりましたが、ご多用の中、快く寄稿いただきました皆様に心よりの御礼を申し上げます。

広報委員会　副委員長
香川 豊宏（15期）

広報からのご案内

広報委員会では次年度同窓会誌『背振41号』に向けて企画中です。
つきましては、下記の通り募集しています。自薦他薦は問いませんので、是非ご一報下さい。

1．**学位取得者**　今まで取得された先生で、会誌に掲載されていない方、本学以外で取得された方等。
お知らせ頂きたい内容は下記の通りです。
①学位論文題目 ②取得年月日 ③学位専攻（所属・取得校）④学位番号（甲・乙別）⑤顔写真１枚

2．**巻頭フォト募集**　表紙の写真を募集しています。風景・植物・動物・抽象的な物、感動した物など何でも結構です。尚、その写真のコメントも一言お書き添え下さい。

3．**原稿募集**　トーク、支部報告、OB 会、個人の趣味・近況・旅行等、学会報告、結婚報告、開業報告等、何でも結構です。また、その原稿に因んだスナップ写真等も同封して頂ければ幸いです。
どしどしご応募下さい。（最後尾の原稿用紙をご利用下さい。）
※お送り頂いた写真はお返し致します。

連絡先　〒814-0193　福岡市早良区田村2-15-1　福岡歯科大学同窓会事務局まで
TEL/092-863-2966　FAX/092-863-2967　E-mail：dousoukai@cillege.fdcnet.ac.jp

『背振』　第40号

福岡歯科大学同窓会会誌　2021年12月20日発行

発行責任者　吉永　　修

編集責任者　劉　　中憲、小柳　進祐

福岡歯科大学同窓会
〒814-0193　福岡市早良区田村２丁目15-1
TEL(092)863-2966 FAX(092)863-2967
E-mail dousoukai@college.fdcnet.ac.jp
URL http://www.fdcnet.ac.jp/col/collink/alumnus/index.html

印刷所　大同印刷株式会社
〒849-0902　佐賀市久保泉町大字上和泉1848-20
TEL(0952)71-8520㈹ FAX(0952)71-8528

会誌編集委員会

広報委員会

常務理事（広報）	劉　　中憲（14期）
理事（広報委員長）	江藤ゆかり（12期）
理事（広報副委員長）	香川　豊宏（15期）
委員（広報）	後藤加寿子（21期）
委員（広報）	野上堅太郎（22期）
委員（広報）	川口　智弘（29期）
委員（広報）	廣松　　亮（32期）
委員（広報）	白本　和志（38期）
委員（広報）	田平　和久（39期）

企画情報委員会

常務理事（企画・情報）	小柳　進祐（12期）
理事（企画・情報委員長）	荻野　真介（24期）
理事（企画・情報副委員長）	田代　　剛（26期）

福岡歯科大学・福岡看護大学・福岡医療短期大学

女子学生専用寮

福岡歯科大学同窓生のご息女さまの安全・快適な学生生活をサポートいたします!!

福岡歯科大学開学時より、ご利用いただいてまいりました「田奈加荘」が 1995 年クレモンフェラン壱番館・2001 年クレモンフェラン弐番館、福岡学園女子学生専用寮を開設いたしました。

☆ クレモンフェラン壱番館 ☆ 福岡市早良区田隈 2-35-23

福岡歯科大学正門から徒歩 1 分・平成 7 年開設・簡易耐火木造 2 階建全 10 室
ワンルームマンションタイプ 8 坪・管理人住み込み・朝夕 2 食付き（土日・祭日、休暇中は除く）
*入寮費 150,000 円（毎年の更新料は無料） *寮費 74,000 円（室料 38,000 円 食費 21,000 円 共益費・設備費・管理人等 15,000 円）個室 電気・水道・ガス代金は各自負担

年払い一括割引 864,000 円（72,000 円×12 か月）

<各室設備> オートロック、内廊下、防犯シャッター付、風呂、トイレ、電磁キッチン、エアコン、ケーブル TV、WiFi 環境有

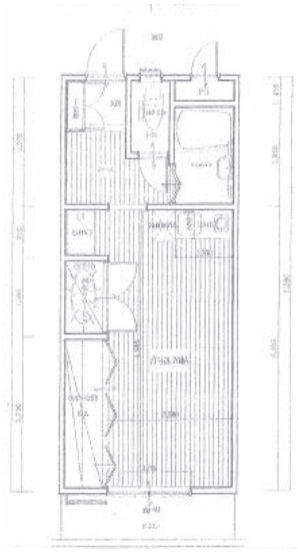
☆☆ クレモンフェラン弐番館 ☆☆ 福岡市早良区田村 2-9-35

福岡歯科大学西門から徒歩 3 分・平成 13 年開設・鉄筋コンクリート 3 階建全 20 室
ワンルームマンションタイプ 9 坪・管理人住み込み・朝夕 2 食付き（土日・祭日、休暇中は除く）
*入寮費 180,000 円（毎年の更新料は無料） *寮費 88,000 円（室料 50,000 円 食費 21,000 円 共益費・設備費・管理人費等 17,000 円 上下水道代 2,000 円）個室 電気・ガス代金は各自負担

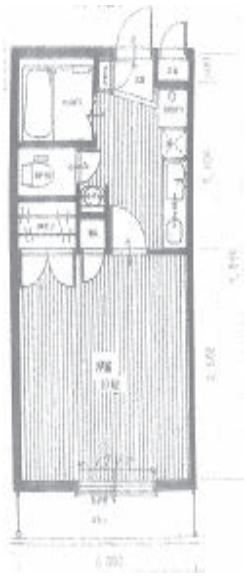
年払い一括割引 1,032,000 円（86,000 円×12 か月）

<各室設備> 指紋式オートロックシステム、防犯カメラ、防犯シャッター付、風呂、トイレ、電磁キッチン、エアコン、ケーブル TV、WiFi 環境有、宅急便受領ボックス、ポストボックス

壱番館



弐番館 A タイプ



弐番館 B タイプ

<お問合せ先>

代表 原田 紀一

福岡市早良区田村 9-35

電話 092-862-6933
FAX 092-862-6933
携帯 090-5935-9913

医師
賠償責任
補償制度

休業
補償制度

弔慰金
制度

70歳までの
収入あんしん
補償制度

ファミリー
お見舞金
制度

個人
賠償責任
補償制度

しっかりとした
安心を。

学術
講演会

傷害
補償制度

医療共済会

〒454-0011
名古屋市中川区山王1丁目7番24号 山王ビル
フリーダイヤル 0120-351153
http://www.ikyousai.jp

ホームページで
簡単!資料請求!!

医療共済会 検索

SEKIMURA

安心安全の歯科治療の為に

守る

偶発症の予防に……笑気吸入鎮静器

セデント　サイコリッチＴ－７０

濃度調節がダイヤル操作一つで行え、流量の設定もワンタッチ。疼痛の緩和や精神沈静により歯科診療時のストレスを軽減し、偶発症の発生を予防します。

■移動式モデル：660,000円

医療機器承認番号:21000BZZ00610000
クラス分類:クラスⅢ（高度管理医療機器・特定保守管理医療機器）
製造販売元:株式会社セキムラ

診る

バイタルサインの把握に……生体情報モニタ

バイタルセンサＳ－ＤＶＢ/Ｓ－ＤＶ

血圧・脈拍・SpO_2・RPP・心電図等の測定機能をコンパクトなボディに凝縮。急激な脈変動を検知し、血圧測定を自動的に開始するRPT機能を搭載しています。

■バイタルセンサＳ－ＤＶＢ　：615,000円
　バイタルセンサＳ－ＤＶ　　：850,000円

医療機器承認番号:22300BZX00135000
クラス分類:クラスⅡ（管理医療機器・特定保守管理医療機器）
製造販売元:株式会社エー・アンド・デイ

お問合せは…
フリーダイヤル 0120-106-418

明日の医療に奉仕する
株式会社セキムラ

本社/〒174-0056 東京都板橋区志村1-28-1　本社☎03(3966)7736　大阪営業所☎06(6308)1173　福岡営業所☎092(432)0770　札幌営業所☎011(622)7532
E-mail:sedent@sedent.co.jp　URL http://www.sedent.co.jp

aishi.jp

AISHI DENTAL LABORATORY

時代のニーズに合わせて
ひとつひとつのオーダーメイド製品である補綴物の質を高め
患者さまと歯科医院さまにより大きなご満足をお届けできるよう
自らを成長させ続けていきます

SMILEONE除菌シリーズ

動画配信サービス
愛歯WEBセミナー配信中

補綴物の特徴や取り扱い注意点、調整や研磨方法等
短時間のわかりやすい動画でお届けしています！

登録無料　https://aishi-online.com/

BIOHORIZONS®
SCIENCE • INNOVATION • SERVICE

products

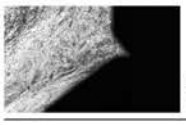
BioHorizonsインプラントは業界で最も徹底かつ
詳細な研究を通じ臨床的に証明されています。
詳しくは弊社ホームページwww.caimandental.comまで。

Tapered Family Implants

テーパードファミリーインプラント

■プラットフォームスイッチング
インプラント連結部周囲の軟組織の
量を増大させるデザイン

■Laser-Lok®ゾーン
結合組織の封鎖を作り出し、
歯槽頂骨を維持



組織画像提供:
Dr. Myron Nevins

■最適化したスレッド形状
バットレススレッドにより初期固定を
高め、骨圧縮を最大化

写真提供:
Dr. Craig Misch

Guided Surgery Kit CGS4000

ガイデッドサージェリーキットCGS4000

製造業者／バイオホライズンズインプラントシステムズ(米国)

製造販売業者／Caiman Dental 株式会社カイマンデンタル
〒102-0082
東京都千代田区一番町8番地15　一番町MYビル
TEL.03-3238-7560／FAX.03-3238-7561
http://www.caimandental.com

医療機器承認番号 22600BZX00219000 レーザーロックプロステティックコンポーネント
22700BZX00017000 テーパードプラス
22700BZX00312000 テーパードレーザーロックインプラントシステム
22900BZX00343000 ティッシュレベルインプラントシステム
23000BZX00277000 テーパードショートインプラント

医療機器認証番号 229AGBZX00003000 BHドリル
229AGBZX00080000 サージカルキットTSK4000
301AGBZX00072000 ガイデッドサージェリーキットCGS4000

オンライン資格確認の導入で

＼ 大幅に ／

受付業務を軽減！

＼ 資格過誤による ／

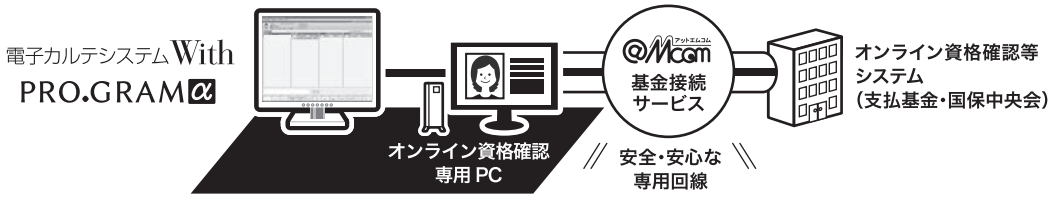
レセプト返戻を削減！

初診　新患受付時の入力作業の手間が省けて入力ミスも防止！

健康保険証でも！

マイナンバーカードでも！

再診　＼メディアの 予約システム ＋ 電子カルテ なら／ 保険資格を一括照会。患者さん毎の月初チェックが不要に！



MEDIA メディア株式会社 九州支店
〒812-0013 福岡県福岡市博多区博多駅東2-18-30 八重洲博多ビル7F Tel：092-433-6811（代）

メディア株式会社 検索
www.media-inc.co.jp

子どもたちに
誇れるしごとを。

目を輝かせて何かに没頭していた
あの頃から、私たちの
ものづくりへの気持ちは変わりません。
ずっと思い描いてきた夢や情熱を、
建造物に込めて未来へ伝えていきます。

SHIMIZU CORPORATION
清水建設

3つのスッキリで模型も綺麗に収納！

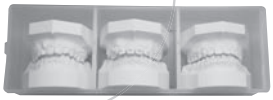
モデルボックス NK（Name シール付）

福岡歯科大学
OBドクターが発案

W274×D63×H85（外寸mm）

1 スッキリ管理

取り外し可能な仕切りがついているので
お好み整理でスッキリ!



2 スッキリ安心保管

ボックスに溝がついているので、
重ねても安定抜群で安心スッキリ!

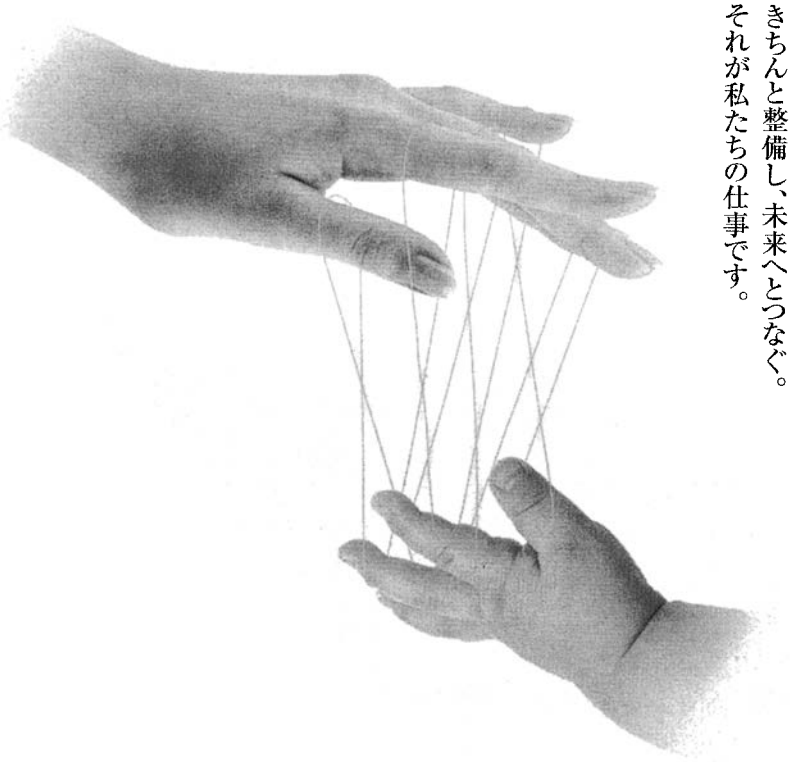
3 スッキリ収納

マウント模型も楽々スッキリ!

標準価格
10個入 No.SN600001 ￥20,000/pk (¥2,000/個)
20個入 No.SN600002 ￥35,000/pk (¥1,750/個)

販売元
株式会社バイオデント
〒116-0013 東京都荒川区西日暮里 2-33-19 ＹＤＭ日暮里ビル
TEL 03-5604-0980 FAX 03-3801-7560 営業所：大阪 / 福岡
E-mail info@biodent.co.jp http://www.biodent.co.jp/

ご注文・お問い合わせ
0120-49-0980
※携帯・PHS からもご利用になれます。



エネルギーがつくりだす
未来の環境を
あなたに。
未来を明るく
照らします。

世の中には、いろいろな電気の道が走っています。
その道をいろいろなカタチにしながら、
きちんと整備し、未来へとつなぐ。
それが私たちの仕事です。

HOT LINE OF HUMAN RELATIONS
設計・施工／電気設備工事（屋内・屋外）、空調・給排水衛生設備工事
株式会社 佐電工
本　社／佐賀市天神１丁目４番３号　0952-23-4144
福岡支店／福岡市早良区祖原21番２号　092-821-3033

Kawaryo Group

歯科用スクラップを
どうしていますか?

現在、環境問題は、地球規模となり、人々の生活に大きく関わっています。
一人一人ができること、市や国ができること、スケールは様々ですが、
企業ができることの一つとして、限りある資源を大切に
そして有効に利用していくことがあります。
このリサイクルについて、独自のシステムを開発、構築し、
環境保全や人々に喜ばれる事業を目指しています。

貴金属及び歯科用撤去冠のリサイクル

(株)KAWARYO九州

0120-920-942

HP http://www.kawaryo-q.co.jp ▶▶▶

九州本社 〒860-0052 熊本県熊本市西区田崎本町10-4
TEL 096-356-2578 / FAX 096-274-1221

福岡支社 〒812-0053 福岡県福岡市東区箱崎1-11-11-1F
TEL 092-409-2418 / FAX 092-409-2427

鹿児島営業所 〒891-0112 鹿児島県鹿児島市魚見町112-12
TEL 099-297-6938 / FAX 099-297-6935

沖縄営業所 〒901-2214 沖縄県宜野湾市我如古2-7-12
TEL 098-897-4002 / FAX 098-988-0248

Kawaryo Group Organization

(株)KAWARYO PGM 〒431-1103 静岡県浜松市西区湖東町5850-2F

ユタカ(株) 〒604-8467 京都市中京区西ノ京大炊御門町8-19

(株)ピージーエム・プラス 〒770-0006 徳島県徳島市北矢三町3-1-55

信頼・安心・真心のサポート

総合リスク産業

有限会社 ファイン

代表取締役　吉村　大二郎

〒818-0132　太宰府市国分1-13-26
TEL(092)918-1230　FAX(092)918-1231

【取扱保険会社】
・三井住友海上火災保険(株)
・三井住友海上あいおい生命保険(株)
・メットライフ生命保険(株)

リスクマネージメント業務・保険に関するコンサルティング・交通事故相談

SHOFU

since 1922 SHOFU 100 2022
100年先にも輝く笑顔を
Bright smiles for another 100 years

1本で各種被着体に対応

常温保管OK※
※1～25℃

BeautiBond Xtreme

歯科用象牙質接着材
歯科セラミックス用接着材料
歯科金属用接着材料
歯科用知覚過敏抑制材料
歯科用シーリング・コーティング材

ビューティボンド Xtreme

1セット　¥16,000
【セット内容】
ビューティボンドXtreme5.0mL、
ディスポブラシファイン(ピンク)50、
松風Vディッシュ25

管理医療機器
医療機器認証番号302AKBZX00026000

プロモーション動画はコチラ

掲載の価格は2021年9月現在の標準医院価格(消費税抜き)です。

世界の歯科医療に貢献する
株式会社 松風
●本社:〒605-0983京都市東山区福稲上高松町11・TEL(075)561-1112㈹
●支社:東京(03)3832-4366●営業所:札幌(011)232-1114/仙台(022)713-9301/名古屋(052)709-7688/京都(075)757-6968/大阪(06)6330-4182/福岡(092)472-7595
www.shofu.co.jp

1 STEP で使える PMTC&PTC用 歯面研磨材

増粘剤無配合により研磨成分がダイレクトに歯面を清掃

試用見本
（臨床試用医療機器）
提供中。
お申し込みはこちらまで

※ご提供は医療機関のみ。
1施設1セットとさせていただきます

New Products 2021.7.15

POLISHING PASTE
ポリシングペースト

1 STEP 1450ppmF / non フッ素タイプ 同時発売

一般医療機器	ポリシングペースト 1step F (1450ppmF) シャンペンソーダ風味	ポリシングペースト 1step N (non フッ素タイプ) クリアソーダ風味
届出番号	27B2X00325000002	27B2X00325000003
容量	80g	80g

製造販売元（株）ビーブランド・メディコーデンタル
本社：大阪市東淀川区西淡路 5-20-19　TEL：06-6370-4182
東京営業所：東京都千代田区神田錦町 1-14　TEL：03-3295-6926

くすりに関するご相談は「医療情報推進部」まで。
☎(03)3295－6926
土・日・祝日を除く 9：30～17：00

2021年6月作成
5E004A501

歯科総合システム　**デンタルクィーン V3**　Best Solution for Dental Clinic.

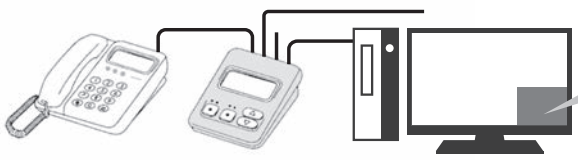
スピーディーな入力と安心のチェック機能！

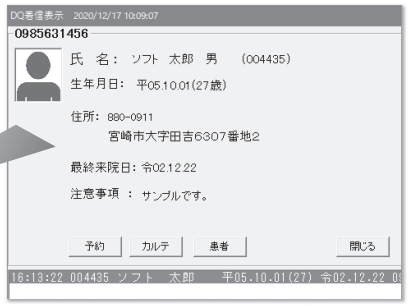
DENTALQueen V3

歯科医院業務を一元管理し、快適な医院環境作りをサポート致します。

CTI システム（Computer Telephony Integration）　OPTION

電話着信を常駐監視し、受電と同時に画面上に
患者情報を自動でポップアップ！





患者名や住所等の患者情報を確認しつつ電話対応できるため
スムーズな対応が可能となります。

株式会社 ソフトテックス

http://www.softteks.com

本 社 〒880-0911 宮崎市大字田吉 6307 番地２　TEL：0985-63-1456
福 岡 〒812-0011 福岡市博多区博多駅前４丁目４番２３号 第３岡部ビル 10F　TEL：092-436-7215
営業所 鹿児島、大阪、北陸

Imaging new visions.
ASAHIROENTGEN

SOLIO XZ MAXIM
CBCT+Pan+Ceph
販売名:ソリオ エックスシリーズ　認証番号:228AABZX00061000

■ 最大 FOV Ø90mm×90mm(H)
■ Pixel Size76μm で実現した、当社史上最高画質のセファロ画像
■ 体動の影響を防ぐ、1.0 秒以下のワンショットセファロ撮影
■ CT 撮影後に、かんたんな操作で行える、様々な CT 画像再構成機能が診断の幅を広げます

AUGE SOLIO
CBCT+Pan+Ceph
販売名:オージェソリオ シリーズ
認証番号:224AABZX00077000

■ CT・パノラマ・セファロ撮影
■ 最大FOVφ230mm×164mm(H)
■ 0.5秒ワンショットFPDセファロ撮影
■ 2.9、4.0秒CMOSセファロ撮影

インハウスCAD/CAMシステム
ceramill DNA GENERATION
by
AMANNGIRRBACH

販売名：AG セラミルシリーズ Ceramill Motion2
届出番号：26B1X10010019531

販売名：AG セラミルシリーズ Ceramill Map600
届出番号：26B1X10010019504

AG セラミルシリーズ スタンダードセット
(3D スキャナ・5 軸ミリングマシン・デザインソフトウェア・PC)

販売名：AG セラミルシリーズ Ceramill Mind
届出番号：26B1X10010019521

製造販売元　朝日レントゲン工業株式会社　http://www.asahi-xray.co.jp
〒601-8203　京都府京都市南区久世築山町376番地の3　TEL:075-921-4330　FAX:075-921-6675
※ 日本国内の各拠点の詳細につきましては、WEBサイトに掲載しております。　※ 仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

朝日レントゲンメールマガジン
最新の製品情報・展示会情報・セミナー情報等をお送りします。
登録方法：asahi@f.bmb.jp に空メールを送信してください。

その高品質
折り紙付き。

アサヒメタルアカウントシステム
LBMA、LPPMグッドデリバリーバー認定
SDGs取組実施

アサヒプリテックは、LBMA、LPPMのグッドデリバリーバーとして認定を受け、
その品質は世界のマーケットで高く評価されています。
また、お預かりした金属の分析から売却までをWeb上で安全に運用できる
「アサヒメタルアカウントシステム」の提供など、貴金属リサイクルをトータルでサポート。
歯科業界における資源循環サイクルを実現しています。

ASAHI PRETEC

アサヒプリテック株式会社
貴金属事業部／〒100-0005　東京都千代田区丸の内1-7-12サピアタワー 11F
TEL:03-6270-1820　FAX:03-6270-1825　URL:https://www.asahipretec.com/
営業所 札幌・青森・仙台・新潟・北関東・関東・横浜・甲府・静岡・名古屋・北陸・神戸・岡山・広島・四国・福岡・鹿児島・沖縄

FKG
swiss endo

HAKUSUI

新発売

RACE® EVO

レイス エボ

ニッケル チタン ファイル

超柔軟性を実現！
周期疲労破折を軽減！
切削効率をアップ！
滅菌済み！

レイス エボを使用した臨床ケース

90度を超えるような湾曲では柔軟性の高いファイルを使用しないと形成は難しい。

コールドハイドロリックコンデンセーションにて根管充填

臨床写真提供：ユーズデンタルクリニック院長 牛窪敏博 先生

医療機器認証番号 302AKBZX00094000 管理医療機器

白水貿易株式会社 福岡営業所
〒812-0013 福岡市博多区博多駅2-18-30 八重洲博多ビル5F
TEL (092) 432-4618 FAX (092) 432-4617

福岡デンタル販売株式会社
〒813-0034 福岡市東区多の津4-7-5 KNセンタービル
TEL (092) 629-1491 FAX (092) 629-1494

チラシ・カタログ・ポスターから専門書・自費出版物まで、
すぐにお見積り致します。

DAIDOU
大同印刷株式会社
〒849-0902 佐賀市久保泉町大字上和泉1848-20
http://www.daidou-jp.com
TEL(0952)71-8520
FAX(0952)71-8528

公益社団法人日本口腔インプラント学会

専修医・専門医申請のための認定講習会ご案内

■主 催　**九州インプラント研究会（ＫＩＲＧ）**

（公益社団法人日本口腔インプラント学会指定研修施設）

●日本口腔インプラント学会認定専修医・専門医受験申請資格を得るためには学会が定めた研修施設において所定の講習を受講し、その後継続して指導を受けなければなりません。ＫＩＲＧでは、そのサポートをいたします。ＫＩＲＧは受講生の皆さんに一流の講師陣によるベーシックからアドバンスまでの広範な知識と技術の修得のお手伝いをさせていただき、インプラント専門家への支援をいたします。 なお、この講習会は学会会員以外の先生方にも公開されています。一緒に勉強し、共に向上いたしましょう。　　九州インプラント研究会会長　伊東隆利

〔講習内容〕

■基礎編
- ●インプラント概説、変遷、種類材料と表面性状
- ●顎顔面口腔解剖と模型実習、口腔粘膜と骨代謝、インプラントと生体反応
- ●歯周およびインプラント周囲組織

■臨床編
- ●X線撮影法と画像診断（CT、MRI）
- ●口腔内写真の活用
- ●顎機能とインプラントの咬合理論
- ●麻酔と全身管理（検査値の読み方とモニタリング救急処置実習）
- ●インプラント治療における隣接医学の知識と高齢者、有病者への対応
- ●外科的知識と基本術式の実習
- ●歯周外科とティッシュマネージメント実習
- ●診査診断と適応症と禁忌症
- ●インフォームドコンセントと治療計画、臨床設計
- ●トップダウントリートメントと審美的上部構造と補綴設計
- ●ティッシュエンジニアリングの理論と臨床
- ●術後管理とメインテナンス（合併症とリカバリー）
- ●矯正治療におけるインプラントの役割
- ●コンピューターガイデッドサージェリィの実際
- ●難症例への対応（Sinus lift、Split crest、仮骨延長法）
- ●インプラントガイドラインと患者アンケートから学ぶもの
- ●医事紛争対策
- ●ストローマン、ノーベルバイオケア、CAMLOG、POI、CALCITEK各インプラントシステムのコンセプトと実際
- ●学会発表の方法と論文の書き方
- ●ケースカンファレンス
- ●医療安全、医療倫理 ●手術見学

※講師および内容は若干変更になる場合があります。

〔講師陣〕

■ 招待特別講師

阿部	伸一	東京歯科大学　解剖学講座	教　授
井上	孝	東京歯科大学	特任教授
井上	富雄	昭和大学歯学部　口腔生理学講座	教　授
横田	誠	九州歯科大学	名誉教授
渡邊	文彦	日本歯科大学新潟生命学部　歯科補綴学第２	教　授
矢島	安朝	東京歯科大学　口腔インプラント学講座	教　授
福田	謙一	東京歯科大学　口腔健康科学講座	教　授
湯浅	賢治	福岡歯科大学画像診断学	教　授
小宮山彌太郎		ブローネマルク・オッセオインテグレーションセンター	所　長
勝山	英明	センターオブインプラントデンティストリー	所　長
糸瀬	正通	歯科糸瀬正通医院	院　長
林	揚春	優ビル歯科医院	院　長
若松	陽子	若松法律事務所　日本口腔インプラント学会	顧問弁護士
杉山	正美	杉山歯科医院	院　長

■ 研修施設講師

＊講師および内容は若干変更になる場合があります。

			日本口腔インプラント学会
伊東	隆利	九州インプラント研究会会長	指導医
末次	恒夫	九州大学名誉教授	
香月	武	佐賀医科大学名誉教授	指導医
			日本口腔外科学会指導医
松浦	正朗	福岡歯科大学名誉教授	指導医
和泉	雄一	東京医科歯科大学歯周病学分野教授	
			日本歯周病学会指導医
松下	恭之	九州大学歯学部准教授	指導医
阿部	成善	日本口腔インプラント学会	指導医
澤瀬	隆	長崎大学歯学部口腔インプラント学分野教授	指導医
西村	正宏	鹿児島大学口腔顎顔面補綴学分野教授	指導医
堀川	秀一	日本口腔インプラント学会	専門医
飯島	俊一	東京歯科大学臨床教授	指導医
			日本補綴歯科学会指導医
森永	太	日本口腔インプラント学会	専門医
土屋	直行	日本口腔インプラント学会	専門医
武田	孝之	東京歯科大学臨床教授	専門医
			日本補綴歯科学会指導医
松井	孝道	日本口腔インプラント学会	専門医
			日本歯科麻酔学会認定医、日本歯周病学会専門医
児玉	利朗	神奈川歯科大学インプラント・歯周病学分野大学院教授	指導医
竹下	文隆	日本口腔インプラント学会	指導医
			日本歯科補綴学会指導医
竹田	博文	日本口腔インプラント学会	専門医
			日本歯周病学会専門医
田中	秀樹	日本口腔インプラント学会	専門医
			日本歯周病学会専門医
堀川	正	日本口腔インプラント学会	専門医
			日本歯科麻酔学会認定医
添島	義樹	日本口腔インプラント学会	専門医
加来	敏男	日本口腔インプラント学会	専門医
			九州大学歯科部臨床教授
原	俊浩	日本口腔インプラント学会	専門医
佐藤	隆太	日本口腔インプラント学会	専門医
永井	省二	日本口腔インプラント学会	専門医
			日本歯周病学会専門医
森永	大作	日本口腔インプラント学会	専門医
土屋嘉都彦		福岡歯科大学臨床教授	専修医
小笠原一行		日本口腔インプラント学会	専門医

■日 程

2022年度第28期生の日程は現在作成中。

4月から11月までの月1回土日開催の8回コースです。詳しくは2021年7月頃にKIRGホームページ（http://www.kirg-implant.jp/）で発表いたします。

研修修了後は KIRG 研修修了会員となり、インプラントキャリアパスを形作っていきます。現在のところ、25年間で527名の先生方が修了されています。

■定　　員 24名

■受 講 料 80万円

（申込金 10万円含む）

（器材・材料費別途15万円、消費税込み）

■ 研修会場

九州インプラント研究会研修施設

熊本市中央区桜町1-28-105 熊本デンタルフォーラム内

TEL.096-352-5976（担当：佐藤 哲夫）

お申込み先・お問い合わせ・資料請求先

九州インプラント研究会事務局

〒860-0851 熊本市中央区子飼本町4-14 伊東歯科口腔病院内

（事務局担当：相良、兼子、竹崎）

TEL 096-343-0377 FAX 096-341-1130

E-mail : kirg@itoh-dh.or.jp

URL : http://www.kirg-implant.jp/

受講料振込先

肥後銀行子飼橋支店 普通預金

店番号 154 口座番号 2072514

九州インプラント研究会 会計 相良孝治

医療法人社団
徳治会

歯科医師募集

福利厚生が充実しており、
強い財務体制を持っているため、
安心して働ける環境です。

募集要項

医療法人徳治会
リクルートサイト

給与　総支給：400,000円～1,000,000円
（新卒時400,000～）
経験年数によって変動あり

求める人材　学会での発表や講師としても活躍している歯科医師の
もとで、幅広い診療項目の深い知識と技術を身に付けたい方

福利厚生　退職金（3年勤務以上）/ 賃金規定あり/ 産前休暇（産前6週間）/ 産後休暇（産後8週間）
/ 育児休暇（生まれた日から1年間）/ 介護休暇 / 慶忌休暇 / 就業規則
/ 健康診断（全額医院にて負担）/ 時短勤務 / 人事評価制度による年2回の昇給

医療法人社団徳治会
吉永歯科医院
〒869-0521 熊本県宇城市松橋町浦川内824-8
TEL：（訪問）0964-32-5893（外来）0964-32-5801

医療法人社団徳治会
松下歯科医院 MATSUSHITA DENTAL OFFICE
〒866-0062 熊本県八代市豊原中町字南原2360-1
TEL：（訪問）0965-65-9801（外来）0965-35-1881

医療法人社団徳治会
長野歯科医院
〒861-1103 熊本県合志市野々島4787-18
TEL：（訪問）096-242-1987（外来）096-242-1891

「福岡歯科大学同窓生名簿」登録(変更)届け

フリガナ
氏　名　　(男・女)　　フリガナ 旧　姓

卒業期　　期卒　　所属地区名

名簿冊子上に掲載しない箇所には✓を入れてください

①自宅	住　所	〒	県	
	Tel 番号			
	Fax 番号			
②勤務先	住　所	〒	県	
	勤務先名	開業・勤務医・教職・大学院・研修医・その他		
	Tel 番号			
	Fax 番号			
フリガナ E-Mail		※フリガナ：例えば）i「アイ」・数字の１「イチ」　英字 o「オー」・数字の 0「ゼロ」		
メールマガジン		1.新規希望　2.希望しない　3.登録済み　4.解除したい		
郵送物送り先		①自宅　・　②勤務先　・　③帰省先		

以下は名簿に記載されません。住所等が不明になった際に郵便物を送ることがあります。

③帰省先	住　所	〒	県
	Tel 番号		
	Fax 番号		
所属クラブ			

Fax 092-863-2967／dousoukai@co丨丨ege.fdcnet.ac.jp

★同窓会事務局(本館7F)までに返送ください！

福岡歯科大学同窓会誌用原稿用紙

FAX 092-863-2967

縦書用　22字×20行

福岡歯科大学同窓会

- **同窓会の入会金と年会費**：入会金 3 万円、年会費 1 万円
  同窓会誌・名簿等の刊行物の発送は同窓会会費の支払いが、3年以上未納が続いた場合は停止されます。また、学術講演会・セミナーの参加も会員外の参加費となりますので、同窓会費の納入（年会費1万円）をお願いします。

- **終身会費制度**：通算 40 年を経過して会費納入がなされた会員に対しては、以後の会費は免除される制度です。できるだけ、滞納なくお支払いされる事をお勧めします。

- **住所・氏名等の変更届け**：用紙にご記入の上ファックス等でお送り下さい。

- **地区同窓会（支部）へ参加しましょう。**
  地元の地区同窓会の活動は身近で、同窓生同士で共に理解することができ、同窓会という横の繋がりが地域活動の中では時には、非常に有り難いものがあります。出来るだけ地元の地区同窓会に参加し親交を深めて頂きたいと思います。現在、地区同窓会（支部）において、本部会費を一括して納入する制度を導入する地区同窓会（支部）も増加し、会員把握を含め同窓会の活性化に繋がっております。本部会費の地区同窓会による一括納入に関しましては、所属地区同窓会の担当の先生へお問い合せ下さい。

ご不明な点は、同窓会事務局までお問い合せ下さい。(TEL092-863-2966 Fax092-863-2967)

「福岡歯科大学同窓会における個人情報の取扱」

○ 同窓会事務局に登録される皆様の情報は、氏名／卒業年（期）／自宅住所／自宅電話番号／勤務先／勤務先電話番号です。また、勤務先などが定まっていない若い卒業生においては、帰省先の登録が行われています。その他にメールアドレス、元所属クラブ等といったことが登録されています。

○ 収集した個人情報は、同窓生名簿の作成や同窓会会誌発送時の宛名出力など同窓会活動の付帯業務に使用する事を目的としており、それ以外には利用については、各種委員会並びに同窓会役員会との協議の上、やむ得ない事由に限定して利用いたします。

○ 提供先は、同窓会会員（在校生を含む）、福岡歯科大学現・旧職員や広告主とし、原則としてそれ以外に頒布いたしません。尚、広告主様につきましても個人情報保護の観点から、慎重な取り扱いを協定いたします。

○ 収集した個人情報を第三者へ委託並びに再委託する場合は、各種委員会にて委託業者等に守秘義務履行を基本に選定し、理事会において決定致します。

○ 収集した個人情報について、委託先も含め、機密保護には万全をつくします。

○ ご自分の情報は、任意です。ただし提供されない場合は、同窓会から各種案内（会誌、大学広報誌、学術案内、同期会等）が出来なくなる場合があります。また、同窓会名簿にも氏名のみの掲載となります。

○ ご自分の情報を照会したい場合は、同窓会事務局までご連絡ください。ご本人であることが確認できた場合に限り開示いたします。その際、ご自分の情報の訂正または削除を希望される場合はそれに応じます。

FUKUOKA DENTAL COLLEGE
ALUMNI ASSOCIATION